

# 男女平等に関する市民意識調査 報告書

平成 22 年 3 月  
日 進 市



# 目 次

<b>I</b>	<b>調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1	調査の目的.....	1
2	調査対象.....	1
3	調査方法.....	1
4	調査期間.....	1
5	回収状況.....	1
6	調査結果の表示方法.....	1
<b>II</b>	<b>調査結果のまとめ</b> .....	<b>2</b>
1	結婚、家庭・地域生活に関する意識について .....	2
2	社会参加・参画について.....	2
3	子どもの教育について.....	3
4	男女平等、人権意識について.....	3
5	行政の取組みについて.....	4
<b>III</b>	<b>男女平等に関する市民意識調査結果</b> .....	<b>5</b>
1	回答者の属性.....	5
2	結婚、家庭・地域生活に関する意識について .....	8
3	社会参加・参画について.....	29
4	子どもの教育について.....	46
5	男女平等、人権意識について.....	51
6	行政の取組みについて.....	74

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

日進市における男女平等意識の現状を調査し、日進市男女平等推進プラン見直しのための基礎資料を得ることで、今後の施策に反映させることを目的としています。

## 2 調査対象

日進市に在住の20歳以上の男女2,000人を対象に無作為に抽出しました。

## 3 調査方法

郵送配布、郵送回収

## 4 調査期間

平成21年6月～7月

## 5 回収状況

配付数	有効回収数	有効回収率
2,000通	1,011通	50.6%

## 6 調査結果の表示方法

- ・基数となるべき実数は、N値として表示しています。比率はN値を100.0%として算出しています。  
なお、N値の全体数は、無回答を含むため、内訳の合計と一致しない場合があります。
- ・集計結果の%表示は、小数点以下第2位を四捨五入してありますので、内訳の合計がちょうど100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になります。そのため、すべての比率の合計が100.0%を超えています。
- ・クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。  
なお、クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。
- ・クロス集計した項目については、独立した（と仮定できる）カテゴリーの特性が、それぞれ差があるかどうかについて、構成比（または平均値）をもとに検定を行いました。（有意水準は5%）  
検定の結果、有意差がある場合は、数値の大きい方に相手のカテゴリー番号を数値の下段に表示し、文中では「検定結果をみると」で説明をしています。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを■、次いで高い割合のものを■で網かけをしています。（無回答を除く）

## Ⅱ 調査結果のまとめ

### 1 結婚、家庭・地域生活に関する意識について

- 家庭での役割分担については、『食事の支度』、『掃除・洗濯』で、全体の約9割が女性が分担していると回答しています。

夫婦の働き方別でみると、働き方に関わらず、『食事の支度』、『掃除・洗濯』『家計の管理』、『乳幼児の世話』『介護』は女性が担当している場合が多くなっています。なお、フルタイムの共働き家庭においても、女性が担当している場合が多く、「男女同じ程度に担当し、協力しあう」は2割にとどまっていることから、女性が仕事と家事・育児・介護等との両立を継続していくことの難しさを感じさせている一因となっていると思われます。

- 固定的な性別役割分担意識である『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』という考え方は、「賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた、賛成の人の割合は、全体の5割以上を占めており、特に男性では6割を超えています。

全国と比較すると、本市はこの考え方に賛成の人が多く、固定的な性別役割分担意識が根強く残っていることがうかがえます。

- 地域活動への参加状況では、『自治会・町内会活動』、『PTA・子ども会活動』が4割以上と高くなっていますが、今後の参加意向では、『自治会・町内会活動』、『PTA・子ども会活動』は1割以下と少なくなっています。しかし、この2つの活動以外の活動では、2割近くの参加意向があります。

性別年代別で見ても、60～69歳では、男女ともに『自治会・町内会活動』、『PTA・子ども会活動』以外の活動の参加意向が高く、特に男性では、3割を超えています。団塊の世代といわれるこの年代のニーズに応え、優れた能力を地域活動に活かしていくことが重要です。

- 生活の中での『仕事』『家庭生活』『地域・個人の生活』の優先度についての希望では、女性で「家庭生活を優先」、男性で「仕事と家庭生活をともに優先」が最も多く、約3割となっています。

しかし、現実では、女性は「家庭生活を優先している」が4割以上、男性では、「仕事を優先している」が3割以上となっており、希望と現実との乖離が見られます。

特に、男性の40代では、仕事を優先している人の割合が5割を超えており、家庭生活など、複数の活動をバランスよく行いたいという意識はあるものの、実際はなかなか難しい現実が見て取れます。

- 男性の家事・子育て・介護・地域活動への参加推進策としては、男性では、「夫婦や家族でのコミュニケーションをよくはかる」「働き方の見直しを行い、仕事以外の時間をより多く持つようになる」といった回答が多くなっており、男性の働き方の見直しを推進し、仕事と地域生活を両立できる環境づくりが求められていることがわかります。

### 2 社会参加・参画について

- 今後、様々な職業分野で女性が増えるほうがよいと思うかどうかについては、約7割の人が増えることに賛成しており、今後の女性の活躍が期待されていることがわかります。

一方、女性の働き方については、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び就業するのがよい」と考える人が全体の約5割を占めており、「結婚・出産にかかわらず、ずっと就業するのがよい」と考える人は、3割弱となっています。

また、『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』という考え方に賛成の人の半数以上が「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び就業するのがよい」と回答しており、固定的性別役割分担意識が、女性の働き方にも影響を及ぼしていることがうかがえます。

- 就業する理由については、平成 17 年度の意識調査と比較すると、女性では「生計の維持のため」が 2 割増加しており、経済が低迷を続ける社会情勢の中で、女性の就労の必要性が高まっている現状がうかがえます。

しかし、これまでに、働き続けたいけれど、働き続けることができなかった経験の有無を聞いたところ、女性では、3 割以上の方が、男性では 1 割の方がその経験があると答えています。

その理由としては、男性では、「健康上の理由」、「定年・リストラ」が主な理由であったのに対し、女性では、「家事分担に対する無理解」、「育児施設やサービスの不足」、「結婚や育児に対する会社の理解や制度の不足」など多岐にわたっており、女性の社会参画を進めるためには、行政、職場、家庭それぞれの分野でサポートしていく必要があることがわかります。

### 3 子どもの教育について

- 『男の子は男らしく、女の子は女らしく』育てた方がよい』と考える人は全体の約 4 割、男性においては 5 割以上を占めています。また、子どもに身につけてほしい能力としては、女の子では「優しさ・思いやり」が 7 割以上と特に高くなっていますが、男の子では「決断力・行動力」「礼儀・道徳心」「優しさ・思いやり」「社会性・積極性」など、多岐にわたっており、子どもの性別によって、身につけてほしいことに違いがある現状が見て取れます。

一方、学校教育の場で力を入れることでは、「関連授業を充実させる（人権尊重、自尊意識、男女のコミュニケーションなどの授業）」「生活指導や進路指導で配慮する（男女の区別なく、個性や能力重視の指導）」「男子・女子とも家庭学習の拡大を図る（家事、子育て、介護等の学習）」の割合が高く 4 割以上となっています。

### 4 男女平等、人権意識について

- 社会全体でみる男女の地位については、男性の方が優遇されていると感じる人が約 7 割を占めており、特に女性の 30～49 歳で、その意識が強くなっています。

各分野における男女の地位については、『職場』、『政治の場』、『社会慣習やしきたり』で男性の方が優遇されていると感じている人が多く、6 割を超えており、不平等感が強くなっています。

- 配偶者や恋人からの暴力（DV）の経験については、『大声で怒鳴られる』、『命令するような口調でものを言われたりバカにされたりする』の項目について、経験のある人は全体の約 3 割となっています。特に女性では、『医者の治療が必要となるくらいの暴力を受けた』を除いた項目で、1 割以上の方がその経験があると回答しており、DV が身近で起きています。

一方、DV の経験のある人のうち、約 4 割の方が、誰にも相談をしておらず、相談をしている人では、「友人・知人」「親や親戚などの身内」に相談をしており、公的機関の窓口を利用した人は、少なくなっています。

また、セクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメントについても、被害を受けた人は、2 割近くになっています。

このような事から、性別による差別をなくすためにも、人権尊重意識を高めるとともに、そうした行為を受けた場合に相談できる窓口の一層の周知が必要となっています。

## 5 行政の取組みについて

- 言葉の認知度については、『男女共同参画社会基本法』、『ジェンダー』では、「知っていた」と回答した人が2割以上となっています。一方で、『日進市男女平等推進条例』、『日進市男女平等推進プラン』、『ポジティブ・アクション（積極的改善措置）』では、「知らなかった」と回答した人が6割以上となっています。
- 市政に女性の意見が反映されていると感じるかについては、反映されていると感じる人は約4割、反映されていないと感じる人は2割未満となっています。

また、男性では、女性の意見が反映されていると感じる人が約5割を占めており、女性に比べ15.3ポイント高くなっていることから、男女間において、意識差がみられます。

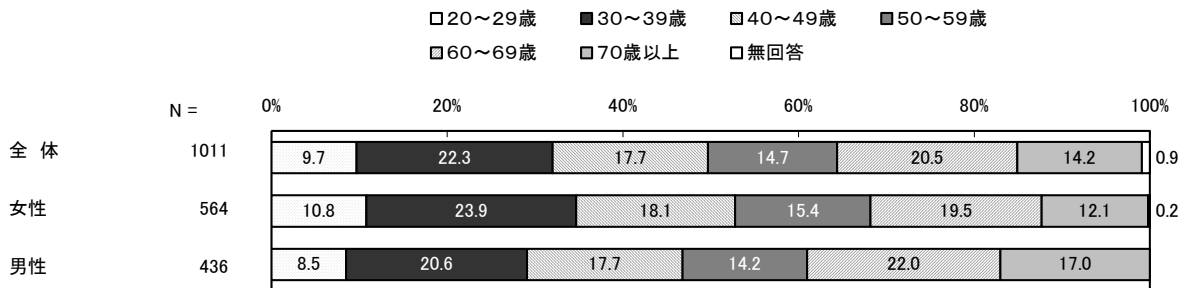
女性の意見が反映されていないと思う理由としては、「市議会や行政などの政策・方針決定の場に女性が少ないから」が約3割を占め、次いで「女性の意見や考え方に対して、行政側の関心が薄いから」、「女性自身の関心や意識が薄いから」となっています。
- 今後、行政が力を入れていくべきと思うことについては、「子育て、介護に関するサービスを充実する」が約5割を占め、次いで「女性の再就職支援など、女性の就労拡大を図る」、「労働時間の短縮など、男女がともに多様な生き方を選択できる環境を整備する」となっています。

また、女性では、「女性の再就職支援など、女性の就労拡大を図る」、「子育て、介護に関するサービスを充実する」といった回答も多く、実際に育児や介護を担っている女性にとって、そうした制度や環境の充実が切実な要望であることがうかがえます。

### Ⅲ 男女平等に関する市民意識調査結果

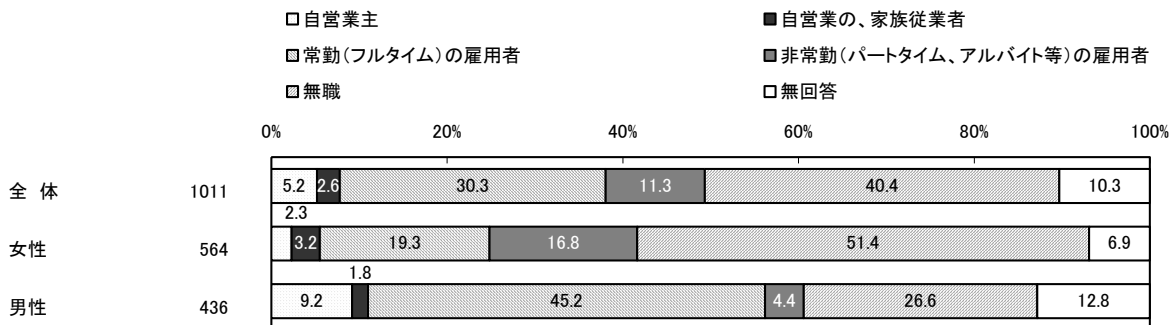
#### 1 回答者の属性

##### (1) 性別、年齢



##### (2) 職業

###### ①業種

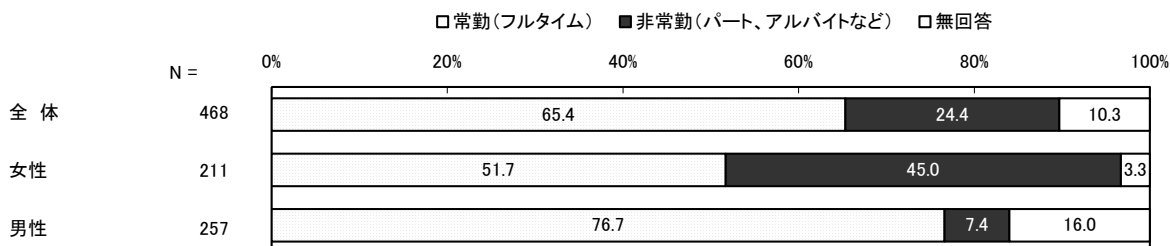


###### ②職業

単位：%

性別	有効回答数(件)	自営業主			自営業の家族従業者			雇用者				無職			
		農林漁業	商工サービス業	自由業	農林漁業	商工サービス業	自由業	管理職	専門技術職	事務職	労務職	主婦(主夫)	学生	その他	無回答
全体	1011	0.4	2.6	2.3	0.1	1.6	0.9	7.5	16.4	12.0	10.4	28.3	1.3	10.8	5.5
①女性	564	0.2	0.7	1.4	0.2	2.3	0.7	1.8	11.7	14.9	9.0	46.1	1.4	3.9	5.7
②男性	436	0.7	5.0	3.4	0.0	0.7	1.1	15.1	22.9	8.5	12.4	5.7	1.1	19.7	3.4

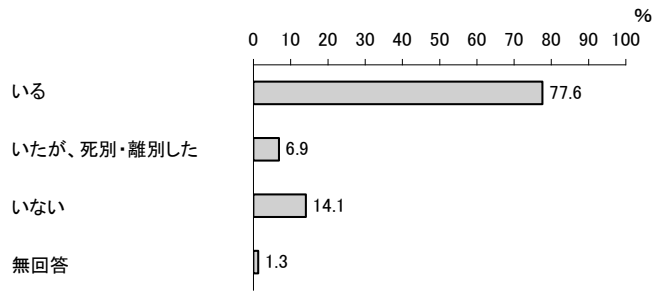
###### ③雇用者の雇用形態





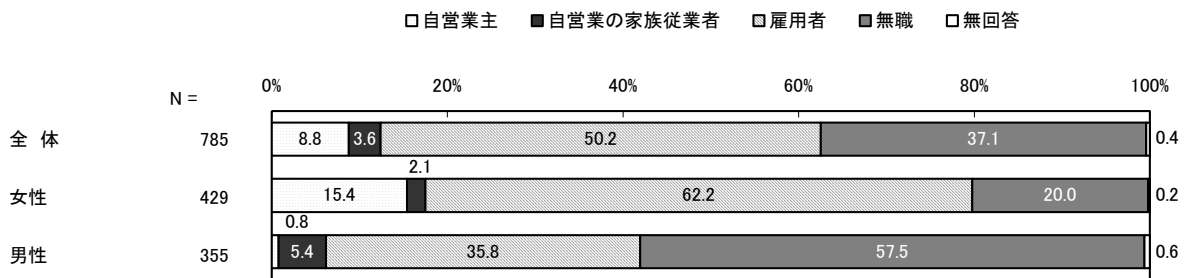
### (3) 配偶者（パートナー）の有無

N = 1011

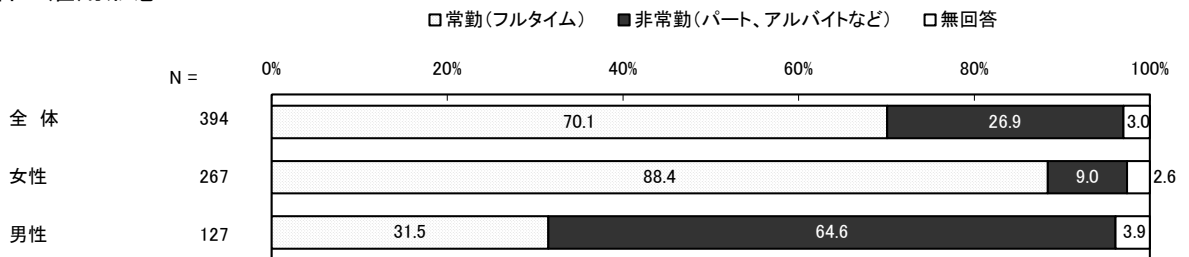


### (4) 配偶者（パートナー）の職業

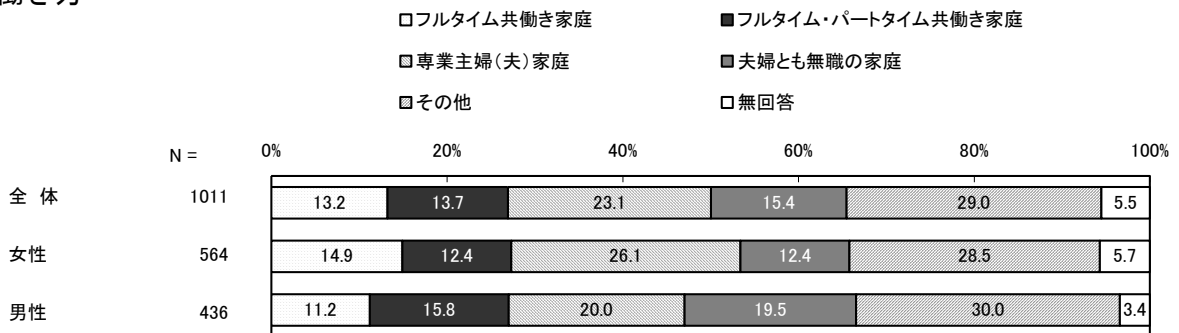
#### ①業種



#### ②雇用者の雇用形態

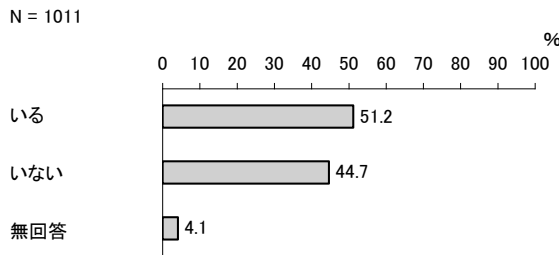


### (5) 働き方

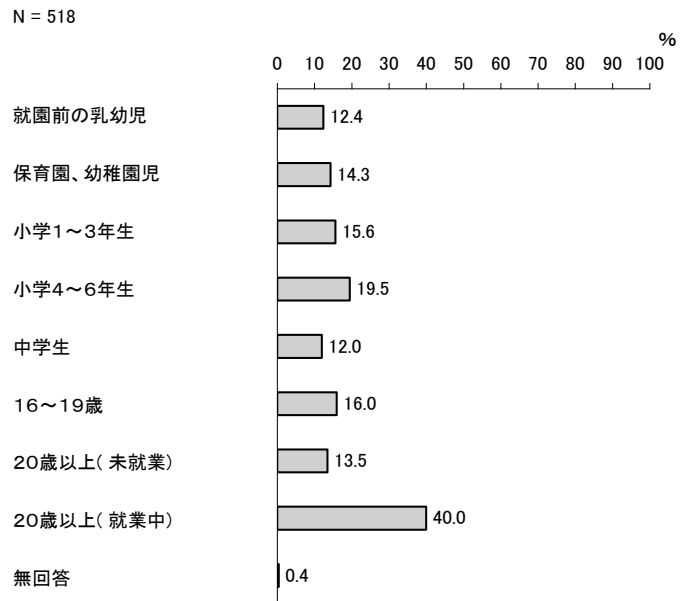


## (6) 子どもの有無

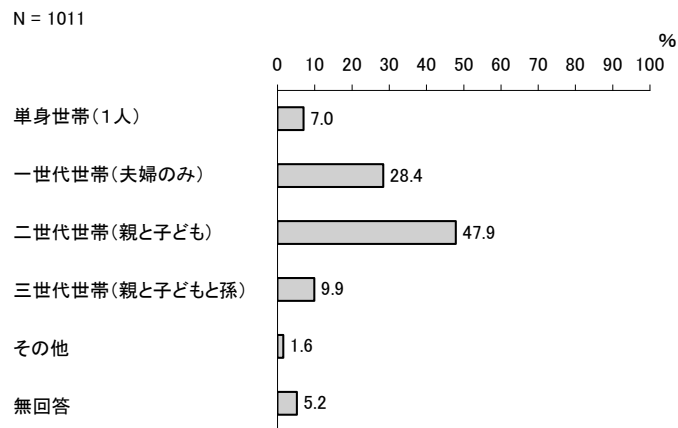
### ①未婚の子どもの有無



### ②子どもの年齢



## (7) 家族構成



## 2 結婚、家庭・地域生活に関する意識について

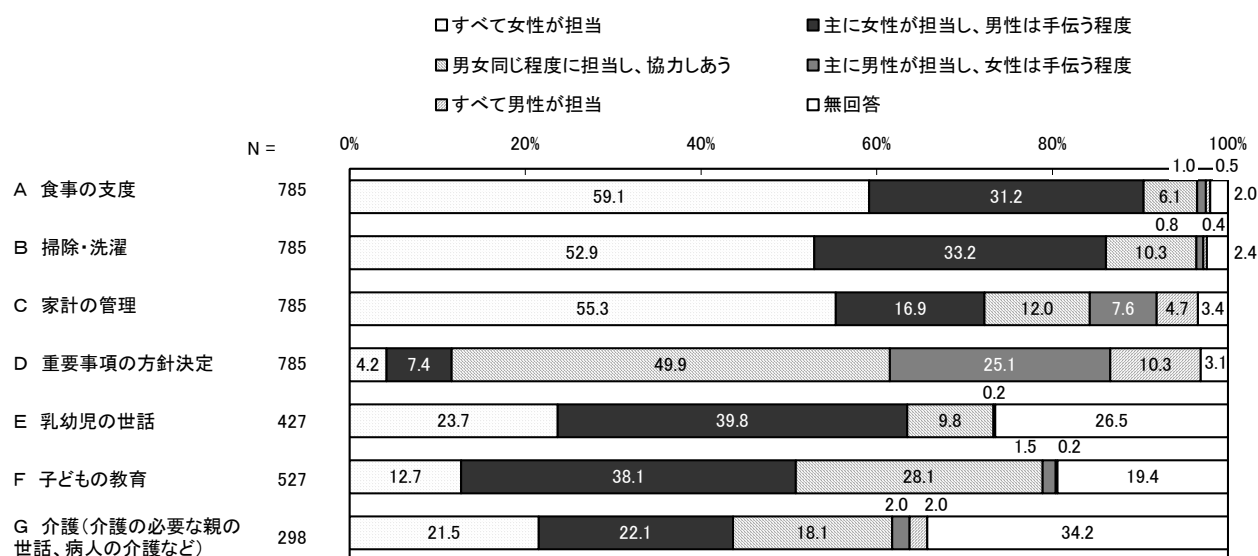
### 問1 あなたの家庭では、次にあげる家事は主に誰が分担していますか。(〇は各1つずつ)

- 家庭での役割分担については、『重要事項の方針決定』を除くすべての分野で、「女性が分担している人※」の割合が高く、『食事の支度』、『掃除・洗濯』では約9割となっています。また、『重要事項の方針決定』は「男女同じ程度に担当し、協力しあう」の割合が高く、約5割となっています。(図1)
- 女性では、『食事の支度』、『掃除・洗濯』、『家計の管理』で「すべて女性が担当」の割合が高く、5割を超えています。また、男女ともに『食事の支度』、『掃除・洗濯』、『乳幼児の世話』、『子どもの教育』、『介護』で、「男性が分担している人※」の割合は1割以下で、特に男性の『乳幼児の世話』で「男性が分担している人※」はいません。(図2)
- 検定結果をみると、女性は男性に比べ、『食事の支度』で「すべて女性が担当」の割合が高くなっています。(図2)
- 家族構成別でみると、三世帯世帯(親と子どもと孫)では、『食事の支度』、『掃除・洗濯』、『乳幼児の世話』で「女性が分担している人※」の割合が高く、9割を超えているのに対し、『食事の支度』、『乳幼児の世話』、『介護』で「男性が分担している人※」はいません。また、一世代世帯(夫婦のみ)では、『掃除・洗濯』、『家計の管理』で「男女同じ程度に担当し、協力し合う」の割合が1割を超えています。(表1)
- 働き方別でみると、『食事の支度』、『掃除・洗濯』、『家計の管理』では、働き方に関わらず、「すべて女性が担当」の割合が高くなっています。『食事の支度』、『家計の管理』、『乳幼児の世話』では、フルタイム共働き家庭で「男女同じ程度に担当し、協力しあう」の割合が1割を超えており、それ以外の項目では、2割を超えています。また、『乳幼児の世話』、『介護』では、フルタイム・パート共働き家庭で「すべて女性が担当」の割合が高くなっています。(表2)

※女性が分担している人：「すべて女性が担当」と「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」の合計

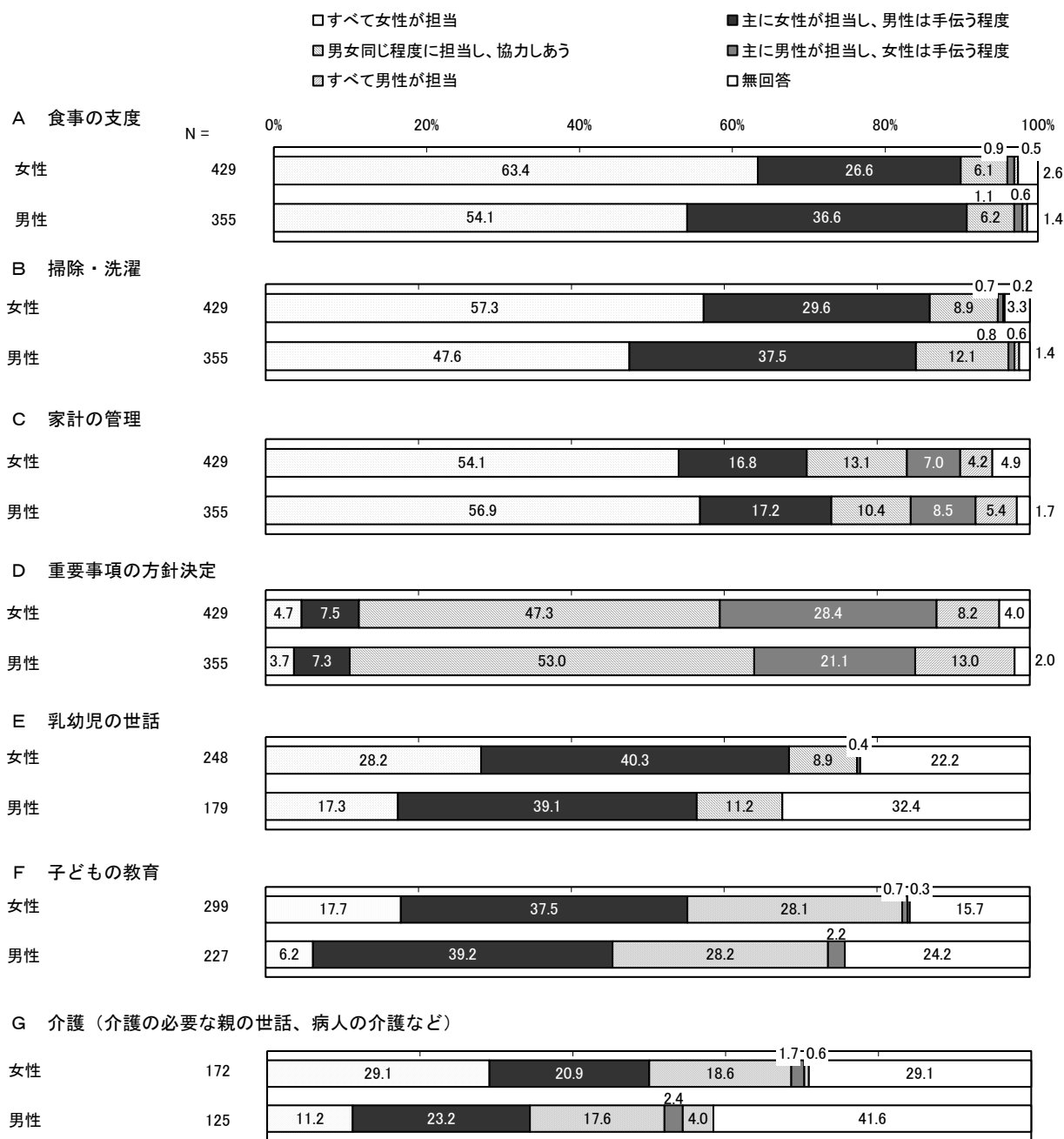
※男性が分担している人：「すべて男性が担当」と「主に男性が担当し、女性は手伝う程度」の合計

図1 家庭での役割分担



※N値は単身世帯を含まない回答数です。

図2 男女別にみた家庭での役割分担



	有効回答数(件)	すべて女性が担当	主に女性が担当し、男性は手伝う程度	男女同じ程度に担当し、協力しあう	主に男性が担当し、女性は手伝う程度	すべて男性が担当	無回答
A 食事の支度							
①女性	429	63.4	26.6	6.1	0.9	0.5	2.6
②男性	355	54.1	36.6	6.2	1.1	0.6	1.4

表1 家族構成別にみた家庭での役割分担

単位：%

	有効回答数 (件)	すべて女性が担当	主に女性が担当 し、男性は手伝う 程度	男女同じ程度に担 当し、協力しあう	主に男性が担当 し、女性は手伝う 程度	すべて男性が担当	無回答
<b>A 食事の支度</b>							
一世代世帯（夫婦のみ）	279	53.8	34.1	9.0	1.4	1.1	0.7
二世帯世帯（親と子ども）	391	62.1	31.2	4.6	0.8	0.3	1.0
三世帯世帯（親と子どもと孫）	75	72.0	20.0	6.7	-	-	1.3
その他	5	40.0	60.0	-	-	-	-
<b>B 掃除・洗濯</b>							
一世代世帯（夫婦のみ）	279	47.0	34.8	14.3	1.4	1.1	1.4
二世帯世帯（親と子ども）	391	55.2	34.0	9.0	0.5	-	1.3
三世帯世帯（親と子どもと孫）	75	64.0	26.7	6.7	-	-	2.7
その他	5	60.0	40.0	-	-	-	-
<b>C 家計の管理</b>							
一世代世帯（夫婦のみ）	279	49.1	15.4	17.2	8.2	7.2	2.9
二世帯世帯（親と子ども）	391	58.8	18.4	10.0	7.7	3.1	2.0
三世帯世帯（親と子どもと孫）	75	61.3	18.7	8.0	6.7	2.7	2.7
その他	5	60.0	20.0	-	-	20.0	-
<b>D 重要事項の方針決定</b>							
一世代世帯（夫婦のみ）	279	3.2	5.0	53.0	25.1	11.5	2.2
二世帯世帯（親と子ども）	391	4.3	9.0	48.8	26.1	10.2	1.5
三世帯世帯（親と子どもと孫）	75	1.3	9.3	56.0	24.0	5.3	4.0
その他	5	-	20.0	60.0	-	20.0	-
<b>E 乳幼児の世話</b>							
一世代世帯（夫婦のみ）	110	14.5	23.6	8.2	0.9	-	52.7
二世帯世帯（親と子ども）	248	26.2	47.2	11.7	-	-	14.9
三世帯世帯（親と子どもと孫）	43	32.6	58.1	4.7	-	-	4.7
その他	3	-	-	33.3	-	-	66.7
<b>F 子どもの教育</b>							
一世代世帯（夫婦のみ）	117	5.1	24.8	20.5	0.9	-	48.7
二世帯世帯（親と子ども）	323	15.8	42.4	31.0	1.9	0.3	8.7
三世帯世帯（親と子どもと孫）	60	13.3	50.0	31.7	1.7	-	3.3
その他	4	-	25.0	25.0	-	-	50.0
<b>G 介護（介護の必要な親の世話、病人の介護など）</b>							
一世代世帯（夫婦のみ）	99	15.2	16.2	15.2	2.0	3.0	48.5
二世帯世帯（親と子ども）	134	22.4	23.9	20.9	2.2	2.2	28.4
三世帯世帯（親と子どもと孫）	40	40.0	35.0	20.0	-	-	5.0
その他	4	25.0	-	25.0	25.0	-	25.0

表2 働き方別にみた家庭での役割分担

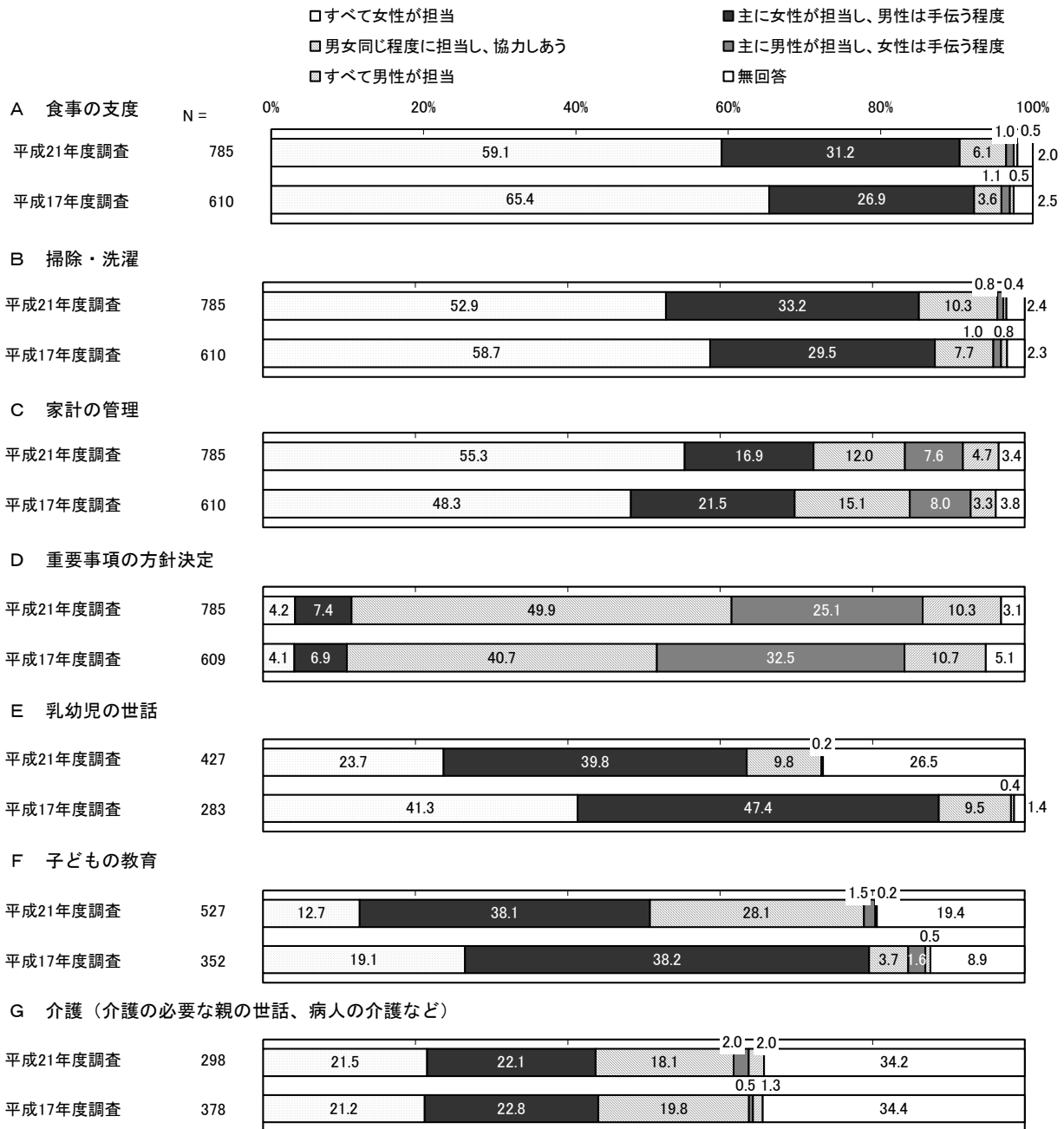
単位：%

	有効回答数 (件)	すべて女性が担当	主に女性が担当 し、男性は手伝う 程度	男女同じ程度に担 当し、協力しあう	主に男性が担当 し、女性は手伝う 程度	すべて男性が担当	無回答
<b>A 食事の支度</b>							
フルタイム共働き家庭	133	50.4	31.6	10.5	2.3	1.5	3.8
フルタイム・パートタイム共働き家庭	139	59.7	34.5	5.8	-	-	-
専業主婦（夫）家庭	234	62.4	32.1	2.1	0.9	-	2.6
夫婦とも無職の家庭	156	60.9	28.8	6.4	0.6	1.3	1.9
その他	92	62.0	29.3	7.6	1.1	-	-
<b>B 掃除・洗濯</b>							
フルタイム共働き家庭	133	39.8	29.3	24.8	2.3	-	3.8
フルタイム・パートタイム共働き家庭	139	59.0	33.1	7.2	-	0.7	-
専業主婦（夫）家庭	234	61.1	30.8	4.3	0.4	-	3.4
夫婦とも無職の家庭	156	44.2	41.0	10.3	1.3	1.3	1.9
その他	92	53.3	35.9	9.8	-	-	1.1
<b>C 家計の管理</b>							
フルタイム共働き家庭	133	51.1	18.8	14.3	6.8	5.3	3.8
フルタイム・パートタイム共働き家庭	139	59.0	19.4	10.1	5.8	4.3	1.4
専業主婦（夫）家庭	234	62.8	17.5	8.5	5.6	2.1	3.4
夫婦とも無職の家庭	156	43.6	15.4	15.4	13.5	7.7	4.5
その他	92	59.8	10.9	14.1	7.6	4.3	3.3
<b>D 重要事項の方針決定</b>							
フルタイム共働き家庭	133	3.0	5.3	54.9	27.1	6.0	3.8
フルタイム・パートタイム共働き家庭	139	5.0	8.6	55.4	20.9	10.1	-
専業主婦（夫）家庭	234	3.4	9.8	49.1	26.5	7.7	3.4
夫婦とも無職の家庭	156	3.8	3.2	46.8	25.0	16.0	5.1
その他	92	7.6	9.8	44.6	25.0	12.0	1.1
<b>E 乳幼児の世話</b>							
フルタイム共働き家庭	59	23.7	35.6	18.6	-	-	22.0
フルタイム・パートタイム共働き家庭	82	45.1	36.6	7.3	-	-	11.0
専業主婦（夫）家庭	152	19.7	56.6	10.5	-	-	13.2
夫婦とも無職の家庭	71	12.7	14.1	5.6	1.4	-	66.2
その他	44	15.9	43.2	9.1	-	-	31.8
<b>F 子どもの教育</b>							
フルタイム共働き家庭	83	12.0	33.7	38.6	1.2	-	14.5
フルタイム・パートタイム共働き家庭	114	19.3	43.9	28.1	1.8	-	7.0
専業主婦（夫）家庭	182	10.4	47.8	32.4	1.1	-	8.2
夫婦とも無職の家庭	79	6.3	13.9	17.7	3.8	1.3	57.0
その他	48	16.7	45.8	12.5	-	-	25.0
<b>G 介護（介護の必要な親の世話、病人の介護など）</b>							
フルタイム共働き家庭	41	14.6	26.8	26.8	-	2.4	29.3
フルタイム・パートタイム共働き家庭	53	32.1	26.4	17.0	1.9	1.9	20.8
専業主婦（夫）家庭	84	23.8	26.2	16.7	4.8	-	28.6
夫婦とも無職の家庭	76	19.7	10.5	19.7	-	3.9	46.1
その他	29	17.2	24.1	17.2	3.4	-	37.9

【前回調査との比較】

- 平成17年度調査と比較すると、今回の調査では、『食事の支度』、『掃除・洗濯』、『乳幼児の世話』、『子どもの教育』で、「すべて女性が担当」の割合が低くなっています。『食事の支度』、『掃除・洗濯』で、「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」の割合が高くなっています。また、『重要事項の方針決定』、『子どもの教育』で、「男女同じ程度に担当し、協力し合う」の割合が高くなっています。(図3)

図3 家庭での役割分担（平成17年度調査との比較）



**問2 あなたは、次にあげる結婚、離婚などに関する考え方について、どう思いますか。(〇は各1つつ)**

- 結婚・離婚に対する考え方については、『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』、『結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい』では、「賛成の人※」の割合が高く、5割を超えています。特に『結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい』では、「賛成」の割合が高く、約3割となっています。また、『結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない』、『結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい』では、「賛成の人※」の割合と、「反対の人※」の割合は、ほぼ同様の割合となっています。(図4)
- 女性では、『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』を除いた項目で、「賛成の人※」の割合が高くなっています。男性では『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』という項目で、「賛成の人※」の割合が6割を超えています。(図5)
- 検定結果をみると、男性では、女性に比べ『結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない』という項目で「反対」の割合が高くなっています。(図5)
- 性別年代別でみると、『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』では、女性は20～49歳までは年齢が高くなるにつれ「賛成の人※」の割合が低くなっていますが、50歳以降で「賛成の人※」の割合が高くなっており、70歳以上で「賛成」の割合が2割を超えています。また、男性は年齢が高くなるにつれ「賛成の人※」の割合が高くなっており、70歳以上では7割を超えています。(図6)
- 『結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい』では、女性は、年齢が高くなるにつれ「反対の人※」の割合が高くなっています。男性は、50歳以上で「反対」の割合が2割を超えています。『結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない』では、男女ともに、年齢が高くなるにつれ「反対の人※」の割合が高くなっており、特に女性の70歳以上、男性の50歳以上では「反対」の割合が2割を超えています。(図6)
- 『結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい』では、女性の30～39歳で「賛成の人※」の割合が6割を超えています。(図6)
- 働き方別でみると、『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』では、フルタイム共働き家庭で「反対の人※」の割合が約5割となっています。専業主婦、夫婦とも無職の家庭では、「賛成の人※」の割合が6割を超えています。(図7)
- 『結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい』、『結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない』、『結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい』では、夫婦とも無職の家庭で「賛成の人※」の割合が低くなっています。(図7)

※賛成の人：「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計  
 ※反対の人：「反対」と「どちらかといえば反対」の合計

図4 結婚・離婚に対する考え方

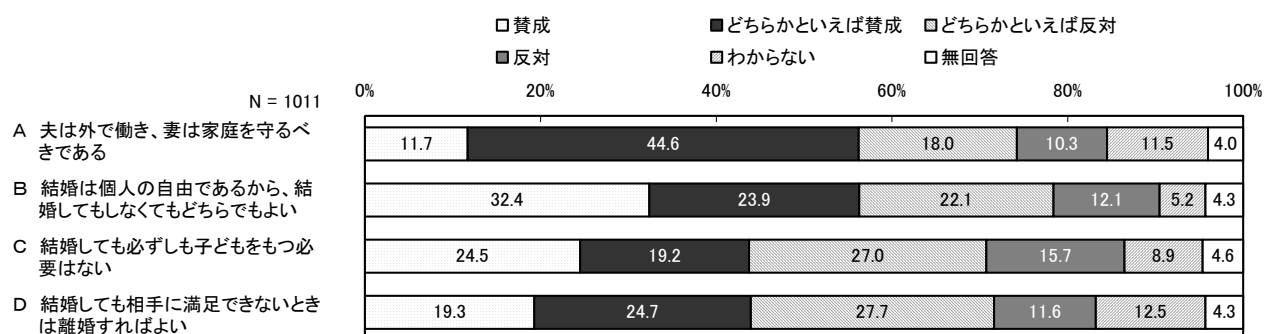
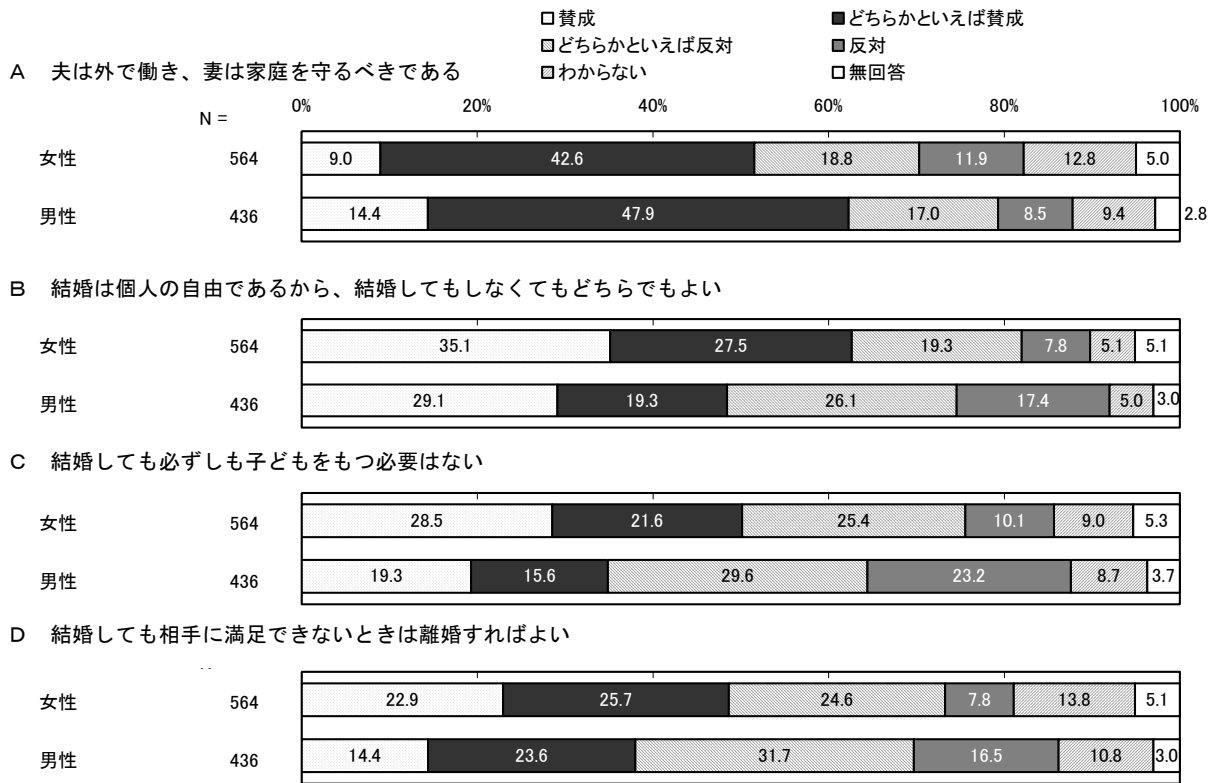




図5 男女別にみた結婚・離婚に対する考え方

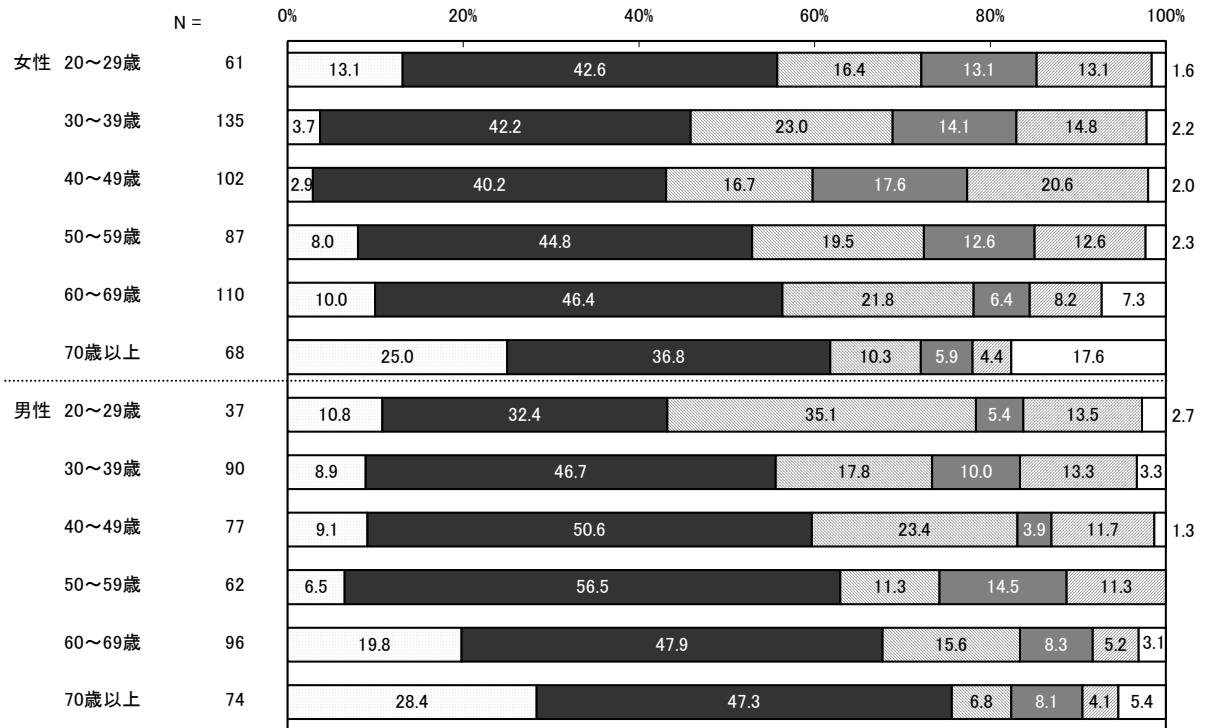


	有効回答数(件)	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない	無回答
A 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである							
①女性	564	9.0	42.6	18.8	11.9	12.8	5.0
②男性	436	14.4	47.9	17.0	8.5	9.4	2.8
B 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい							
①女性	564	35.1	27.5	19.3	7.8	5.1	5.1
②男性	436	29.1	19.3	26.1	17.4	5.0	3.0
C 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない							
①女性	564	28.5	21.6	25.4	10.1	9.0	5.3
②男性	436	19.3	15.6	29.6	23.2	8.7	3.7
D 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい							
①女性	564	22.9	25.7	24.6	7.8	13.8	5.1
②男性	436	14.4	23.6	31.7	16.5	10.8	3.0

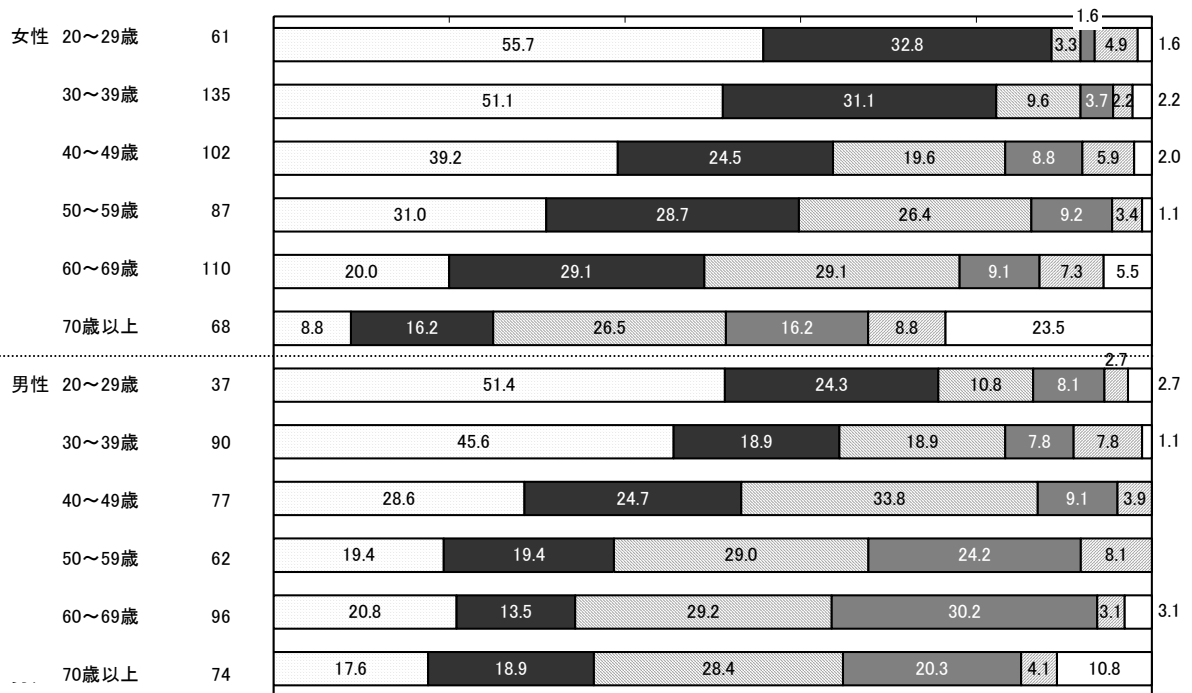
図6 性別年代別にみた結婚・離婚に対する考え方

□賛成  
 ■どちらかといえば賛成  
 ▨どちらかといえば反対  
 ■反対  
 □わからない  
 □無回答

A 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

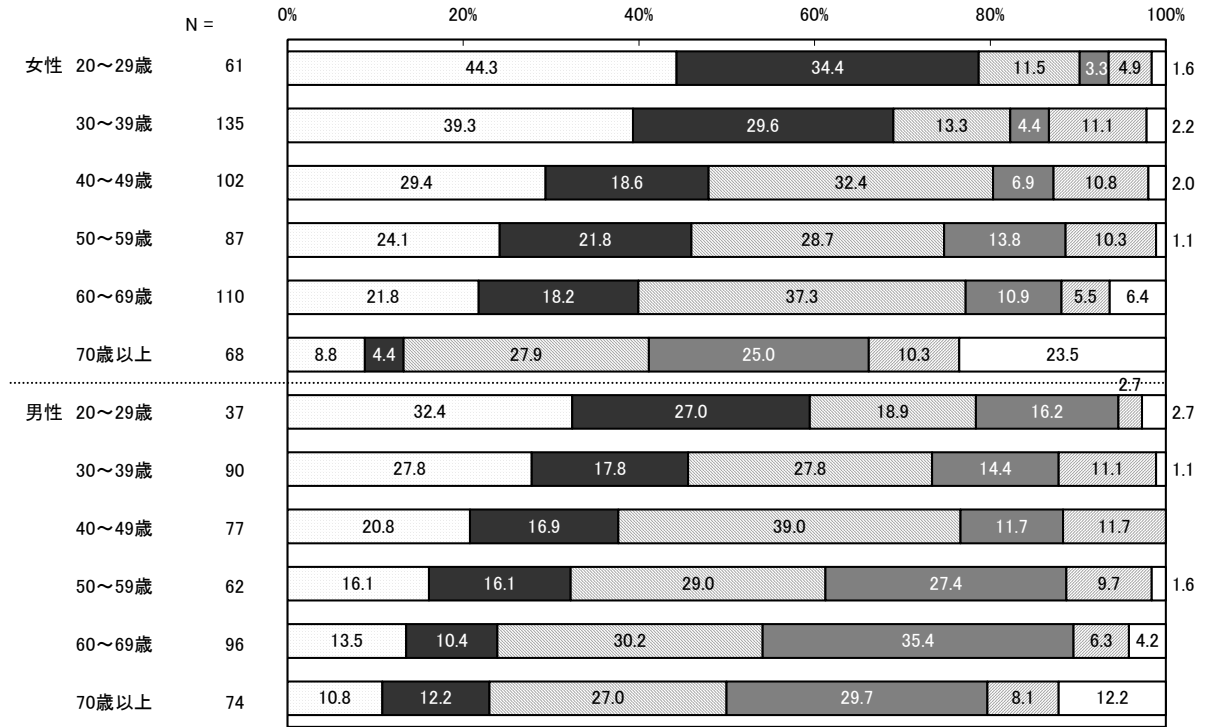


B 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい



□賛成  
 ■どちらかといえば賛成  
 □どちらかといえば反対  
 ■反対  
 □わからない  
 ■どちらかといえば賛成  
 ■反対  
 □無回答

C 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない



D 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい

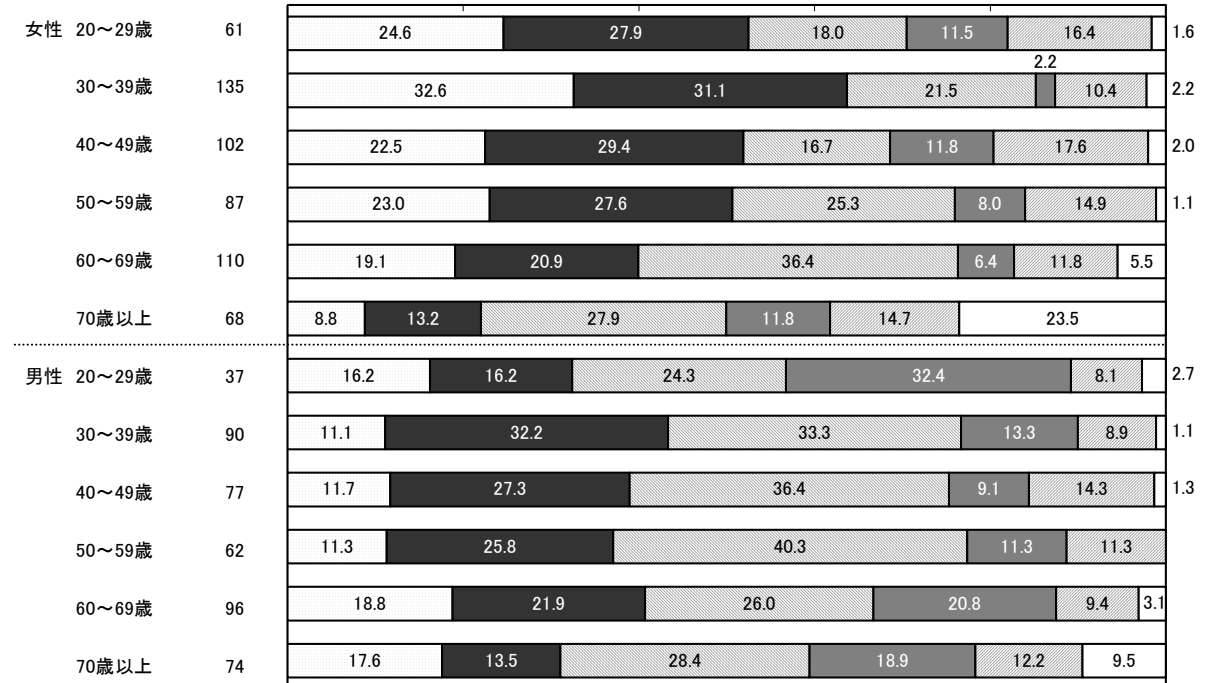
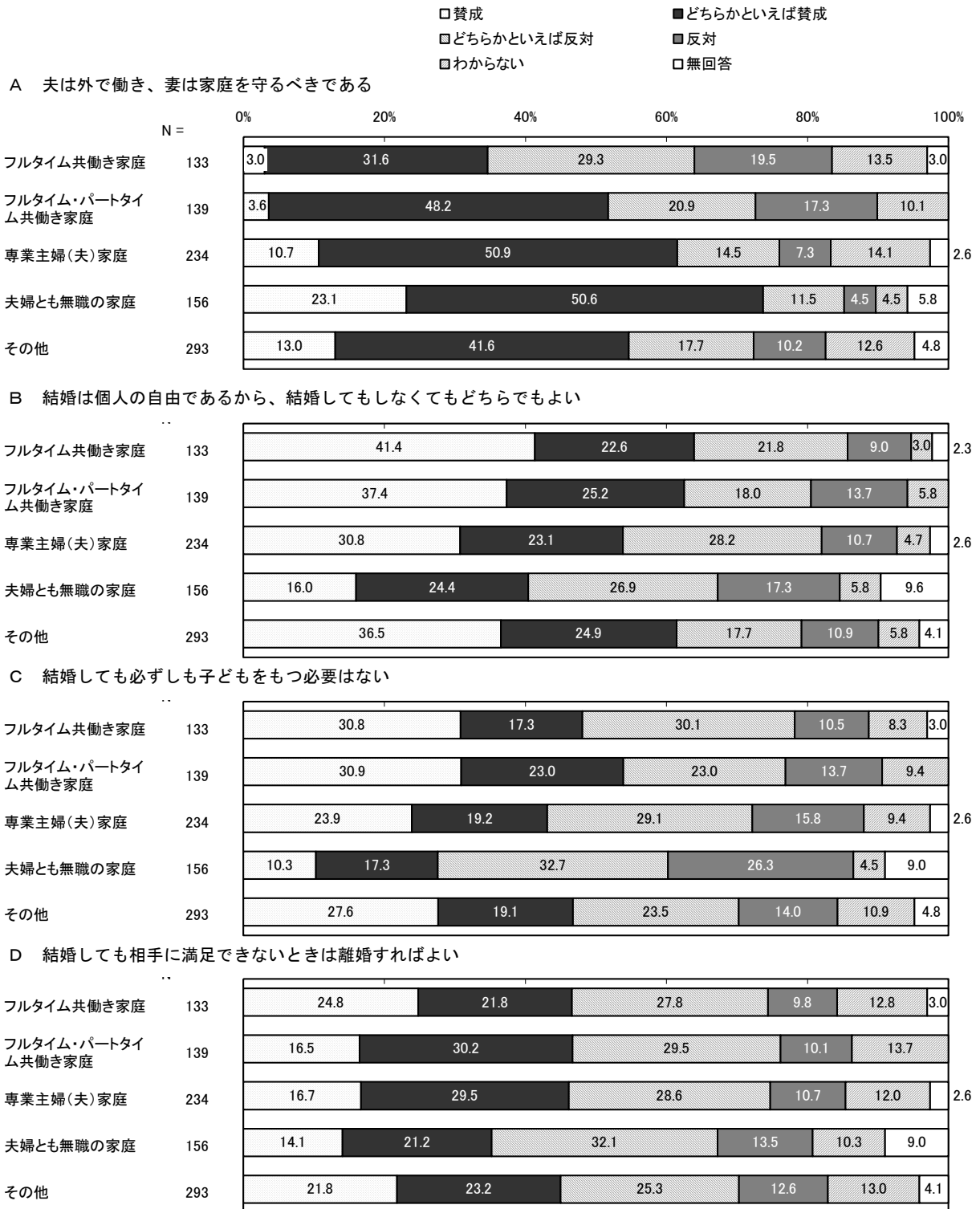


図7 働き方別にみた結婚・離婚に対する考え方

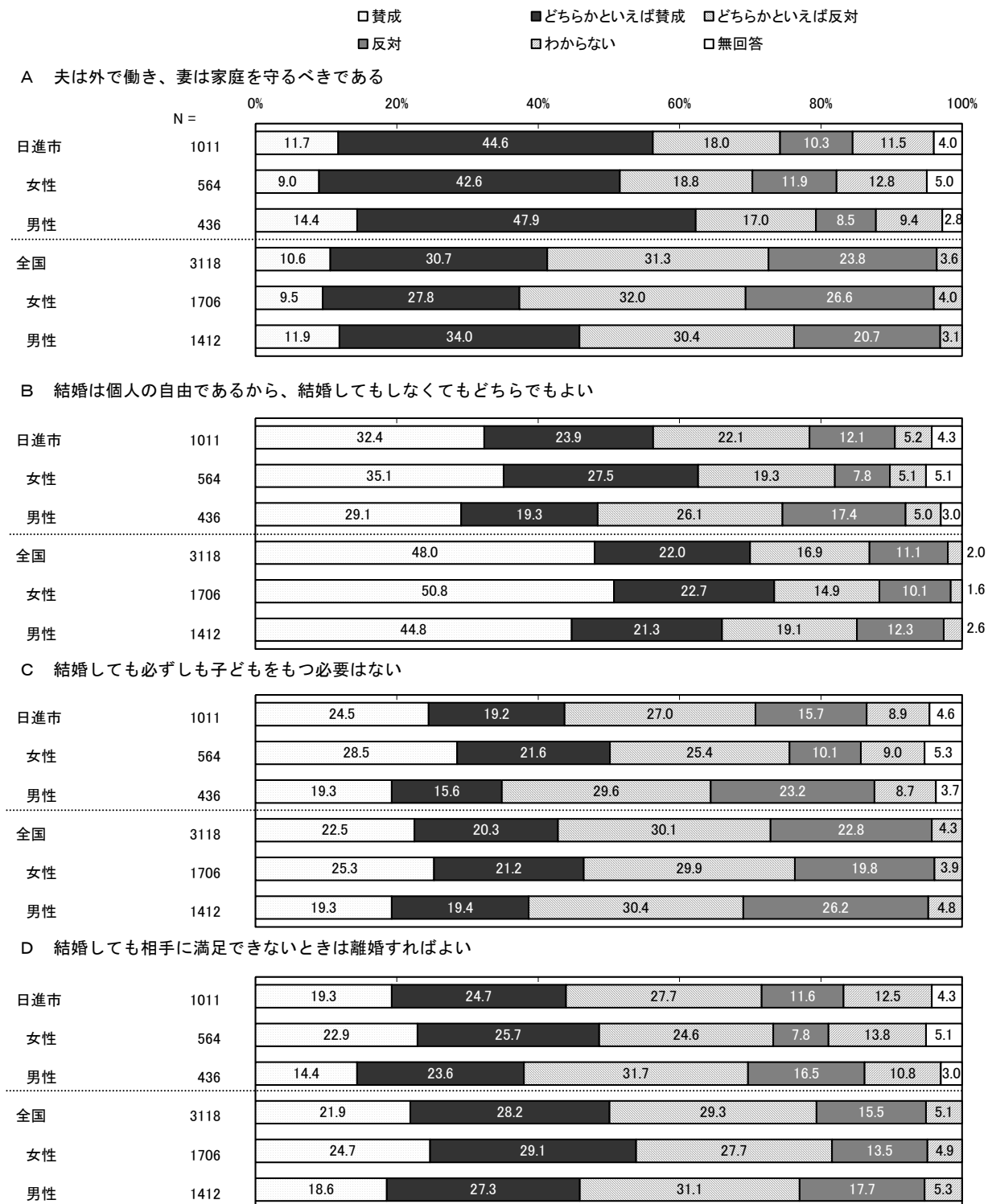


【国との比較】

- ・ 全国と比較すると、日進市では、『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』で、「賛成の人※」の割合が高くなっています。また、『結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい』では、男性で「賛成の人※」の割合が低くなっています。(図8)

※賛成の人：「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計

図8 結婚・離婚に対する考え方（全国との比較）



全国：男女共同参画社会に関する世論調査（平成21年10月）

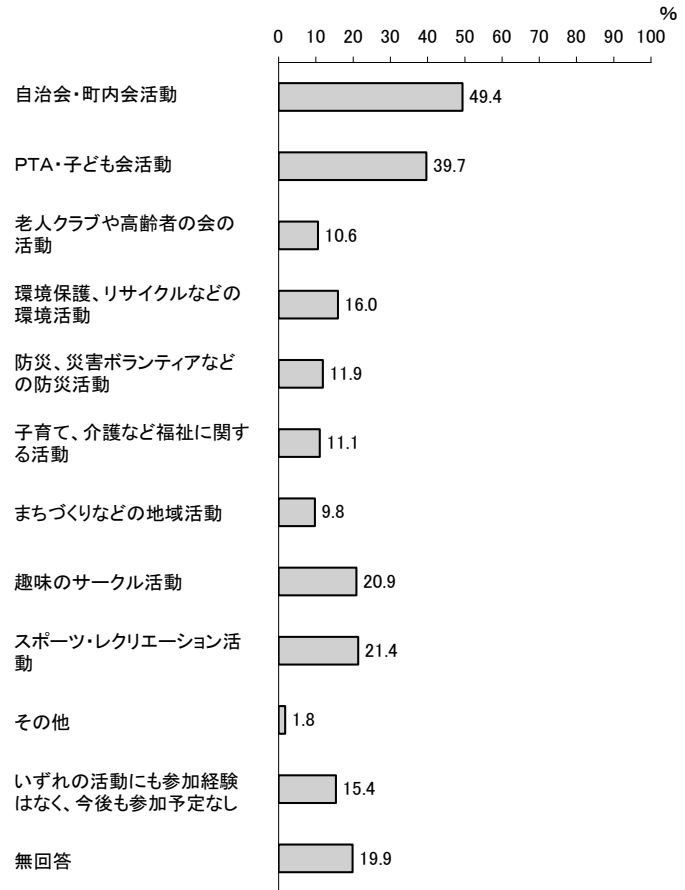
問3 あなたは、次のような地域活動に参加したことがありますか。また、今後参加したいと思う地域活動はありますか。(あてはまるものに○)

①参加している(いた)

- ・ 現在までの地域活動への参加状況については、「自治会・町内会活動」の割合が49.4%と最も高く、次いで「PTA・子ども会活動」の割合が39.7%、「スポーツ・レクリエーション活動」の割合が21.4%となっています。(図9)
- ・ 女性では、「自治会・町内会活動」、「PTA・子ども会活動」の割合が5割を超えています。男性では「自治会・町内会活動」、「PTA・子ども会活動」、「いずれの活動にも参加経験はなく、今後も参加予定なし」の割合が高くなっています。(表3)
- ・ 検定結果をみると、女性では、男性に比べ「PTA・子ども会活動」の割合が高くなっています。(表3)
- ・ 性別年代別でみると、女性の20～29歳、男性の20～29歳、30～39歳で「いずれの活動にも参加経験はなく、今後も参加予定なし」の割合が2割を超えています。また、女性の40～49歳、50～59歳、60～69歳で「PTA・子ども会活動」、「自治会・町内会活動」の割合が6割を超えています。(表3)

図9 地域活動への参加状況

N = 1011



## ②今後参加したい

- ・ 今後参加したい地域活動については、「趣味のサークル活動」の割合が25.6%と最も高く、次いで「スポーツ・レクリエーション活動」の割合が23.5%、「環境保護、リサイクルなどの環境活動」、「まちづくりなどの地域活動」の割合が21.1%となっています。(図10)
- ・ 男女とも「趣味のサークル活動」、「スポーツ・レクリエーション活動」の割合が高くなっており、男性では、「まちづくりなどの地域活動」の割合も25.5%となっています。(表3)
- ・ 女性では、「自治会・町内会活動」、「PTA・子ども会活動」の割合が1割以下となっています。(表3)
- ・ 性別年代別でみると、男性の20～29歳、30～39歳で「いずれの活動にも参加経験はなく、今後も参加予定なし」の割合が3割を超えています。(表3)
- ・ 女性の20～29歳では、地域活動への参加意向が高く、特に「趣味のサークル活動」、「子育て、介護など福祉に関する活動」の割合が4割を超えています。また、男女とも60～69歳では、「自治会・町内会活動」、「PTA・子ども会活動」を除く地域活動への参加意向が、女性で2割、男性で3割を超えています。(表3)

図10 地域活動への参加意向

N = 1011

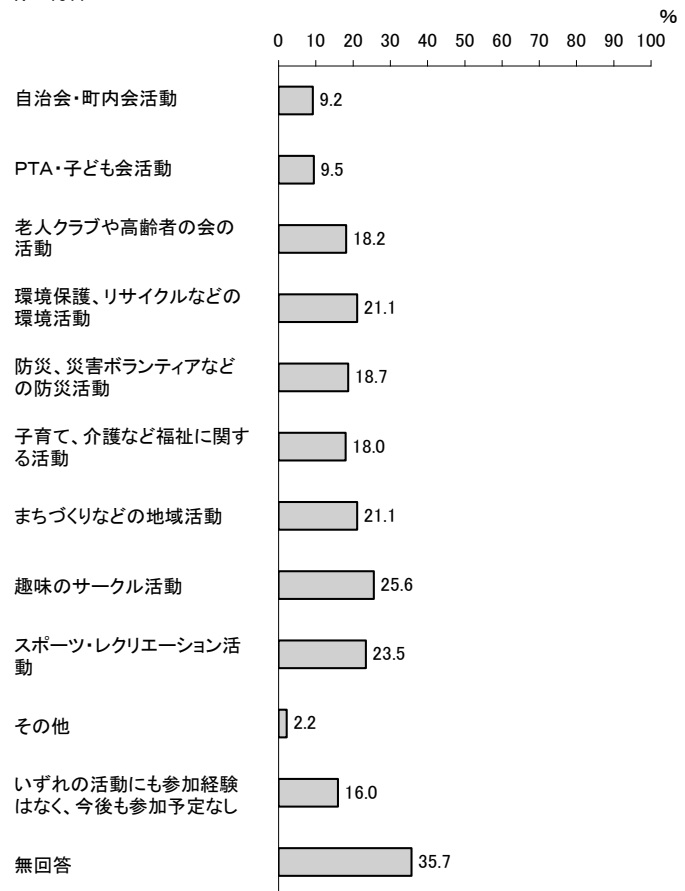


表3 男女別・性別年代別にみた地域活動への参加状況・参加意向

単位：%

		有効回答数(件)	自治会・町内会活動	P T A・子ども会活動	老人クラブや高齢者の会の活動	環境保護、リサイクルなどの環境活動	防災、災害ボランティアなどの防災活動	子育て、介護など福祉に関する活動	まちづくりなどの地域活動	趣味のサークル活動	スポーツ・レクリエーション活動	その他	いずれの活動にも参加経験はなく、今後も参加予定なし	無回答		
参加状況	性別	①女性	564	53.2	52.8 ②	10.6	17.9	12.9	13.1	9.6	25.9	25.5	1.2	11.3	17.9	
		②男性	436	44.3	22.2	10.8	13.3	10.8	7.8	9.9	14.7	16.1	2.5	20.9	22.5	
	性別年代別	女性	20～29歳	61	14.8	16.4	1.6	8.2	3.3	1.6	3.3	9.8	9.8	—	26.2	41.0
			30～39歳	135	40.7	40.7	2.2	14.8	8.1	11.9	4.4	18.5	18.5	1.5	12.6	31.1
			40～49歳	102	64.7	71.6	2.0	29.4	22.5	19.6	12.7	27.5	34.3	—	7.8	3.9
			50～59歳	87	79.3	78.2	4.6	23.0	13.8	21.8	8.0	35.6	31.0	2.3	3.4	4.6
			60～69歳	110	64.5	62.7	19.1	14.5	15.5	8.2	13.6	28.2	27.3	0.9	10.9	10.9
			70歳以上	68	44.1	32.4	42.6	14.7	11.8	13.2	16.2	36.8	30.9	2.9	11.8	20.6
		男性	20～29歳	37	8.1	13.5	5.4	8.1	2.7	2.7	2.7	8.1	16.2	—	35.1	32.4
			30～39歳	90	28.9	12.2	2.2	6.7	5.6	6.7	3.3	10.0	8.9	1.1	33.3	25.6
			40～49歳	77	51.9	32.5	2.6	13.0	18.2	7.8	7.8	13.0	14.3	3.9	15.6	22.1
			50～59歳	62	46.8	32.3	1.6	11.3	4.8	4.8	6.5	6.5	11.3	—	19.4	29.0
	60～69歳	96	59.4	22.9	11.5	14.6	13.5	10.4	17.7	17.7	20.8	2.1	11.5	20.8		
	70歳以上	74	51.4	18.9	39.2	24.3	14.9	10.8	16.2	28.4	24.3	6.8	17.6	10.8		
参加意向	性別	女性	564	7.6	6.7	19.7	19.5	16.3	20.7	17.7	26.1	21.5	2.3	12.4	38.3	
		男性	436	11.0	12.8	16.1	23.2	21.6	14.7	25.5	25.0	26.4	2.1	20.9	31.7	
	性別年代別	女性	20～29歳	61	18.0	21.3	19.7	31.1	23.0	41.0	32.8	45.9	37.7	4.9	24.6	14.8
			30～39歳	135	11.9	14.8	13.3	18.5	14.8	25.2	14.8	30.4	25.9	0.7	12.6	29.6
			40～49歳	102	3.9	1.0	23.5	10.8	12.7	11.8	12.7	21.6	17.6	2.9	8.8	49.0
			50～59歳	87	2.3	2.3	26.4	14.9	12.6	12.6	16.1	21.8	18.4	2.3	5.7	50.6
			60～69歳	110	6.4	1.8	23.6	31.8	25.5	26.4	22.7	28.2	23.6	2.7	13.6	30.9
			70歳以上	68	2.9	—	10.3	8.8	7.4	7.4	10.3	7.4	2.9	1.5	13.2	57.4
		男性	20～29歳	37	8.1	18.9	10.8	13.5	13.5	16.2	27.0	32.4	27.0	2.7	35.1	16.2
			30～39歳	90	14.4	21.1	7.8	17.8	17.8	16.7	22.2	24.4	25.6	2.2	32.2	22.2
			40～49歳	77	11.7	13.0	10.4	18.2	15.6	9.1	27.3	18.2	24.7	1.3	18.2	35.1
			50～59歳	62	9.7	8.1	17.7	24.2	22.6	16.1	25.8	30.6	33.9	1.6	19.4	25.8
	60～69歳	96	12.5	12.5	34.4	42.7	39.6	22.9	37.5	38.5	36.5	3.1	10.4	26.0		
	70歳以上	74	6.8	4.1	9.5	13.5	12.2	5.4	10.8	6.8	9.5	1.4	17.6	59.5		



問4 あなたは、生活の中で仕事、家庭生活、地域・個人の生活で何を優先しますか。  
希望、現実についてそれぞれお答えください。

①希望

- 生活の中での希望の優先順位については、『仕事』と『家庭生活』をともに優先したいの割合が25.7%と最も高く、次いで『家庭生活』を優先したいの割合が25.4%、『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』の三つとも大切にしたいの割合が20.6%となっています。(図11)
- 女性では、『家庭生活』を優先したいの割合が約3割となっています。男性では、『仕事』と『家庭生活』をともに優先したいの割合が3割を超えています。(図12)
- 性別年代別でみると、女性の30～39歳、男性の20～29歳、30～39歳、40～49歳、50～59歳で『仕事』と『家庭生活』をともに優先したいの割合が3割を超えています。(図12)

図11 生活の中での希望の優先順位

N = 1011

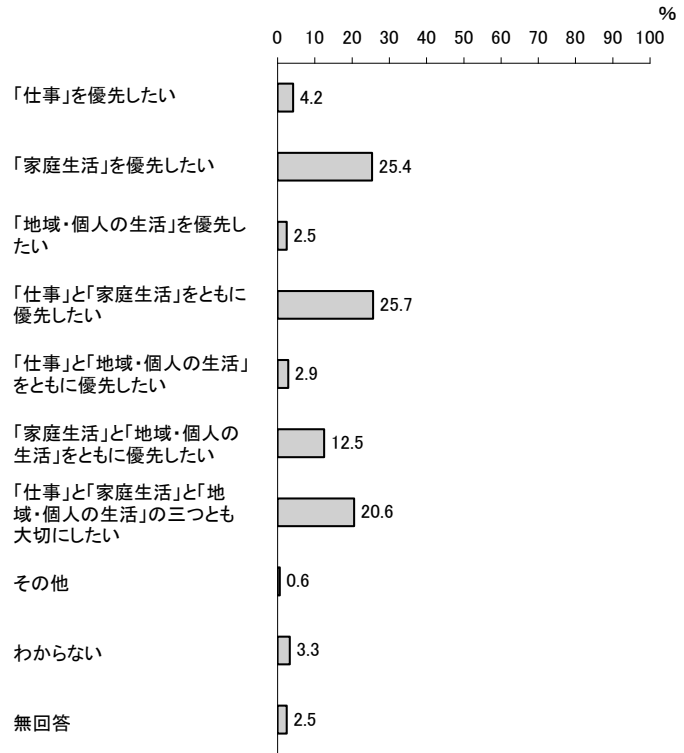
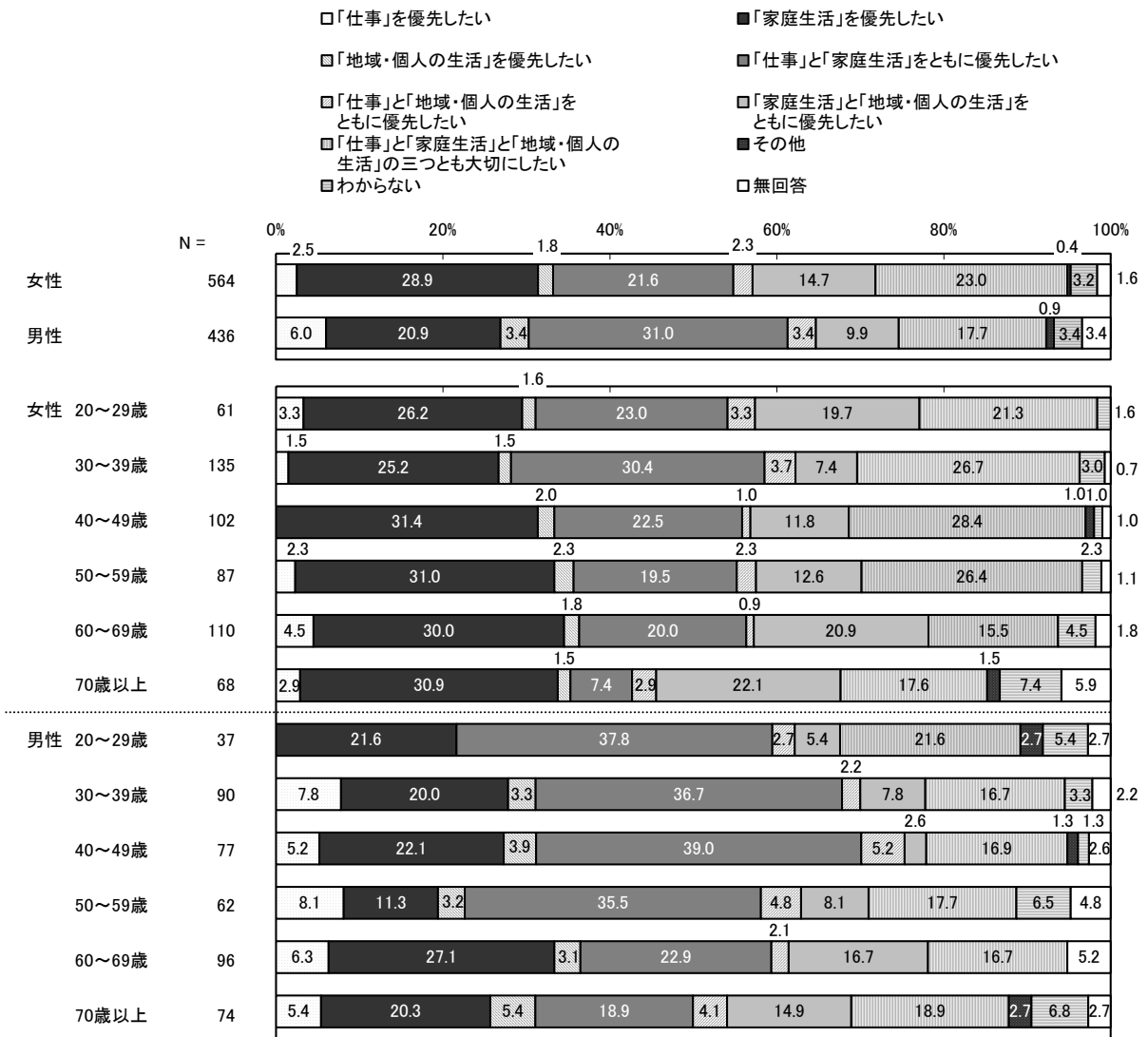
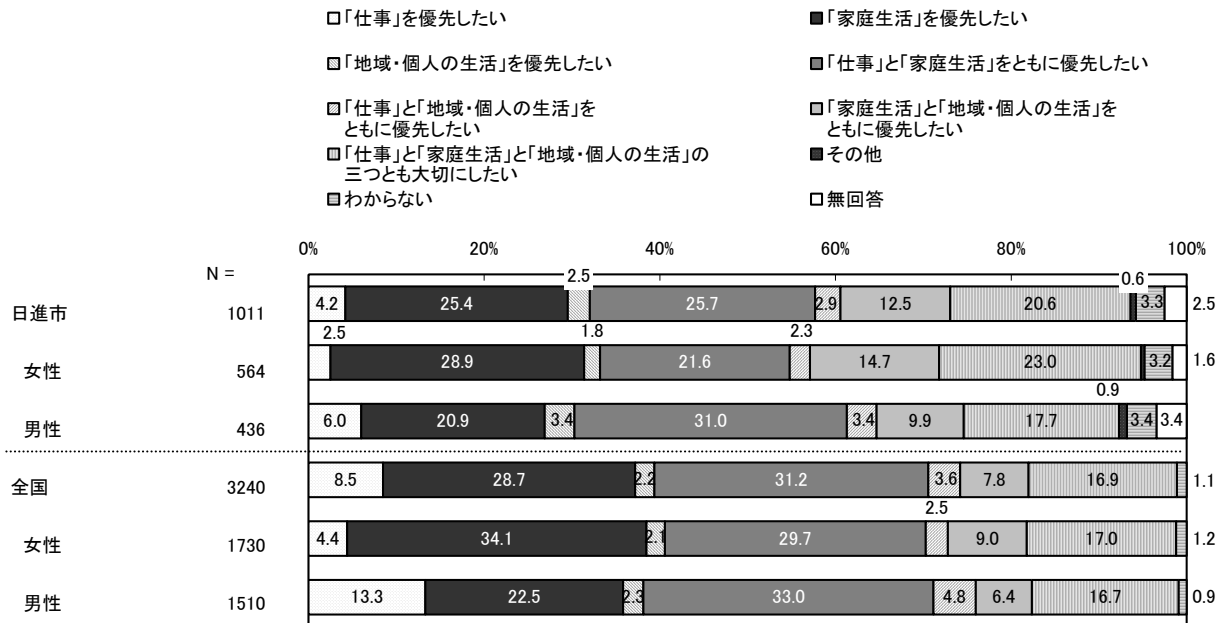


図 12 男女別・性別年代別にみた生活の中での希望の優先順位



参考) 全国との比較



全国：男女共同参画社会に関する世論調査（平成 21 年 10 月）

※国の調査には、「その他」の選択肢はありません。

## ②現実

- 生活の中での現実の優先順位については、「『家庭生活』を優先している」の割合が31.2%と最も高く、次いで「『仕事』を優先している」の割合が23.3%、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」の割合が21.8%となっています。(図13)
- 女性では、「『家庭生活』を優先している」の割合が約4割となっています。男性では、「『仕事』を優先している」の割合が3割を超えています。(図14)
- 検定結果をみると、女性では、男性に比べ「『家庭生活』を優先している」の割合が高くなっています。男性では、女性に比べ「『仕事』を優先している」の割合が高くなっています。(図14)
- 性別年代別でみると、20～29歳を除く女性のすべての年代で「『家庭生活』を優先している」の割合が高く、特に女性の30～39歳、60～69歳で約5割となっています。一方、男性の40～49歳で「『仕事』を優先している」の割合が5割を超えています。(図14)

図13 生活の中での現実の優先順位

N = 1011

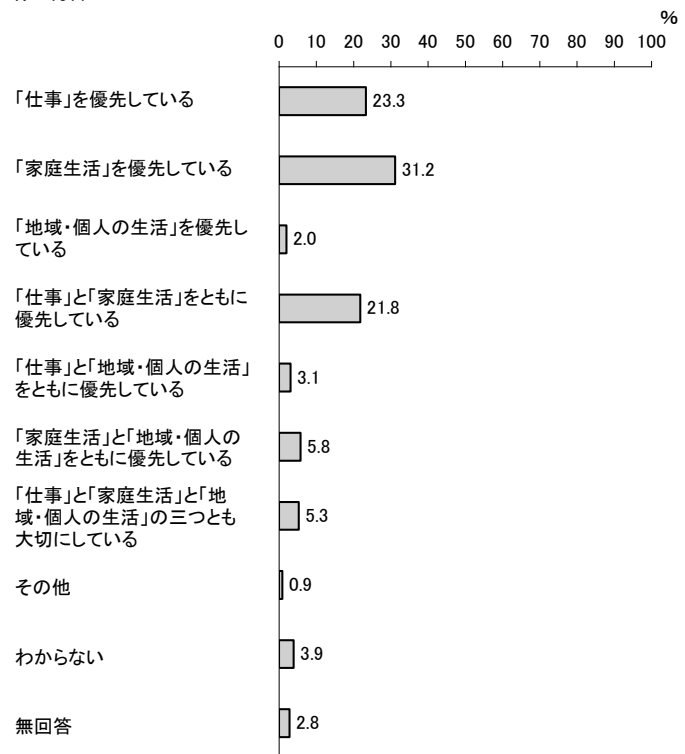
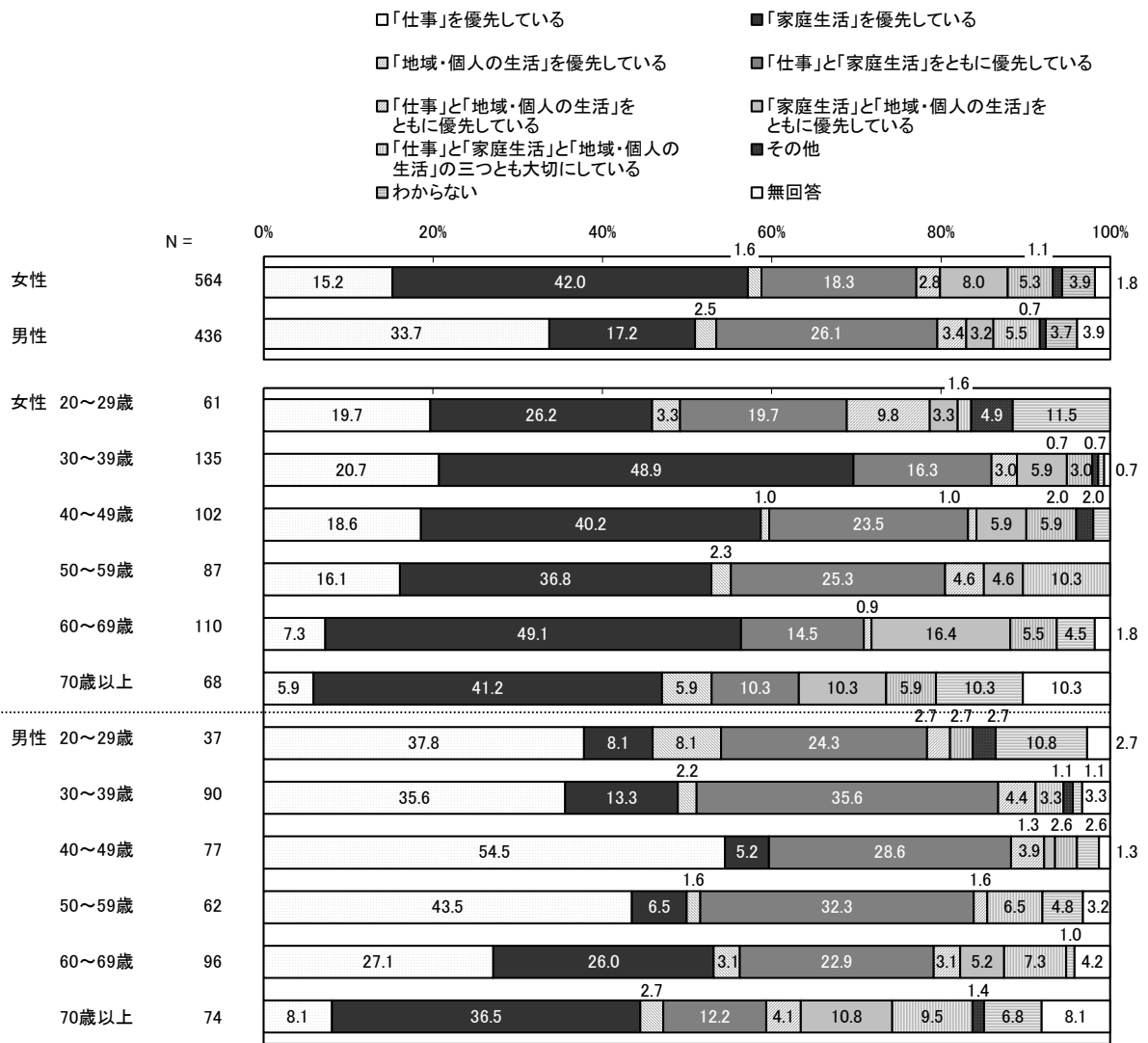


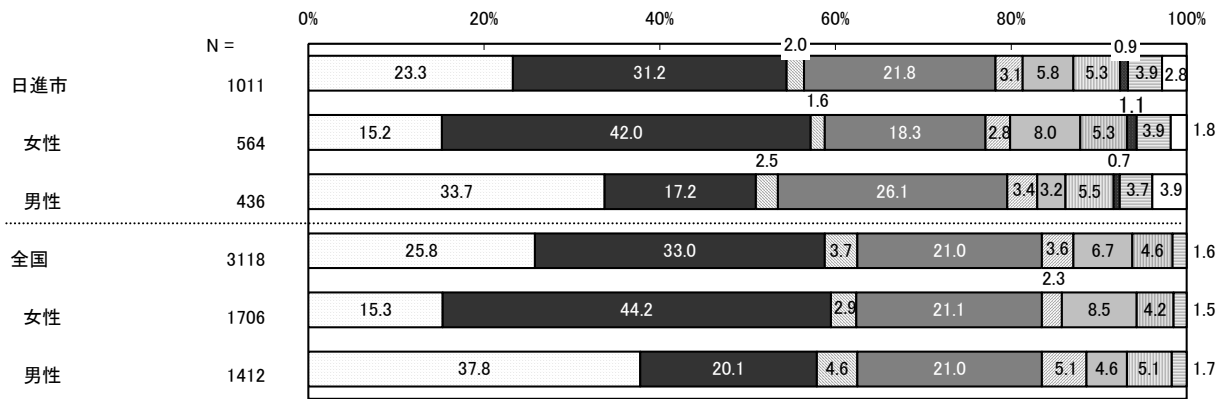
図 14 男女別・性別年代別にみた生活の中での現実の優先順位



	有効回答数(件)	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしている	その他	わからない	無回答
①女性	564	15.2	42.0	1.6	18.3	2.8	8.0	5.3	1.1	3.9	1.8
②男性	436	33.7	17.2	2.5	26.1	3.4	3.2	5.5	0.7	3.7	3.9

参考) 全国との比較

- 「仕事」を優先している
- 「地域・個人の生活」を優先している
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしている
- わからない
- 「家庭生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- その他
- 無回答



全国：男女共同参画社会に関する世論調査（平成21年10月）

※国の調査では、「その他」の選択肢はありません。

問5 あなたは、男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加を進めるためには、どのようにしていけば良いと思いますか。(〇は3つまで)

- 男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加を進める方法については、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」の割合が48.5%と最も高く、次いで「子どもの頃から、男女の区別なく家庭生活や地域活動を行う必要性を教える」の割合が42.8%となっています。(図15)
- 女性では、「男性による家事、子育て、介護、地域活動に対する抵抗感をなくす」、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」、「子どもの頃から、男女の区別なく家庭生活や地域活動を行う必要性を教える」の割合が4割を超えています。(表4)
- 男性では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」の割合が約5割となっています。(表4)
- 検定結果をみると、女性では、男性に比べ「男性による家事、子育て、介護、地域活動に対する抵抗感をなくす」、「子どもの頃から、男女の区別なく家庭生活や地域活動を行う必要性を教える」の割合が高くなっています。男性では、女性に比べ「働き方の見直しを行い、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」の割合が高くなっています。(表4)
- 性別年代別でみると、女性の20～29歳、30～39歳で「男性による家事、子育て、介護、地域活動への社会的評価を高める」の割合が4割を超えています。また、男性の20～29歳、30～39歳、40～49歳で「働き方の見直しを行い、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」の割合が約5割となっています。(表4)
- 生活の中での現実の優先度別でみると、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している人では、「子どもの頃から、男女の区別なく家庭生活や地域活動を行う必要性を教える」の割合が6割を超えています。また、「地域・個人生活」を優先している人では、「男性による家事、子育て、介護、地域活動への社会的評価を高める」の割合が4割となっています。(表4)
- 検定結果をみると、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している人では、「家庭生活」を優先している人、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している人に比べ、「子どもの頃から、男女の区別なく家庭生活や地域活動を行う必要性を教える」の割合が高くなっています。また、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしている人では、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している人に比べ「子どもの頃から、男女の区別なく家庭生活や地域活動を行う必要性を教える」の割合が高くなっています。(表4)

図15 男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加を進める方法

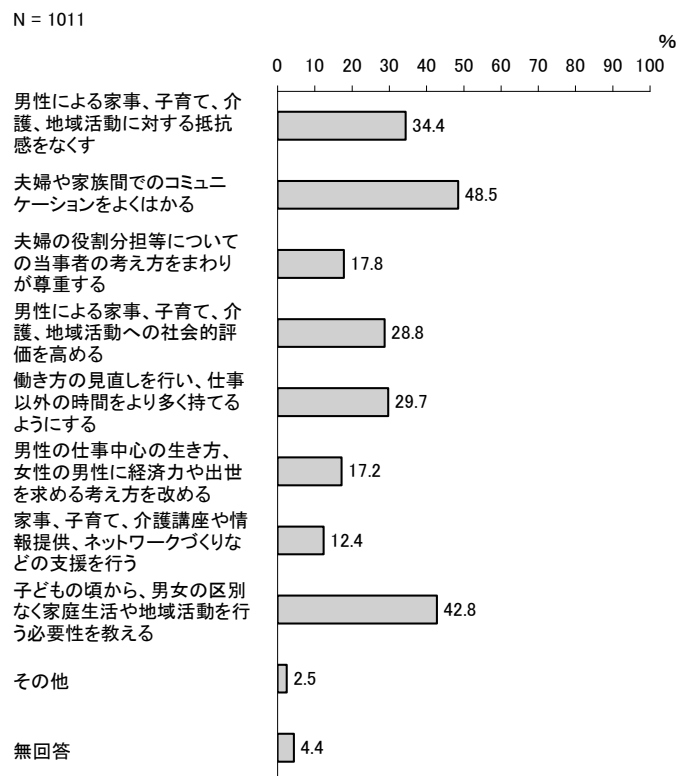


表4 男女別・性別年代別・生活の中での現実の優先度別にみた男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加を進める方法 単位：%

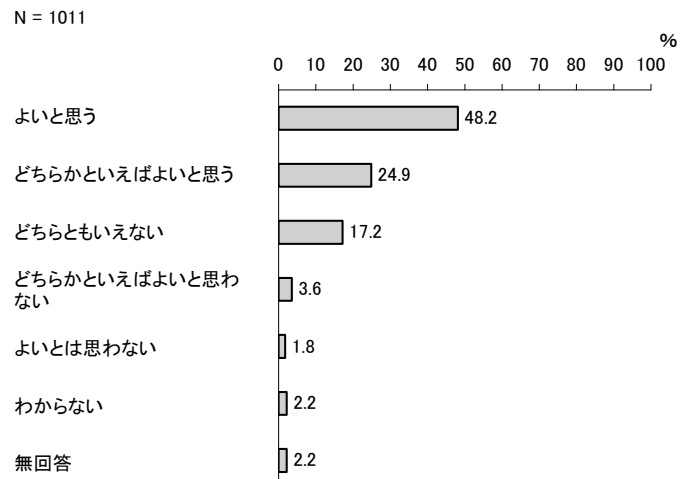
		有効回答数(件)	40.2 ②	46.8	18.3	32.6	23.6	14.9	11.9	48.4 ②	2.3	40.2
性別	①女性	564	40.2 ②	46.8	18.3	32.6	23.6	14.9	11.9	48.4 ②	2.3	40.2
	②男性	436	26.8	50.2	17.4	24.3	38.1 ①	20.0	13.1	35.6	2.8	26.8
性別年代別	女性 20～29 歳	61	37.7	50.8	21.3	42.6	36.1	14.8	11.5	32.8	3.3	1.6
	30～39 歳	135	40.7	46.7	17.0	46.7	28.9	14.1	12.6	44.4	3.0	1.5
	40～49 歳	102	47.1	46.1	17.6	33.3	25.5	13.7	11.8	53.9	1.0	—
	50～59 歳	87	39.1	57.5	25.3	24.1	20.7	16.1	10.3	57.5	2.3	1.1
	60～69 歳	110	43.6	43.6	16.4	22.7	19.1	15.5	12.7	52.7	1.8	5.5
	70 歳以上	68	27.9	36.8	13.2	22.1	10.3	16.2	11.8	44.1	2.9	22.1
	男性 20～29 歳	37	32.4	59.5	10.8	27.0	45.9	10.8	10.8	32.4	8.1	2.7
	30～39 歳	90	21.1	54.4	20.0	32.2	48.9	11.1	16.7	26.7	4.4	4.4
	40～49 歳	77	27.3	37.7	9.1	35.1	51.9	22.1	15.6	26.0	2.6	3.9
	50～59 歳	62	22.6	56.5	11.3	22.6	35.5	24.2	12.9	30.6	—	6.5
	60～69 歳	96	28.1	47.9	21.9	13.5	36.5	20.8	12.5	46.9	1.0	4.2
	70 歳以上	74	32.4	51.4	25.7	17.6	10.8	28.4	8.1	47.3	2.7	1.4
生活の中での現実の優先度別	①「仕事」を優先している	42	28.6	50.0	33.3	14.3	14.3	26.2	7.1	40.5	2.4	4.8
	②「家庭生活」を優先している	257	34.2	51.0	19.8	26.8	31.5	15.6	10.9	41.6	1.6	4.3
	③「地域・個人の生活」を優先している	25	44.0	40.0	12.0	40.0	32.0	20.0	8.0	36.0	4.0	—
	④「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	260	37.3	52.7	21.5	31.5	29.2	18.5	15.8	33.8	2.3	1.2
	⑤「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	29	34.5	41.4	17.2	24.1	37.9	17.2	6.9	48.3	—	6.9
	⑥「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	126	30.2	47.6	14.3	29.4	29.4	19.0	10.3	62.7 ②④	5.6	0.8
	⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしている	208	37.0	49.5	13.5	35.6	32.2	16.3	14.9	48.6 ④	2.4	1.0
	⑧その他	6	16.7	50.0	16.7	—	33.3	—	—	50.0	16.7	—
	⑨わからない	33	30.3	30.3	6.1	15.2	27.3	18.2	9.1	42.4	—	15.2

### 3 社会参加・参画について

問6 あなたは、今後、もっと様々な職業分野で女性が増えるほうがよいと思いますか。それとも思わないですか。

- 今後、様々な職業分野で女性が増えるほうがよいと思うかについては、「様々な職業分野で女性が増えるほうがよいと思う人※」の割合が73.1%、「様々な職業分野で女性が増えるほうがよいと思わない人※」の割合が5.4%となっています。(図16)
- 性別では、大きな差異はみられません。(図17)
- 性別年代別でみると、女性の20～29歳、30～39歳、男性の30～39歳、60～69歳で「よいと思う」の割合が、5割を超えています。また、女性の20～29歳では、「様々な職業分野で女性が増えるほうがよいと思う人※」の割合が8割を超えています。(図17)

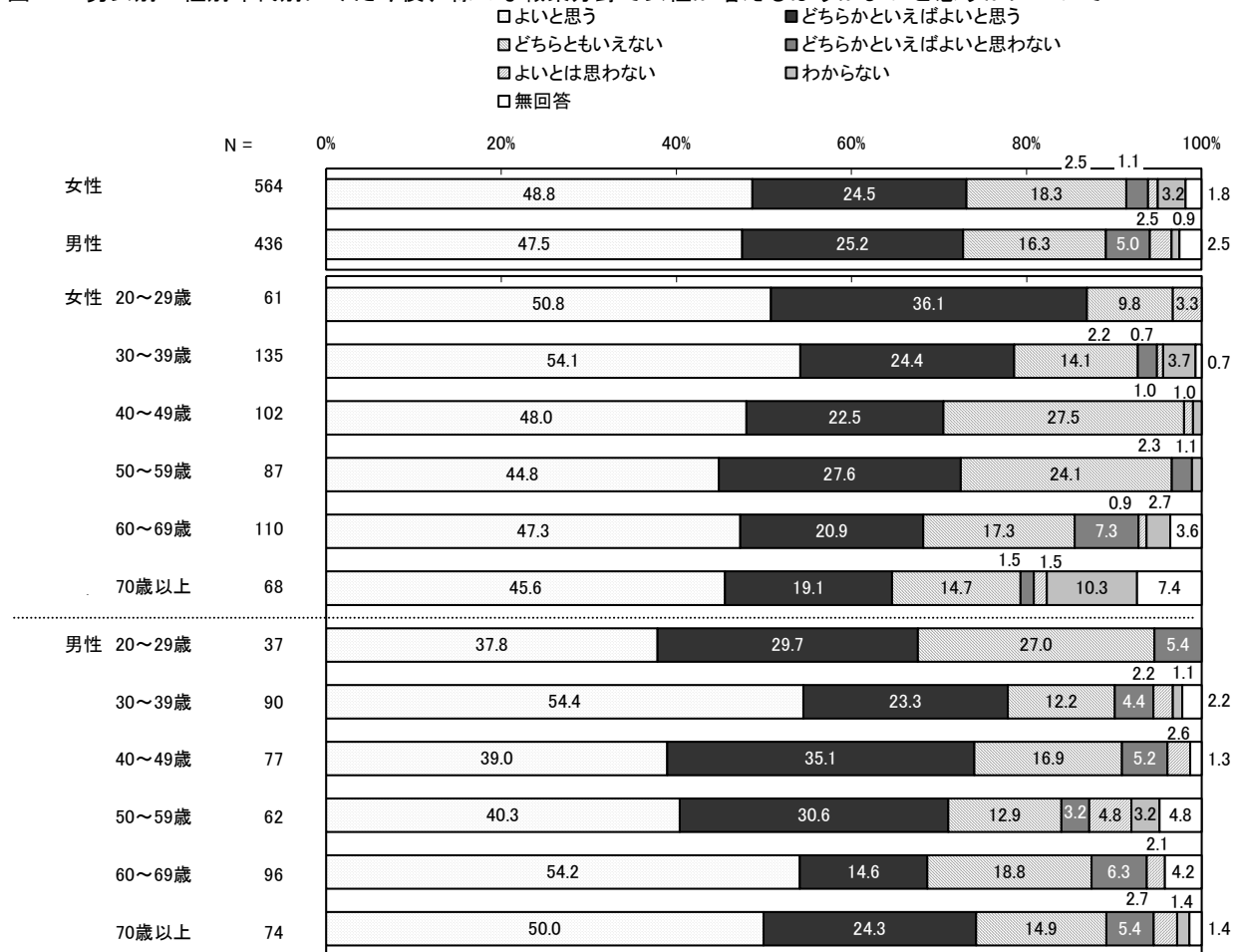
図16 今後、様々な職業分野で女性が増えるほうがよいと思うかについて



※様々な職業分野で女性が増えるほうがよいと思う人：「よいと思う」と「どちらかといえばよいと思う」の合計

※職業分野で女性が増えるほうがよいと思わない人：「どちらかといえばよいと思わない」と「よいとは思わない」の合計

図17 男女別・性別年代別にみた今後、様々な職業分野で女性が増えるほうがよいと思うかについて

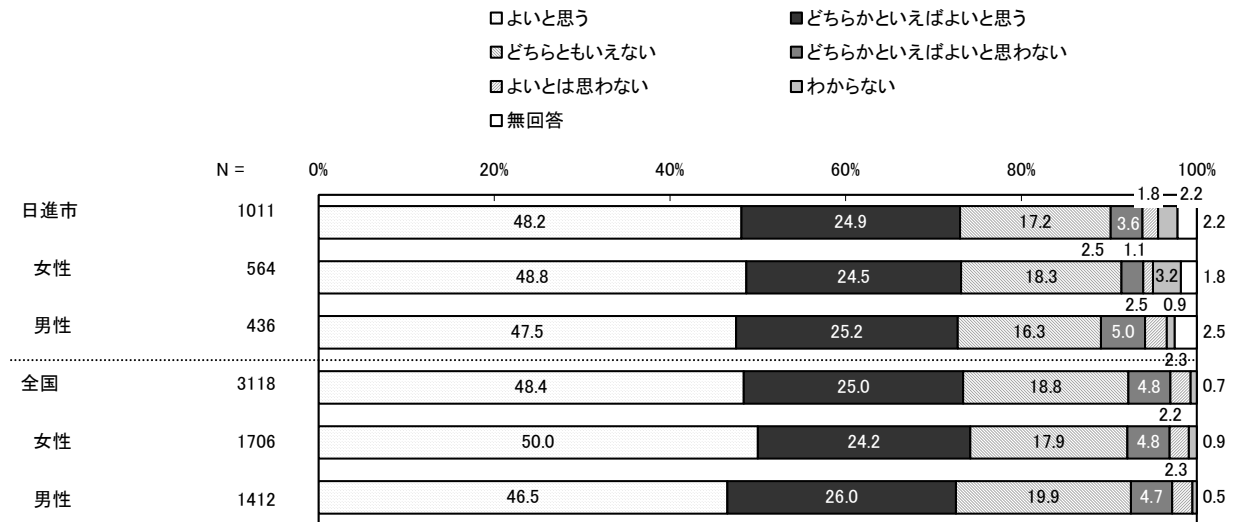




【国との比較】

- 全国と比較すると、大きな差異はみられません。(図 18)

図 18 今後、様々な職業分野で女性が増えるほうがよいと思うかについて（全国との比較）



全国：男女共同参画社会に関する世論調査（平成 19 年 8 月）

問 7 女性が就業することについて、あなたの考え方は次のどれに近いですか。（○は 1 つ）

- 女性が就業することについては、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び就業するのがよい」の割合が 49.3%と最も高く、次いで「結婚・出産にかかわらず、ずっと就業するのがよい」の割合が 27.5%、「子どもができるまでは、就業するのがよい」の割合が 5.6%となっています。(図 19)
- 性別では、大きな差異はみられません。(図 20)
- 性別年代別でみると、男女ともに 60～69 歳、70 歳以上で「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び就業するのがよい」の割合が高く、5 割を超えています。また、女性の 30～39 歳、40～49 歳、50～59 歳、男性の 40～49 歳、50～59 歳で「結婚・出産にかかわらず、ずっと就業するのがよい」の割合が 3 割を超えています。(図 20)

図 19 女性が就業することについて

N = 1011

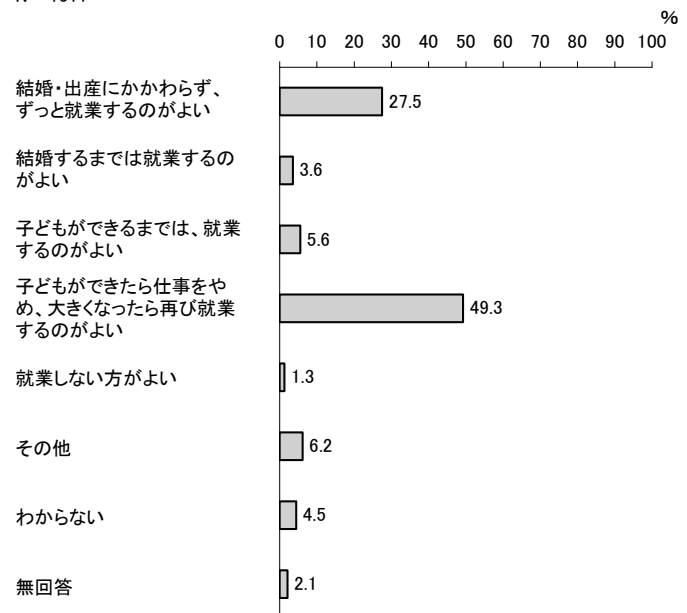
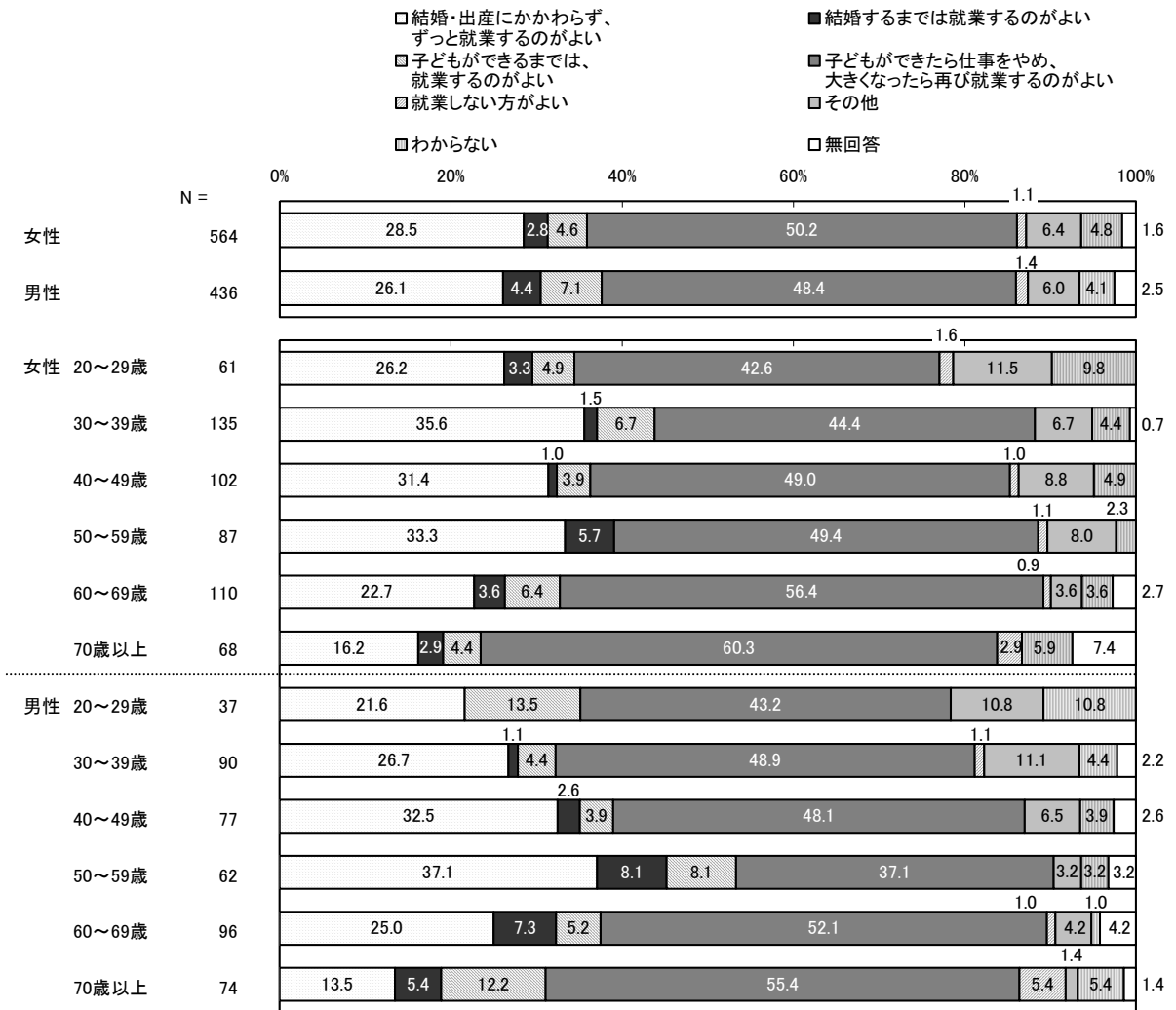


図 20 男女別・性別年代別にみた女性が就業することについて



- 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという考え方でみると、賛成、どちらかといえば賛成という人で「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び就業するのがよい」の割合が高く、5割を超えています。一方、反対という人で「結婚・出産にかかわらず、ずっと就業するのがよい」の割合が高く、6割を超えています。(表5)
- 検定結果をみると、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという考え方に賛成、どちらかといえば賛成、どちらかといえば反対の人では、他に比べ「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び就業するのがよい」の割合が高くなっています。また、どちらかといえば反対、反対の人では、他に比べ「結婚・出産にかかわらず、ずっと就業するのがよい」の割合が高くなっています。(表5)

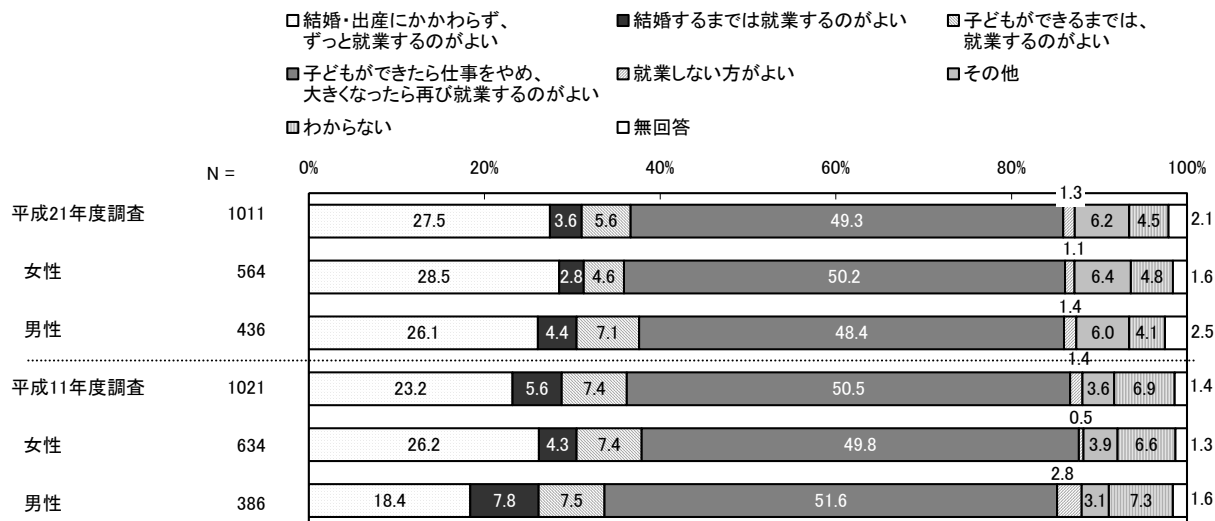
表5 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという考え方にみた女性が就業することについて 単位：%

		有効回答数(件)	結婚・出産にかかわらず、ずっと就業するのがよい	結婚するまでは就業するのがよい	子どもができるまでは、就業するのがよい	子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び就業するのがよい	就業しない方がよい	その他	わからない	無回答
夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという考え方に	①賛成	118	9.3	11.9	10.2	54.2 ④	7.6	2.5	3.4	0.8
	②どちらかといえば賛成	451	19.5	3.8	7.5	60.5 ③④⑤	0.2	3.8	2.7	2.0
	③どちらかといえば反対	182	42.9 ①②	1.1	2.7	44.0 ④	-	6.0	2.7	0.5
	④反対	104	65.4 ①②③⑤	-	1.0	20.2	-	9.6	2.9	1.0
	⑤わからない	116	24.1	2.6	2.6	37.1	1.7	15.5	15.5	0.9

【前々回調査との比較】

- 平成11年度調査と比較すると、今回調査では、「結婚・出産にかかわらず、ずっと就業するのがよい」の割合が高くなっています。(図21)

図21 女性が就業することについて(平成11年度調査との比較)



現在、就業している方にお聞きします。

問8 あなたが就業する理由は何ですか。(〇は3つまで)

- 就業する理由については、「生計の維持のため」の割合が68.9%と最も高く、次いで「経済的なゆとりを得るため」の割合が45.5%、「社会や人との関わりを持つため」の割合が38.2%となっています。(図22)
- 検定結果をみると、女性では、男性に比べて「社会や人との関わりを持つため」の割合が高く、5割を超えています。男性では、女性に比べて「生計の維持のため」の割合が高く、約8割となっています。(表6)

図22 就業する理由  
N = 547

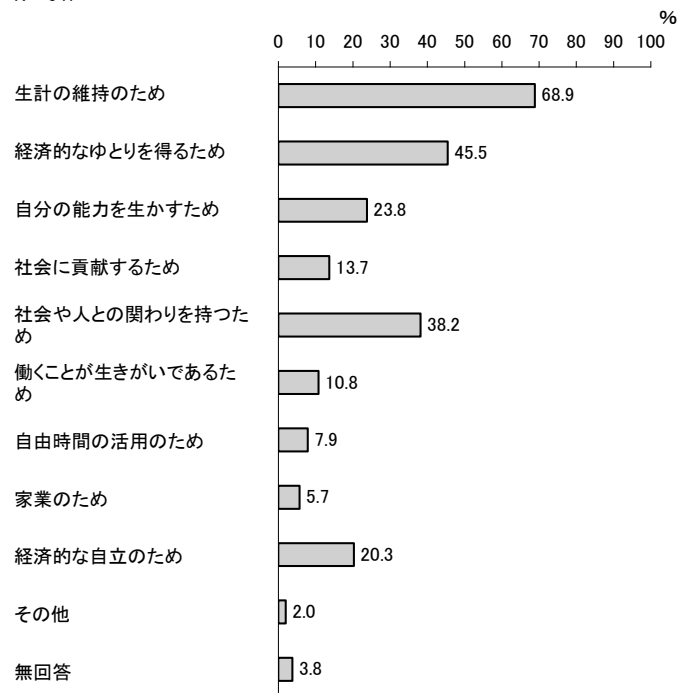


表6 男女別にみた就業する理由

単位：%

性別	有効回答数(件)	生計の維持のため	経済的なゆとりを得るため	自分の能力を生かすため	社会に貢献するため	社会や人との関わりを持つため	働くことが生きがいであるため	自由時間の活用のため	家業のため	経済的な自立のため	その他	無回答
		①女性	242	56.2	45.5	26.4	10.7	52.1②	11.2	11.6	6.6	23.1
②男性	305	79.0①	45.6	21.6	16.1	27.2	10.5	4.9	4.9	18.0	1.6	5.9

## 【前回調査との比較】

- 平成17年度調査と比較すると、今回の調査では、男女ともに「生計の維持のため」の割合が高くなっています。また、女性では、「経済的な自立のため」で、男性では、「経済的なゆとりを得るため」で5%以上高くなっています。(表7)

表7 男女別にみた就業する理由（平成17年度調査との比較）

単位：%

	有効回答数 (件)	生計の維持のため	経済的なゆとりを得るため	自分の能力を生かすため	社会に貢献するため	社会や人との関わりを持つため	働くことが生きがいであるため	自由時間の活用のため	家業のため	経済的な自立のため	その他	無回答
平成21年度調査	547	68.9	45.5	23.8	13.7	38.2	10.8	7.9	5.7	20.3	2.0	3.8
①女性	242	56.2	45.5	26.4	10.7	52.1	11.2	11.6	6.6	23.1	2.5	1.2
②男性	305	79.0	45.6	21.6	16.1	27.2	10.5	4.9	4.9	18.0	1.6	5.9
平成17年度調査	825	51.0	48.2	29.2	13.3	44.8	15.2	10.5	4.7	20.1	1.5	4.2
①女性	473	36.4	54.3	33.2	8.2	54.3	14.4	12.5	4.4	19.2	1.7	4.7
②男性	344	71.8	40.4	23.5	20.3	32.0	16.0	8.1	5.2	21.5	1.2	3.2

現在、就業している方にお聞きします。

**問9 あなたの職場では、次のようなことはありますか。(○は各1つずつ)**

- ・ 職場での男女の差については、『賃金に男女差がある』、『昇給、昇格に男女差がある』、『お茶汲みや雑用は女性がする慣例がある』で「はい」の割合が3割を超えています。一方で、『男性と女性で違いはない』で「はい」の割合が約4割となっています。(図23)
- ・ 女性では、『賃金に男女差がある』で24.8%、『希望職種につく機会に男女差がある』で19.4%、男性では、『賃金に男女差がある』で34.8%、『希望職種につく機会に男女差がある』で29.2%となっています。(図24)
- ・ 性別業種別でみると、女性の常勤の雇用者では、『昇給、昇格に男女差がある』、『お茶汲みや雑用は女性がする慣例がある』で、「はい」の割合が4割を超えています。また、男性の非常勤の雇用者では、『昇給、昇格に男女差がある』で、「はい」の割合が4割を超えています。(表8)

図23 職場での男女の差について

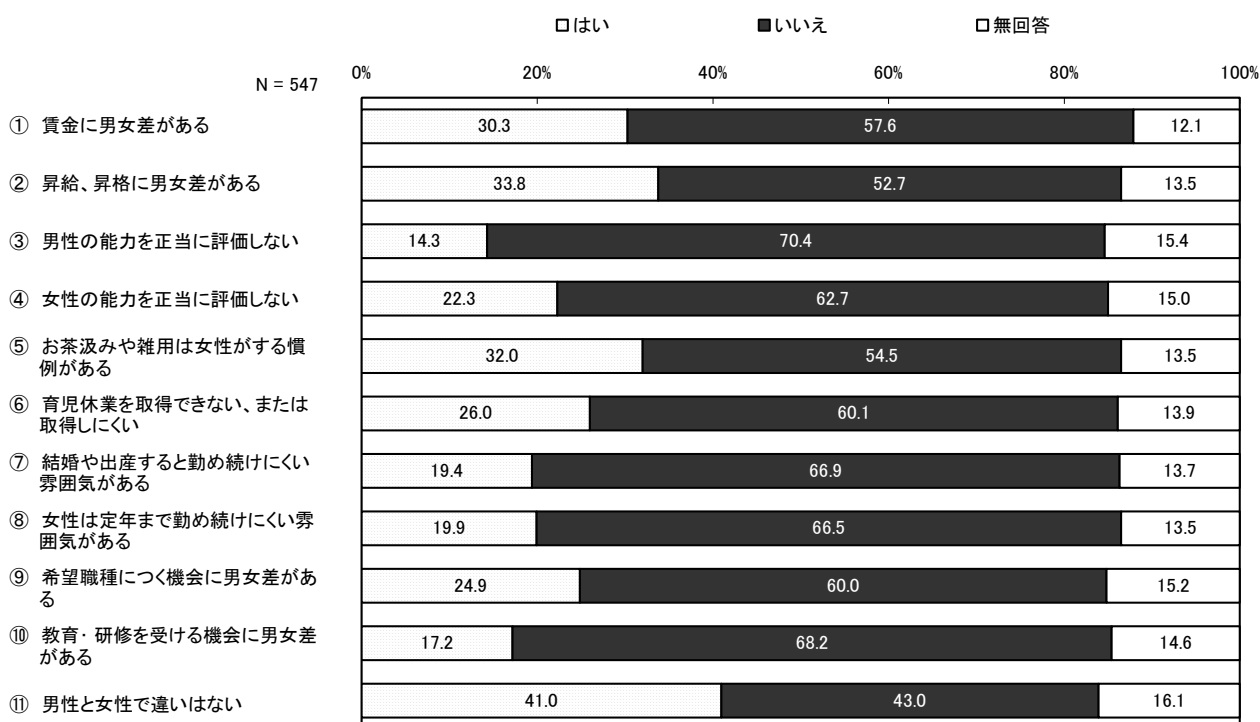
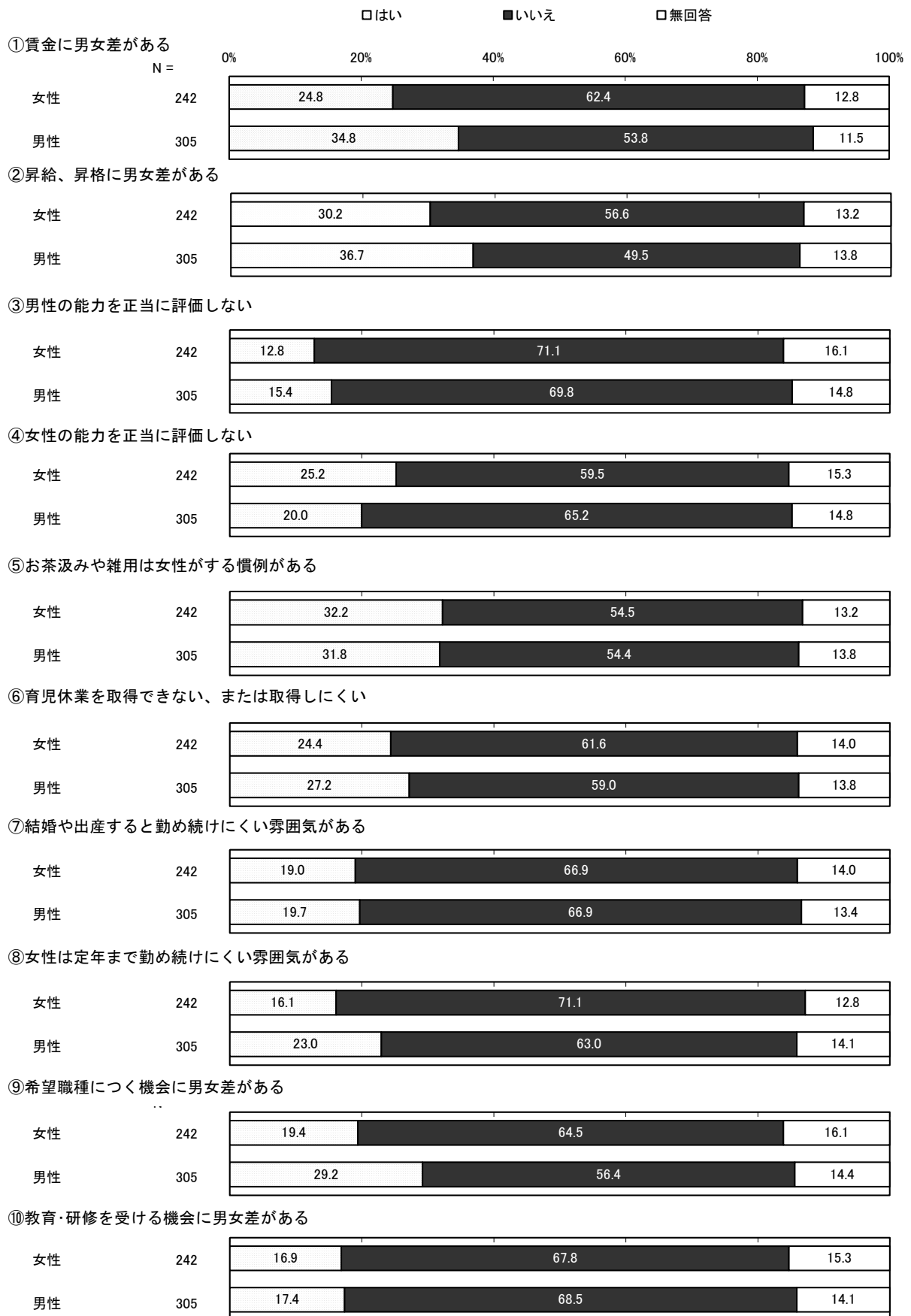


図 24 男女別にみた職場での男女の差について



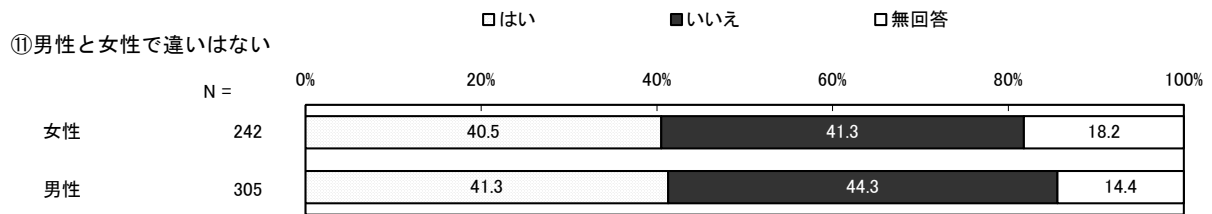


表8 性別業種別にみた職場での男女の差について

単位：%

	有効回答数 (件)	はい	いいえ	無回答
<b>①賃金に男女差がある</b>				
女性 自営業主	13	30.8	23.1	46.2
自営業の家族従業者	18	16.7	61.1	22.2
常勤の雇用者	109	31.2	63.3	5.5
非常勤の雇用者	95	18.9	65.3	15.8
男性 自営業主	40	35.0	30.0	35.0
自営業の家族従業者	8	37.5	50.0	12.5
常勤の雇用者	197	33.5	59.9	6.6
非常勤の雇用者	19	26.3	52.6	21.1
<b>②昇給、昇格に男女差がある</b>				
女性 自営業主	13	30.8	23.1	46.2
自営業の家族従業者	18	-	72.2	27.8
常勤の雇用者	109	43.1	52.3	4.6
非常勤の雇用者	95	20.0	63.2	16.8
男性 自営業主	40	27.5	32.5	40.0
自営業の家族従業者	8	37.5	50.0	12.5
常勤の雇用者	197	36.5	54.3	9.1
非常勤の雇用者	19	42.1	42.1	15.8
<b>③男性の能力を正に評価しない</b>				
女性 自営業主	13	7.7	46.2	46.2
自営業の家族従業者	18	-	66.7	33.3
常勤の雇用者	109	15.6	78.0	6.4
非常勤の雇用者	95	9.5	69.5	21.1
男性 自営業主	40	5.0	55.0	40.0
自営業の家族従業者	8	-	87.5	12.5
常勤の雇用者	197	17.8	72.1	10.2
非常勤の雇用者	19	5.3	73.7	21.1
<b>④女性の能力を正に評価しない</b>				
女性 自営業主	13	7.7	46.2	46.2
自営業の家族従業者	18	5.6	61.1	33.3
常勤の雇用者	109	33.9	58.7	7.3
非常勤の雇用者	95	20.0	62.1	17.9
男性 自営業主	40	7.5	52.5	40.0
自営業の家族従業者	8	-	87.5	12.5
常勤の雇用者	197	24.9	65.0	10.2
非常勤の雇用者	19	5.3	73.7	21.1



単位：%

	有効回答数 (件)	はい	いいえ	無回答
⑤お茶汲みや雑用は女性がする慣例がある				
女性 自営業主	13	23.1	30.8	46.2
自営業の家族従業者	18	22.2	50.0	27.8
常勤の雇用者	109	40.4	55.0	4.6
非常勤の雇用者	95	27.4	55.8	16.8
男性 自営業主	40	30.0	30.0	40.0
自営業の家族従業者	8	25.0	62.5	12.5
常勤の雇用者	197	32.5	58.4	9.1
非常勤の雇用者	19	31.6	47.4	21.1
⑥育児休業を取得できない、または取得しにくい				
女性 自営業主	13	15.4	38.5	46.2
自営業の家族従業者	18	16.7	55.6	27.8
常勤の雇用者	109	27.5	67.0	5.5
非常勤の雇用者	95	25.3	56.8	17.9
男性 自営業主	40	22.5	37.5	40.0
自営業の家族従業者	8	25.0	62.5	12.5
常勤の雇用者	197	29.4	61.4	9.1
非常勤の雇用者	19	21.1	57.9	21.1
⑦結婚や出産すると勤め続けにくい雰囲気がある				
女性 自営業主	13	7.7	46.2	46.2
自営業の家族従業者	18	-	72.2	27.8
常勤の雇用者	109	27.5	67.9	4.6
非常勤の雇用者	95	15.8	65.3	18.9
男性 自営業主	40	15.0	45.0	40.0
自営業の家族従業者	8	-	87.5	12.5
常勤の雇用者	197	21.8	70.1	8.1
非常勤の雇用者	19	10.5	63.2	26.3
⑧女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある				
女性 自営業主	13	7.7	46.2	46.2
自営業の家族従業者	18	11.1	61.1	27.8
常勤の雇用者	109	22.0	73.4	4.6
非常勤の雇用者	95	10.5	73.7	15.8
男性 自営業主	40	17.5	42.5	40.0
自営業の家族従業者	8	12.5	75.0	12.5
常勤の雇用者	197	28.4	61.9	9.6
非常勤の雇用者	19	15.8	63.2	21.1
⑨希望職種につく機会に男女差がある				
女性 自営業主	13	15.4	38.5	46.2
自営業の家族従業者	18	5.6	61.1	33.3
常勤の雇用者	109	28.4	66.1	5.5
非常勤の雇用者	95	12.6	65.3	22.1
男性 自営業主	40	25.0	35.0	40.0
自営業の家族従業者	8	25.0	62.5	12.5
常勤の雇用者	197	29.9	60.9	9.1
非常勤の雇用者	19	31.6	47.4	21.1

単位：%

	有効回答数 (件)	はい	いいえ	無回答
⑩教育・研修を受ける機会に男女差がある				
女性 自営業主	13	15.4	38.5	46.2
自営業の家族従業者	18	5.6	61.1	33.3
常勤の雇用者	109	22.9	71.6	5.5
非常勤の雇用者	95	11.6	68.4	20.0
男性 自営業主	40	15.0	45.0	40.0
自営業の家族従業者	8	25.0	62.5	12.5
常勤の雇用者	197	15.7	75.1	9.1
非常勤の雇用者	19	21.1	57.9	21.1
⑪男性と女性で違いはない				
女性 自営業主	13	15.4	38.5	46.2
自営業の家族従業者	18	16.7	44.4	38.9
常勤の雇用者	109	37.6	51.4	11.0
非常勤の雇用者	95	50.5	29.5	20.0
男性 自営業主	40	40.0	17.5	42.5
自営業の家族従業者	8	50.0	37.5	12.5
常勤の雇用者	197	40.6	49.7	9.6
非常勤の雇用者	19	31.6	47.4	21.1

現在、就業していない方にお聞きします。

問10 今後、就業したいと思いますか。(○は1つ)

- ・ 今後の就業希望については、「そう思う」の割合が32.6%、「そう思わない」の割合が42.2%となっています。(図25)
- ・ 検定結果をみると、男性では、女性に比べ「そう思わない」の割合が高くなっています。(図26)
- ・ 性別年代別でみると、女性の30～39歳で「そう思う」の割合が7割以上、40～49歳で4割以上となっています。また、男性の60～69歳で「そう思う」の割合が2割以上となっています。(図26)

図25 今後の就業希望

N = 408

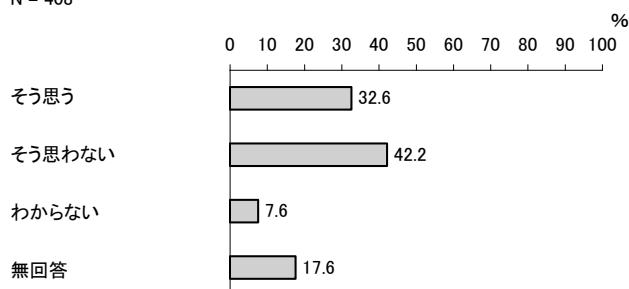
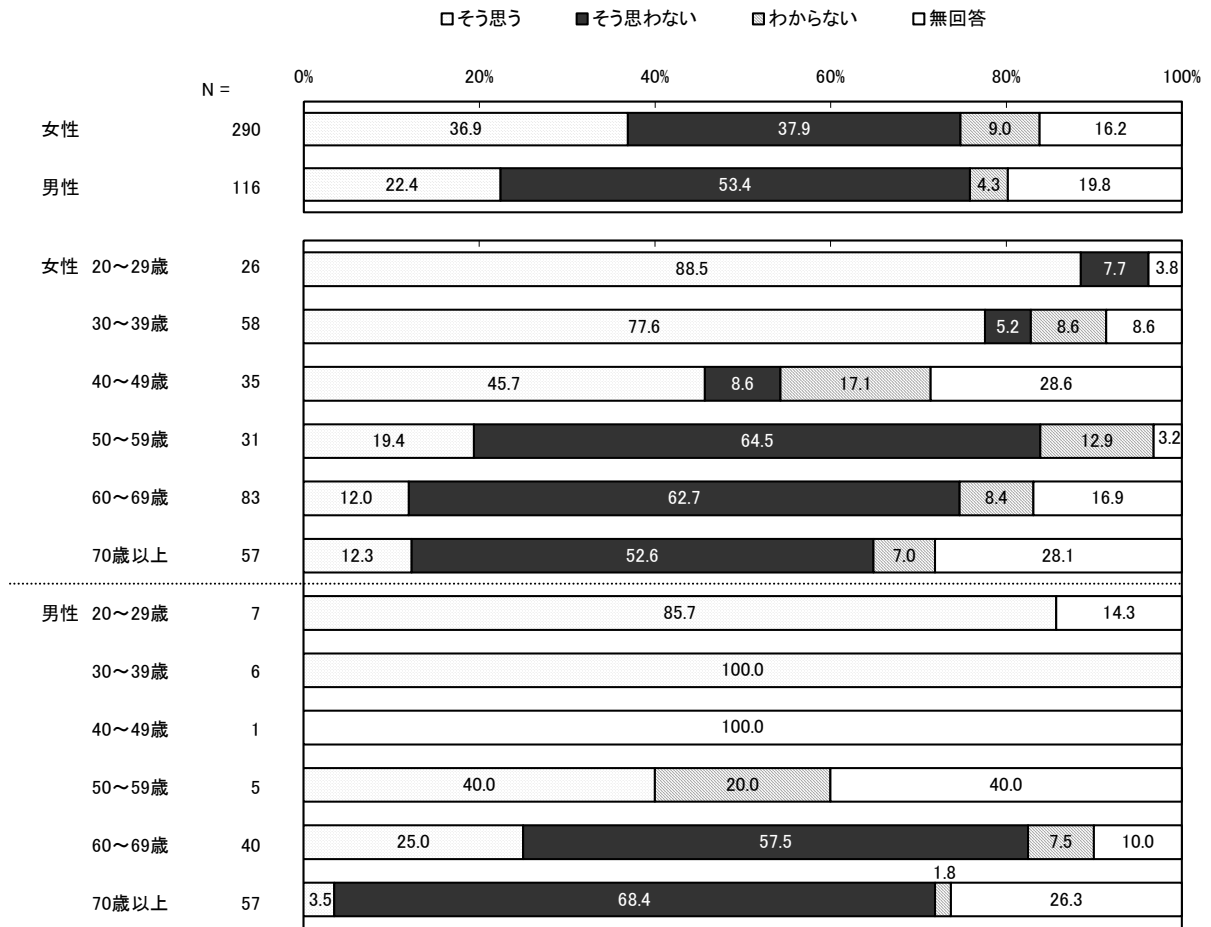


図 26 男女別・性別年代別にみた今後の就業希望



	有効回答数 (件)	そう 思う	そう 思わない	わか らない	無 回 答
①女性	290	36.9	37.9	9.0	16.2
②男性	116	22.4	53.4 ①	4.3	19.8

問 10 で「そう思う」と答えた方にお聞きします。

問 11 どのような形で働きたいと考えていますか。(○は1つ)

- 希望する就業形態については、「非常勤（パートタイム、アルバイトなど）」の割合が 67.7%と最も高く、次いで「常勤（フルタイム）」の割合が 24.1%、「自分で事業をしたい」の割合が 3.8%となっています。(図 27)
- 女性では、「非常勤（パートタイム、アルバイトなど）」の割合が 7 割を超えています。男性では、「常勤（フルタイム）」の割合が 5 割となっています。(図 28)
- 検定結果をみると、女性では、男性に比べ「非常勤（パートタイム、アルバイトなど）」の割合が高くなっています。(図 28)

図 27 希望する就業形態

N = 133

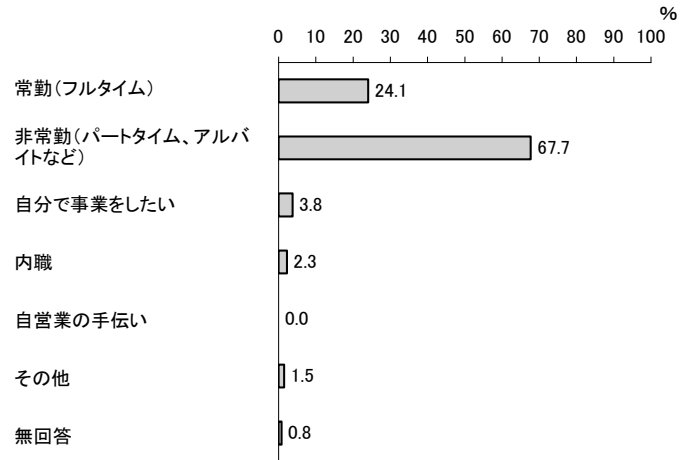
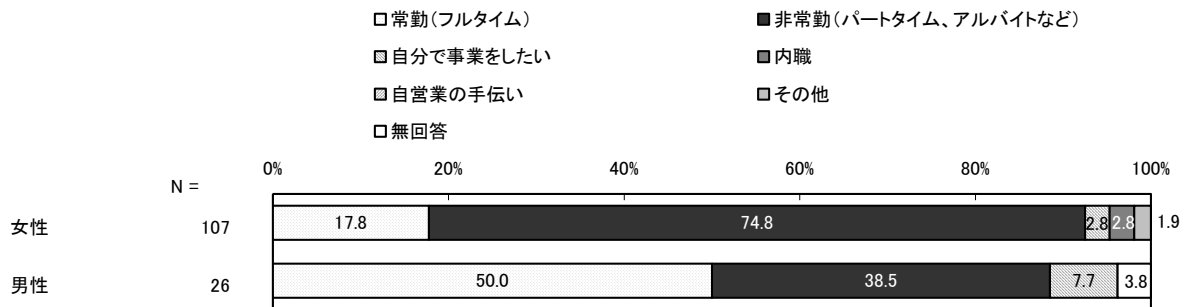


図 28 男女別にみた希望する就業形態



	有効回答数 (件)	常勤 (フルタイム)	非常勤 (パートタイム、アルバイトなど)	自分で事業をしたい	内職	自営業の手伝い	その他	無回答
①女性	107	17.8	74.8 ②	2.8	2.8	-	1.9	-
②男性	26	50.0	38.5	7.7	-	-	-	3.8

問 11 で「非常勤（パートタイム、アルバイトなど）」、「内職」と答えた方にお聞きします。

**問 12 あなたが、この働き方を選んだのはなぜですか。（○は 1 つ）**

- 希望する就業形態を選択した理由については、「常勤では家庭との両立が難しいから」、「自分の生活に合わせた時間で働けるから」の割合が、ともに 44.1% と高くなっています。（図 29）
- 性別年代別で見ると、女性の 30～39 歳で「常勤では家庭との両立が難しいから」の割合が 6 割を超えています。（図 30）

図 29 希望する就業形態を選択した理由

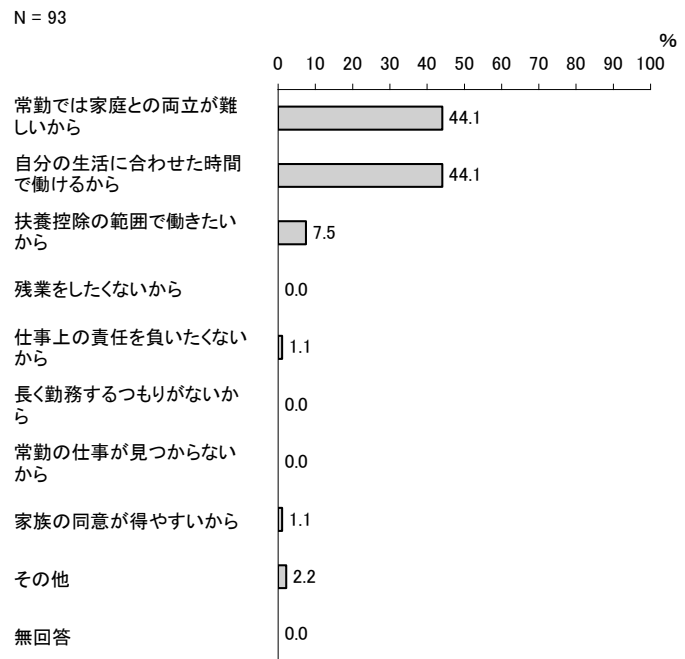
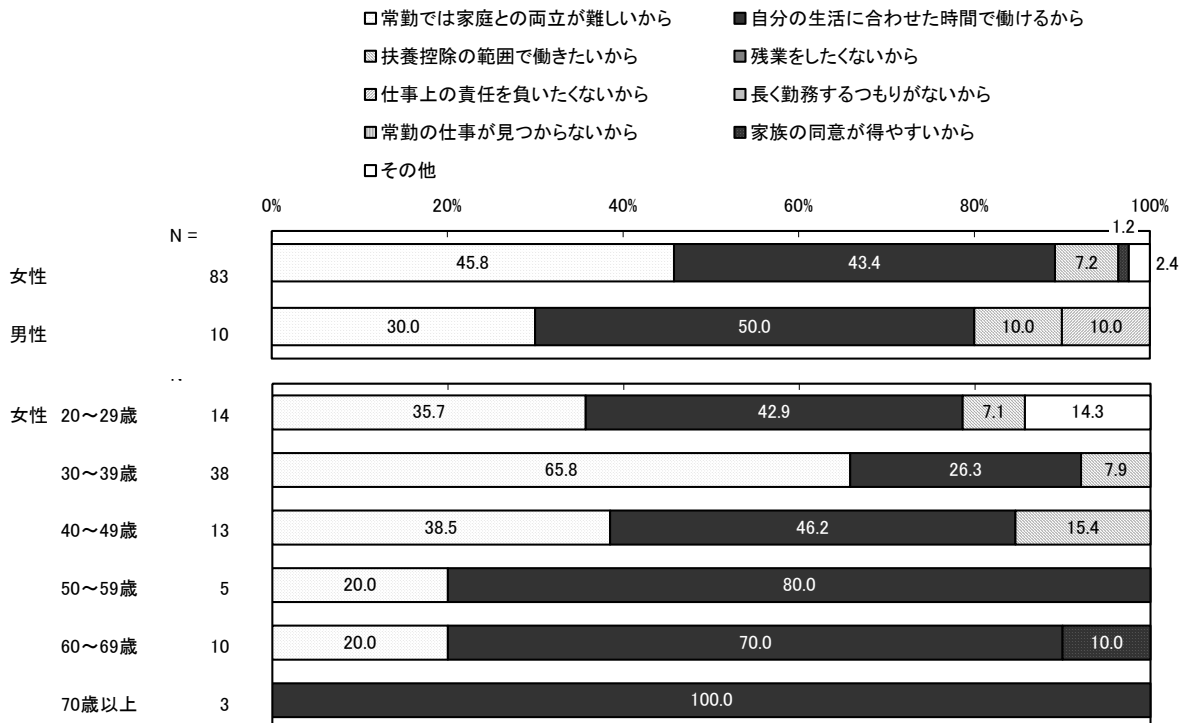


図 30 男女別にみた希望する就業形態を選択した理由



問 13 あなたは、これまで（現在を含む）働き続けたいけれど、働くことができなかったことがありますか。（○は1つ）

- これまで、働き続けたいけれど、働き続けられなかった経験については、「いいえ」の割合が 53.8%、「はい」の割合が 22.7%となっています。（図 31）
- 男性では、「いいえ」の割合が約 6 割となっています。（図 32）
- 検定結果をみると、女性では、男性に比べ「はい」の割合が高くなっています。男性では、女性に比べ「いいえ」の割合が高くなっています。（図 32）
- 性別年代別でみると、女性の 30～39 歳、40～49 歳、50～59 歳、60～69 歳で「はい」の割合が 3 割を超えています。（図 32）

図 31 働き続けたいけれど、働き続けられなかった経験の有無

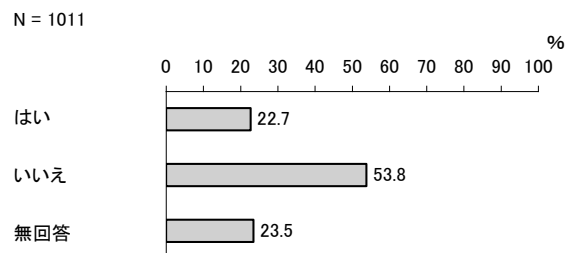
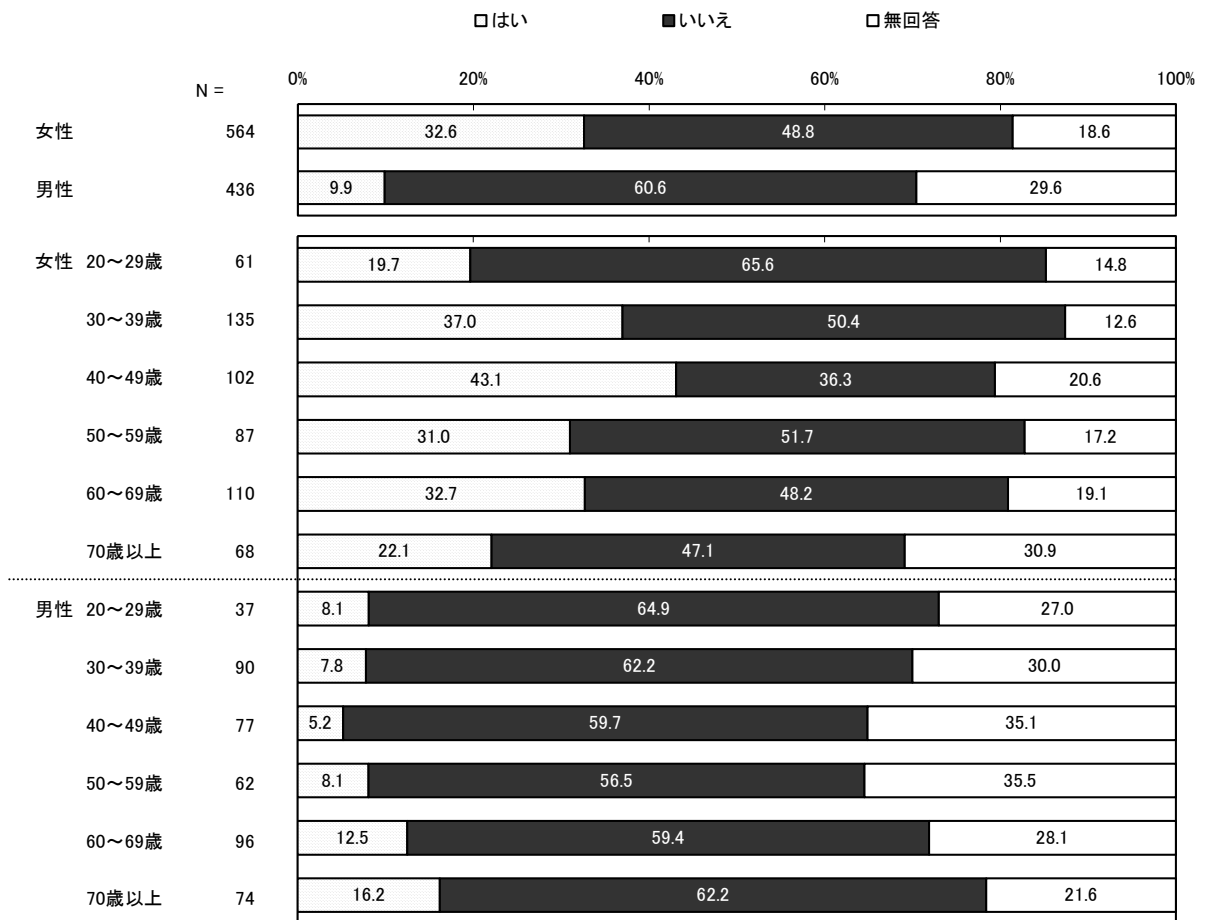


図 32 男女別・性別年代別にみた働き続けたいけれど、働き続けられなかった経験の有無



	有効回答数	はい	いいえ	無回答
①女性	564	32.6 ②	48.8	18.6
②男性	436	9.9	60.6 ①	29.6

問 13 で「はい」と答えた方にお聞きします。

**問 14 働き続けたいけれど、働くことができなかった一番の理由は何ですか。(○は1つ)**

- 働き続けたいけれど、働くことができなかった一番の理由については、「健康上の問題」の割合が 17.5%と最も高く、次いで「育児で預けられる施設（託児所や保育園）やサービスが不十分だった」の割合が 14.4%、「就業や家事分担に対する配偶者・パートナーや家族の理解と協力が得られなかった」の割合が 13.5%となっています。(図 33)
- 女性では、「就業や家事分担に対する配偶者・パートナーや家族の理解と協力が得られなかった」、「育児で預けられる施設（託児所や保育園）やサービスが不十分だった」、「結婚や育児に対する会社の理解や制度が不足していた」、「健康上の問題」など、働くことができなかった理由が多岐にわたっています。(図 34)
- 一方、男性では、「健康上の問題」、「リストラ・定年」の割合が高くなっています。(図 34)
- 性別年代別でみると、女性の 20～29 歳で「健康上の理由」の割合が 4 割を超えています。また、女性の 30～39 歳、40～49 歳で「育児で預けられる施設（託児所や保育園）やサービスが不十分だった」の割合が、60～69 歳では、「リストラ・定年」の他、「家族の介護や看護の必要があった」の割合が高くなっています。(図 34)

図 33 働き続けたいけれど、働くことができなかった一番の理由  
N = 229

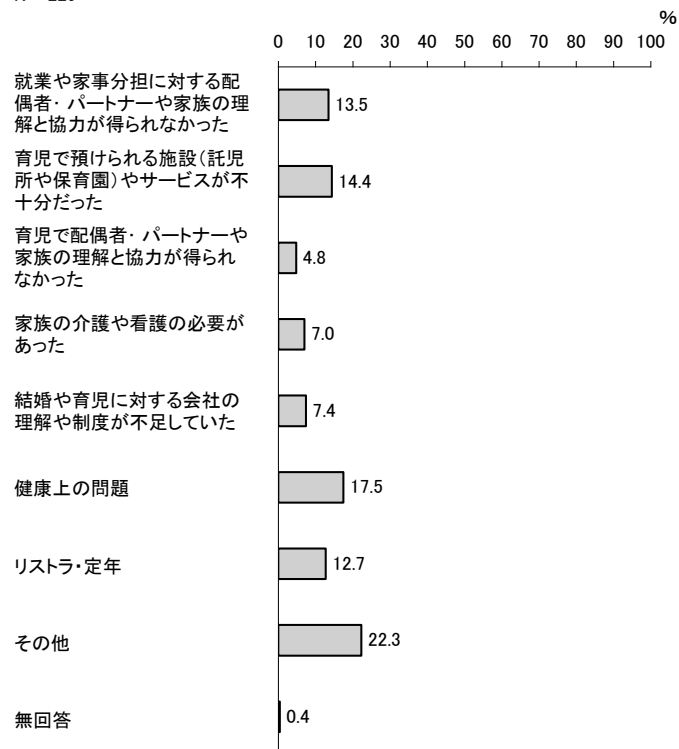
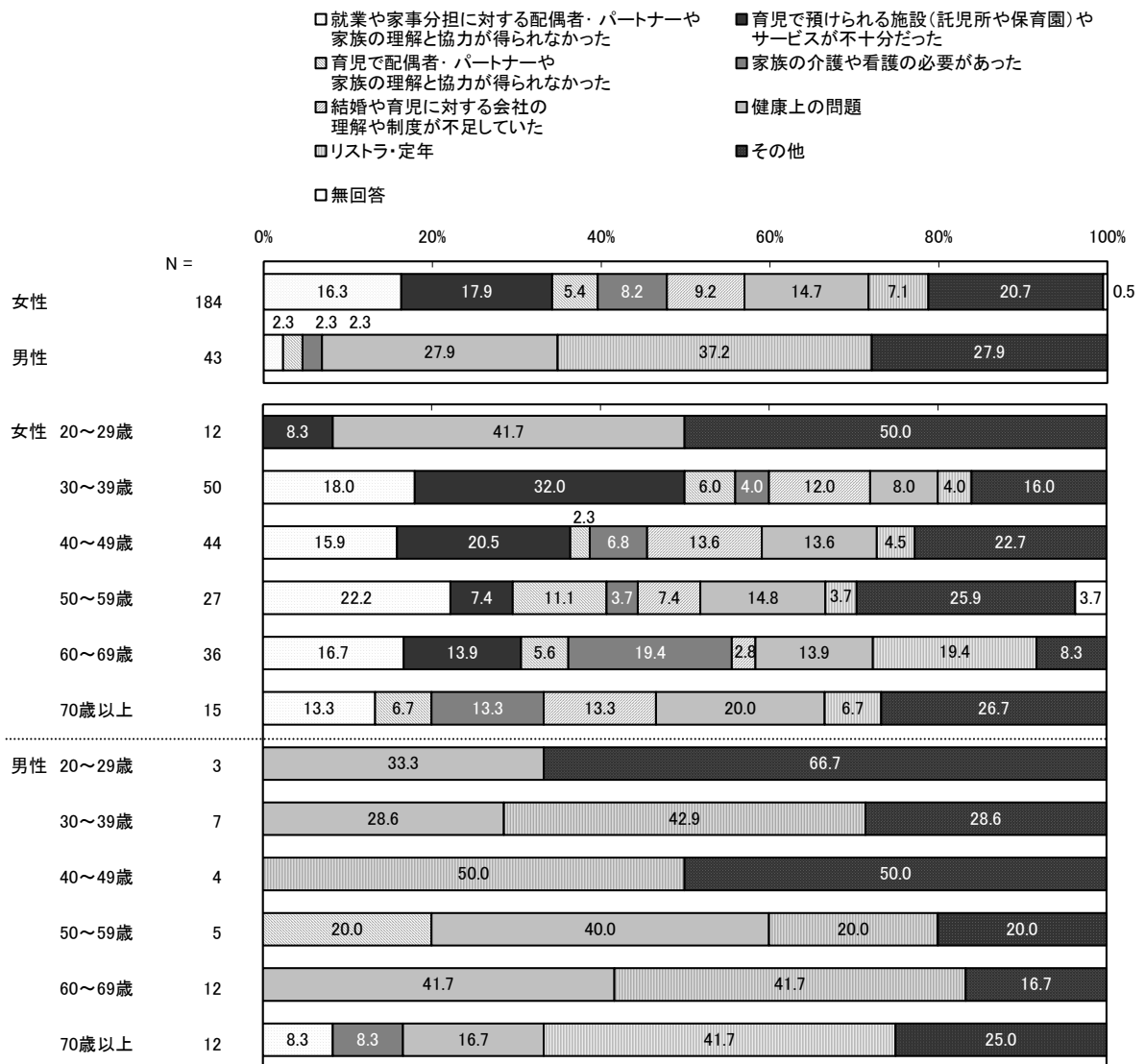


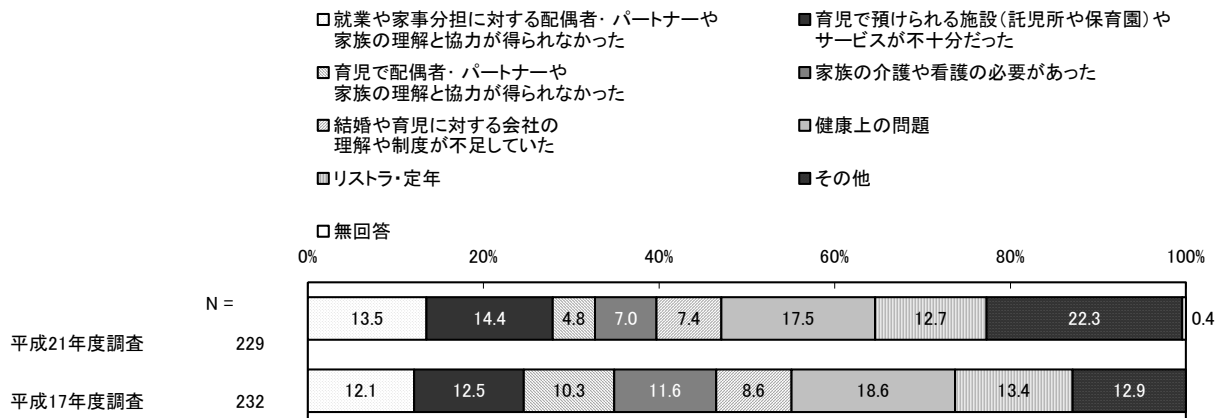
図 34 男女別・性別年代別にみた働き続けられなかった理由



【前回調査との比較】

- 平成 17 年度調査と比較すると、今回の調査では、「育児で配偶者・パートナーや家族の理解と協力が得られなかった」、「家族の介護や看護の必要があった」の割合が低くなっています。(図 35)

図 35 働き続けられなかった理由（平成 17 年度調査との比較）





## 4 子どもの教育について

問 15 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という子どもの育て方について、あなたはどのように考えますか。(〇は1つ)

- 子どもの育て方については、『男の子は男らしく、女の子は女らしく』育てた方がよい』の割合が40.7%と最も高くなっています。(図36)
- 検定結果をみると、女性では、男性に比べ「どちらともいえない」の割合が高く、3割を超えています。男性では、女性に比べ『男の子は男らしく、女の子は女らしく』育てた方がよい』の割合が高く、5割を超えています。(図37)
- 性別年代別でみると、女性の20～29歳、30～39歳、40～49歳、50～59歳で「どちらともいえない」の割合が4割を超えています。また、女性の40～49歳、70歳以上、男性の50～59歳で「男の子、女の子と区別せず、同じように育てた方がよい」の割合が3割を超えています。(図38)
- 子どもの年齢別でみると、就園前の乳幼児で『男の子は男らしく、女の子は女らしく』育てた方がよい』の割合が5割を超えています。(図38)

図36 子どもの育て方

N = 1011

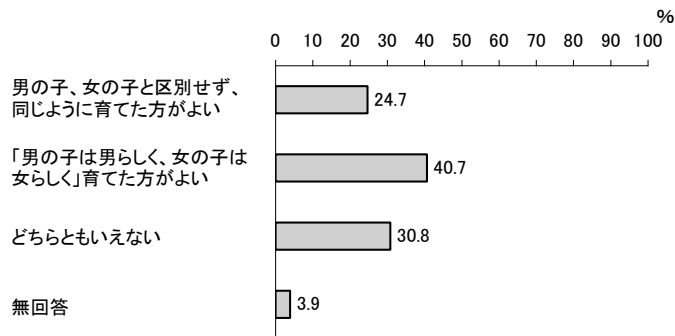
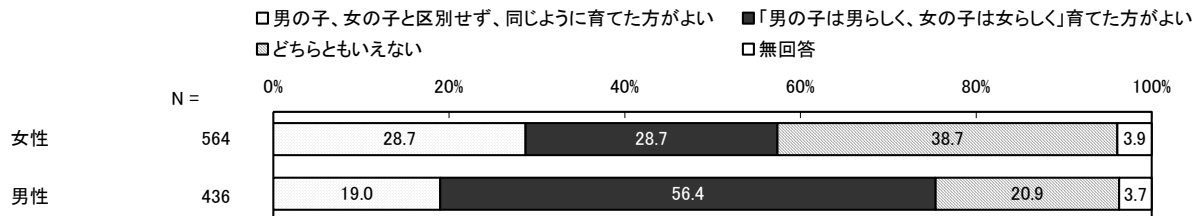
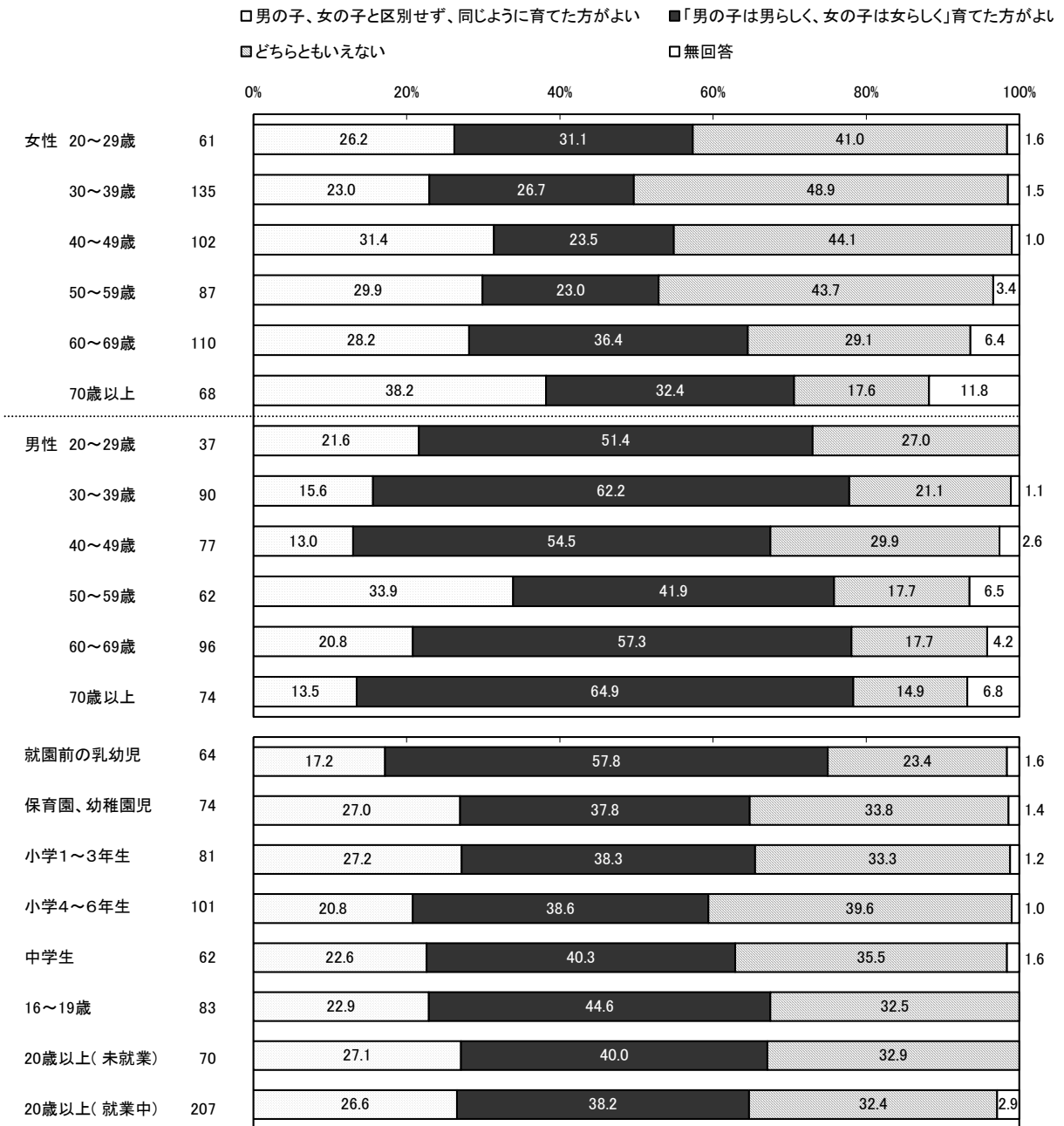


図37 男女別にみた子どもの育て方



	有効回答数(件)	男の子、女の子と区別せず、同じように育てた方がよい	「男の子は男らしく、女の子は女らしく」育てた方がよい	どちらともいえない	無回答
①女性	564	28.7	28.7	38.7 ②	3.9
②男性	436	19.0	56.4 ①	20.9	3.7

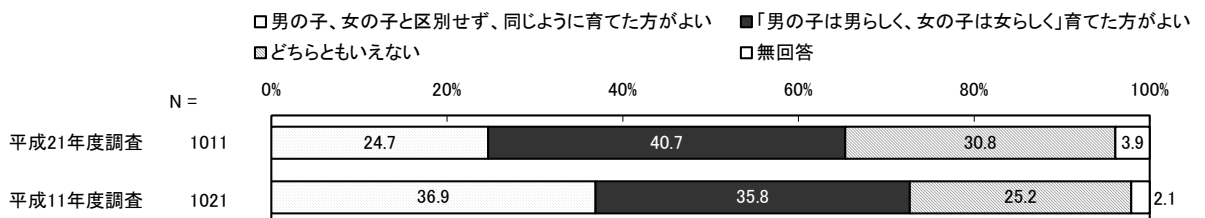
図 38 性別年代別・子どもの年齢別にみた子どもの育て方



【前々回調査との比較】

- 平成 11 年度調査と比較すると、今回の調査では、「男の子、女の子と区別せず、同じように育てた方がよい」の割合が低くなっています。(図 39)

図 39 子どもの育て方 (平成 11 年度調査との比較)



問 16 あなたは、これからの子どもに対し、どのようなことを身につけてほしいと思っていますか。  
女の子の場合と、男の子の場合についてそれぞれ3つまで選んで番号を記入してください。

①女の子に身につけてほしいこと

- 女の子に身につけてほしいことについては、「優しさ・思いやり」の割合が78.4%と最も高く、次いで「礼儀・道徳心」の割合が48.6%、「明るさ・素直さ」の割合が47.4%となっており、他の項目に比べ、特に高くなっています。(図 40)

図 40 女の子に身につけてほしいこと

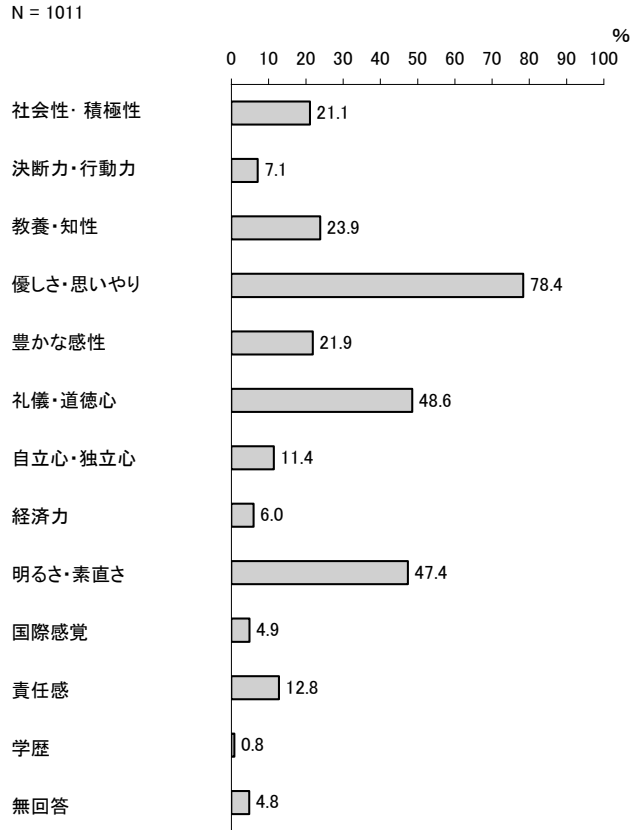


表 9 男女別にみた女の子に身につけてほしいこと

単位：%

		有効回答数 (件)	社会性・ 積極性	決断力・ 行動力	教養・ 知性	優しさ・ 思いやり	豊かな 感性	礼儀・ 道徳心	自立心・ 独立心	経済力	明るさ・ 素直さ	国際感覚	責任感	学歴	無回答
性別	①女性	564	22.5	8.0	22.5	77.3	21.3	47.0	13.8	7.8	45.0	4.8	15.6	0.7	4.3
	②男性	436	18.8	6.0	25.7	80.5	22.9	50.7	8.0	3.9	50.7	5.3	9.2	0.9	5.3

## ②男の子に身につけてほしいこと

- 男の子に身につけてほしいことについては、「決断力・行動力」の割合が40.2%と最も高く、次いで「礼儀・道徳心」の割合が38.7%、「優しさ・思いやり」の割合が38.1%、「社会性・積極性」の割合が37.0%、「責任感」が33.3%となっています。（図41）
- 男性では、「礼儀・道徳心」の割合が約4割となっています。（表10）

図41 男の子に身につけてほしいこと

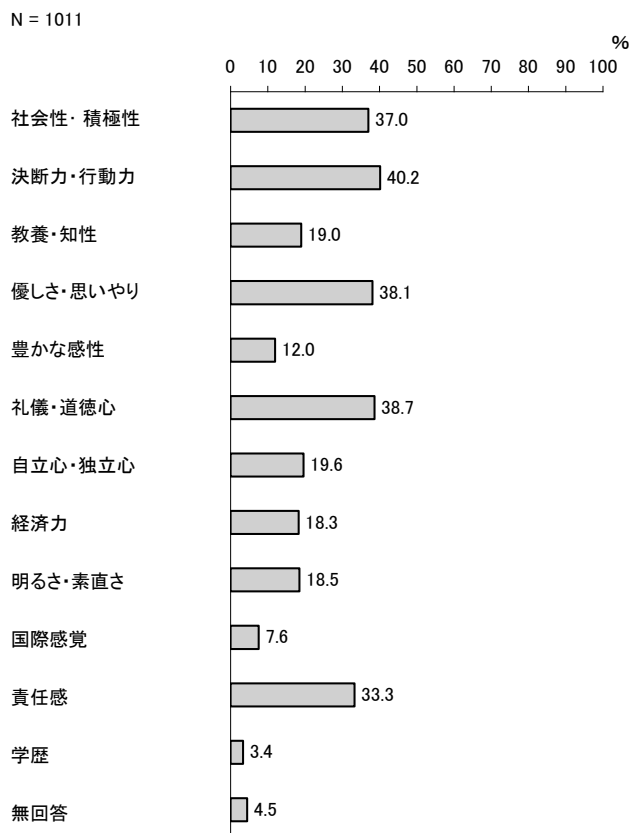


表10 男女別にみた男の子に身につけてほしいこと

単位：%

性別		有効回答数 (件)	社会性・ 積極性	決断力・ 行動力	教養・ 知性	優しさ・ 思いやり	豊かな 感性	礼儀・ 道徳心	自立心・ 独立心	経済力	明るさ・ 素直さ	国際 感覚	責任 感	学歴	無回 答
性別	①女性	564	38.3	40.2	17.9	40.1	11.3	36.5	20.4	19.3	16.5	8.0	34.9	3.2	4.3
	②男性	436	35.3	39.9	20.2	36.2	13.1	41.7	18.3	17.2	20.9	7.3	31.2	3.7	4.4

問 17 男女がお互いを尊重しあえる子どもを育てるために、学校教育の場で力を入れることは何だと思いますか（○は3つまで）

- 学校教育の場で力を入れることについては、「関連授業を充実させる（人権尊重、自尊意識、男女のコミュニケーションなどの授業）」の割合が50.4%と最も高く、次いで「生活指導や進路指導で配慮する（男女の区別なく、個性や能力重視の指導）」の割合が43.5%、「男子・女子とも家庭学習の拡大を図る（家事、子育て、介護などの学習）」の割合が40.6%となっています。（図42）
- 男女ともに「生活指導や進路指導で配慮する（男女の区別なく、個性や能力重視の指導）」、「関連授業を充実させる（人権尊重、自尊意識、男女のコミュニケーションなどの授業）」の割合が4割を超えています。また、女性では、「男子・女子とも家庭学習の拡大を図る（家事、子育て、介護などの学習）」の割合が4割を超えています。（表11）
- 検定結果をみると、女性では、男性に比べ「男子・女子とも家庭学習の拡大を図る（家事、子育て、介護などの学習）」の割合が高くなっています。男性では、女性に比べ「教員や保護者の研修を進める（男女平等、人権などの研修）」の割合が高くなっています。（表11）

図 42 学校教育の場で力を入れること

N = 1011

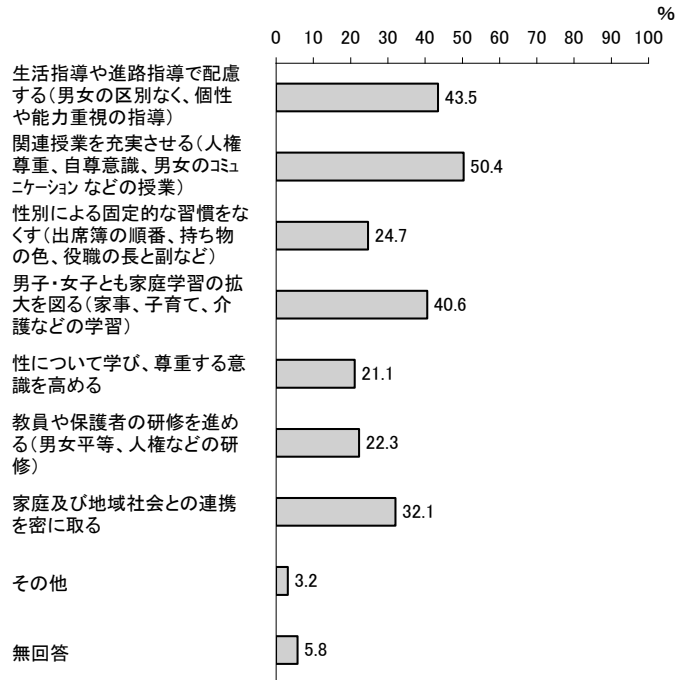


表 11 男女別にみた学校教育の場で力を入れること

単位：%

性別	有効回答数(件)	生活指導や進路指導で配慮する(男女の区別なく、個性や能力重視の指導)	関連授業を充実させる(人権尊重、自尊意識、男女のコミュニケーションなどの授業)	性別による固定的な習慣をなくす(出席簿の順番、持ち物の色、役職の長と副など)	男子・女子とも家庭学習の拡大を図る(家事、子育て、介護などの学習)	性について学び、尊重する意識を高める	教員や保護者の研修を進める(男女平等、人権などの研修)	家庭及び地域社会との連携を密にする	その他	無回答
①女性	564	41.7	48.8	24.5	47.9 ②	24.3	16.8	28.9	2.8	6.4
②男性	436	45.6	53.7	25.2	31.2	16.7	29.6 ①	36.0	3.4	5.0

## 5 男女平等、人権意識について

問 18 あなたは、社会全体でみた場合、男女の地位は平等になっていると思いますか。(〇は1つ)

- 社会全体でみる男女の地位については、「男性の方が優遇されていると感じる人※」の割合が72.8%、「女性の方が優遇されていると感じる人※」の割合が6.0%となっています。(図43)

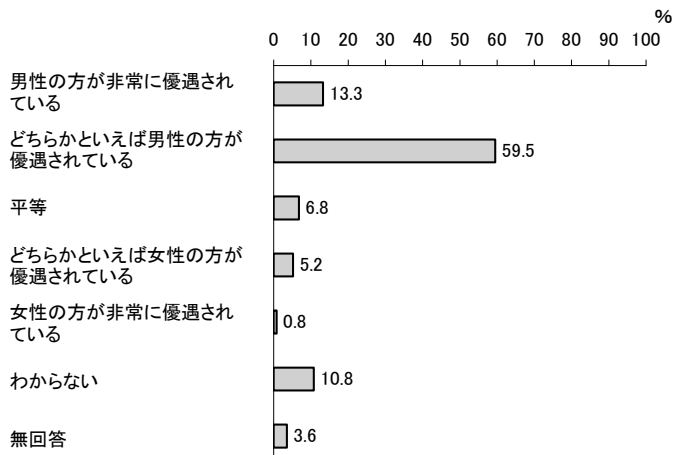
- 男女ともに、「男性の方が優遇されていると感じる人※」の割合が高くなっています。(図44)

- 性別年代別で見ると、女性の30～39歳、40～49歳で「男性の方が優遇されていると感じる人※」の割合が約8割となっています。また、男性の60～69歳、70歳以上で「平等」の割合が1割を超えています。(図44)

- 性別業種別で見ると、女性の自営業の家族従業者で「男性の方が優遇されていると感じる人※」の割合が約9割となっています。(図44)

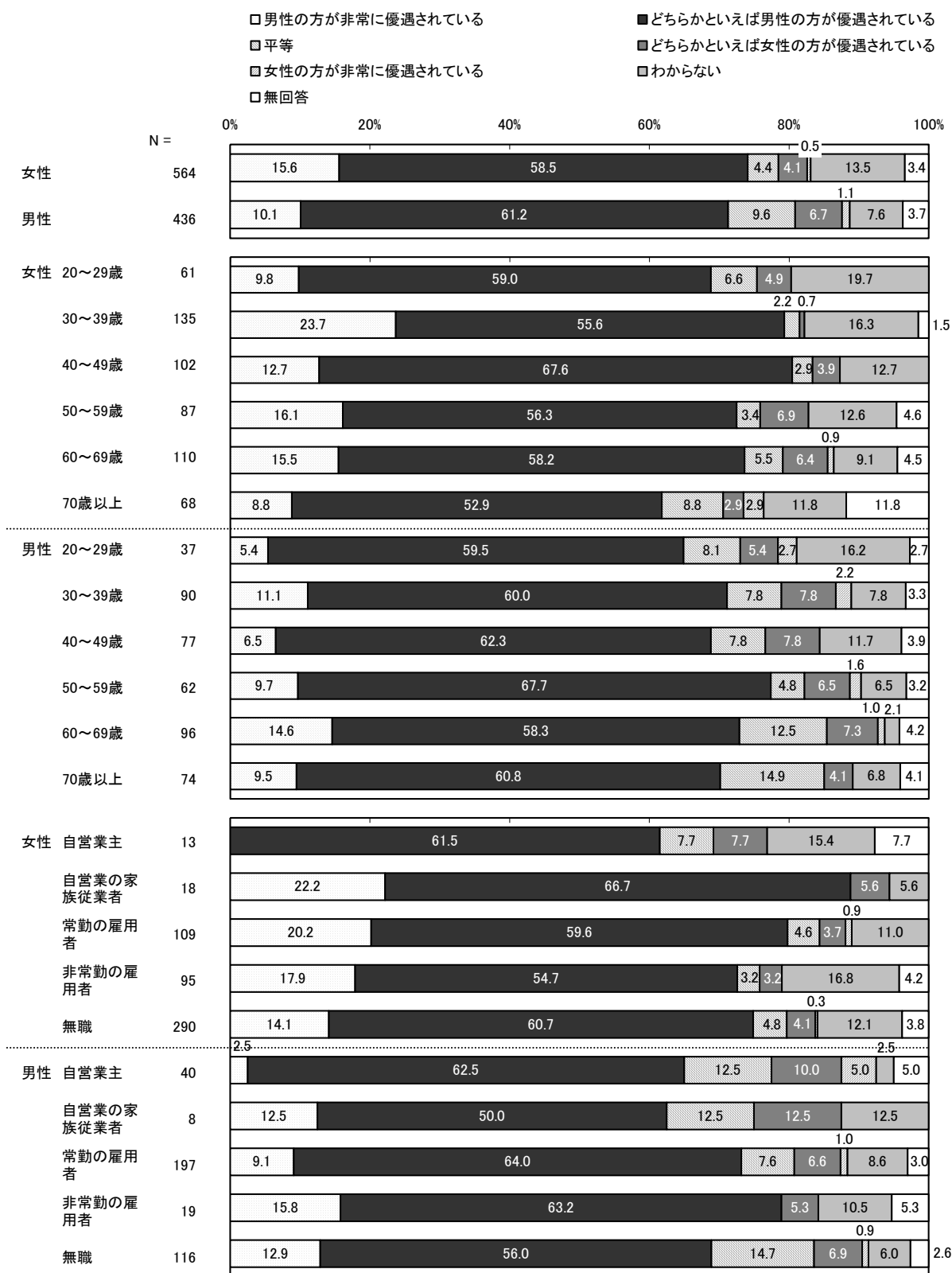
図 43 社会全体でみる男女の地位について

N = 1011



※男性の方が優遇されていると感じる人：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計

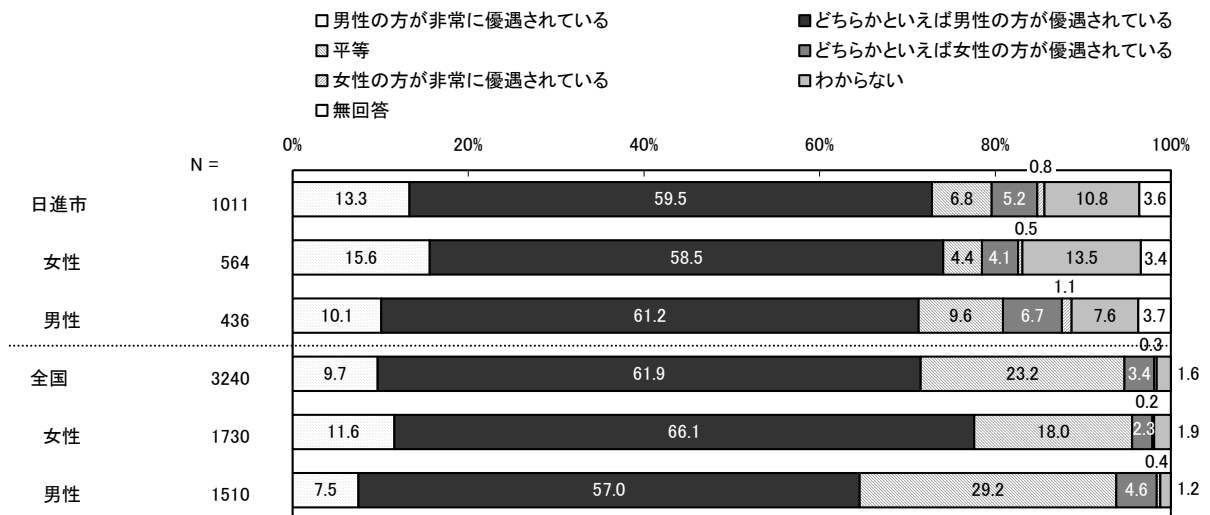
図 44 男女別・性別年齢別・性別業種別にみた社会全体でみる男女の地位について



【国との比較】

- 全国と比較すると、日進市では、「平等」の割合が低くなっています。(図 45)

図 45 社会全体でみる男女の地位について（全国との比較）



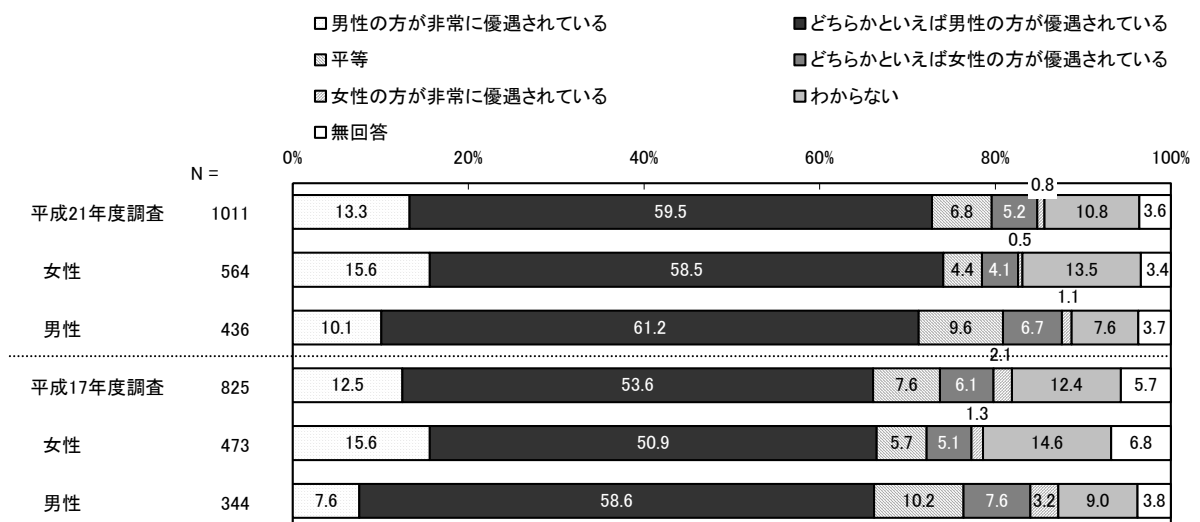
全国：男女共同参画社会に関する世論調査（平成 21 年 10 月）

【前回調査との比較】

- 平成 17 年度調査と比較すると、今回の調査では、「男性の方が優遇されていると感じる人※」の割合が高くなっています。(図 46)

※男性の方が優遇されていると感じる人：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計

図 46 社会全体でみる男女の地位について（平成 17 年度調査との比較）





問 19 あなたは、次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(AからGについて○は各1つ)

- 各分野における男女の地位については、『職場』、『政治の場』、『社会慣習やしきたり』で「男性の方が優遇されていると感じる人※」の割合が高く、6割を超えています。また、『学校教育の場』で「平等」の割合が高く、5割を超えています。(図 47)
- 『学校教育の場』を除いた分野で見ると、女性では、「平等」の割合が3割以下となっており、特に、『職場』、『政治の場』、『社会慣習やしきたり』で約1割と、不平等感が強くなっています。一方、男性では、『家庭生活』、『地域活動の場』、『法律や制度上』で「平等」の割合が3割以上となっており、特に、『法律や制度上』では4割を超えています。(表 12)
- 検定結果をみると、女性では、男性に比べ『政治の場』、『社会慣習やしきたり』で「男性の方が非常に優遇されている」の割合が高くなっています。男性では、女性に比べ『家庭生活』、『学校教育の場』、『地域活動の場』、『法律や制度上』で「平等」の割合が、『職場』、『政治の場』、『社会慣習やしきたり』で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。(表 12)

※男性の方が優遇されていると感じる人：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計

図 47 男女の地位について

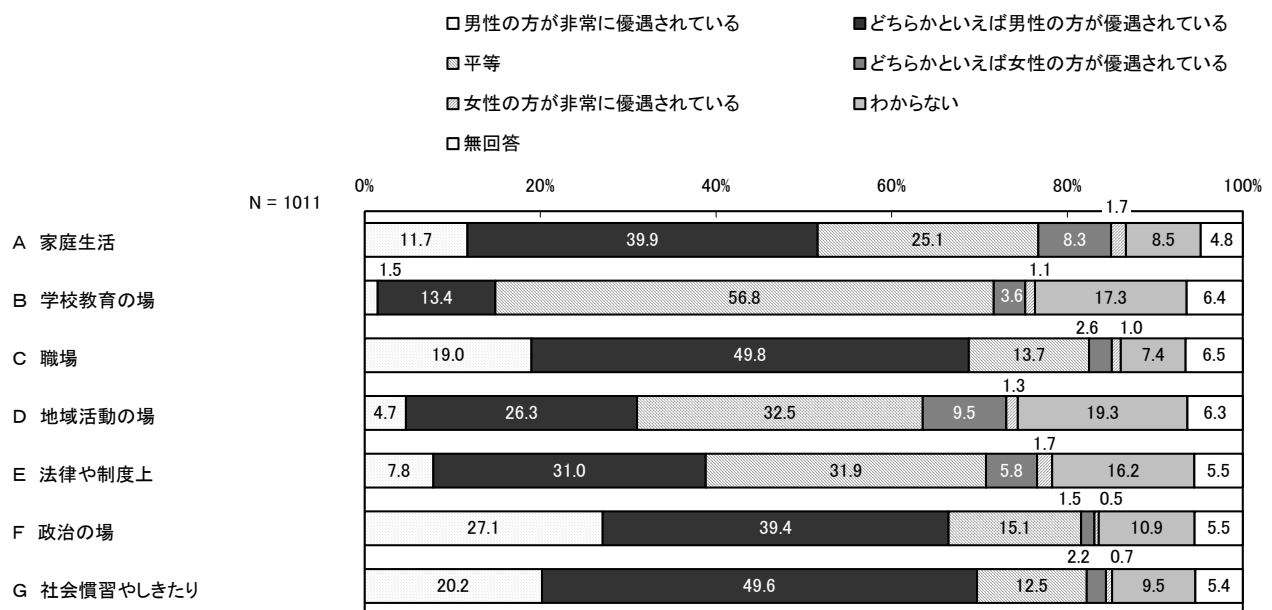


表 12 男女別にみた男女の地位について

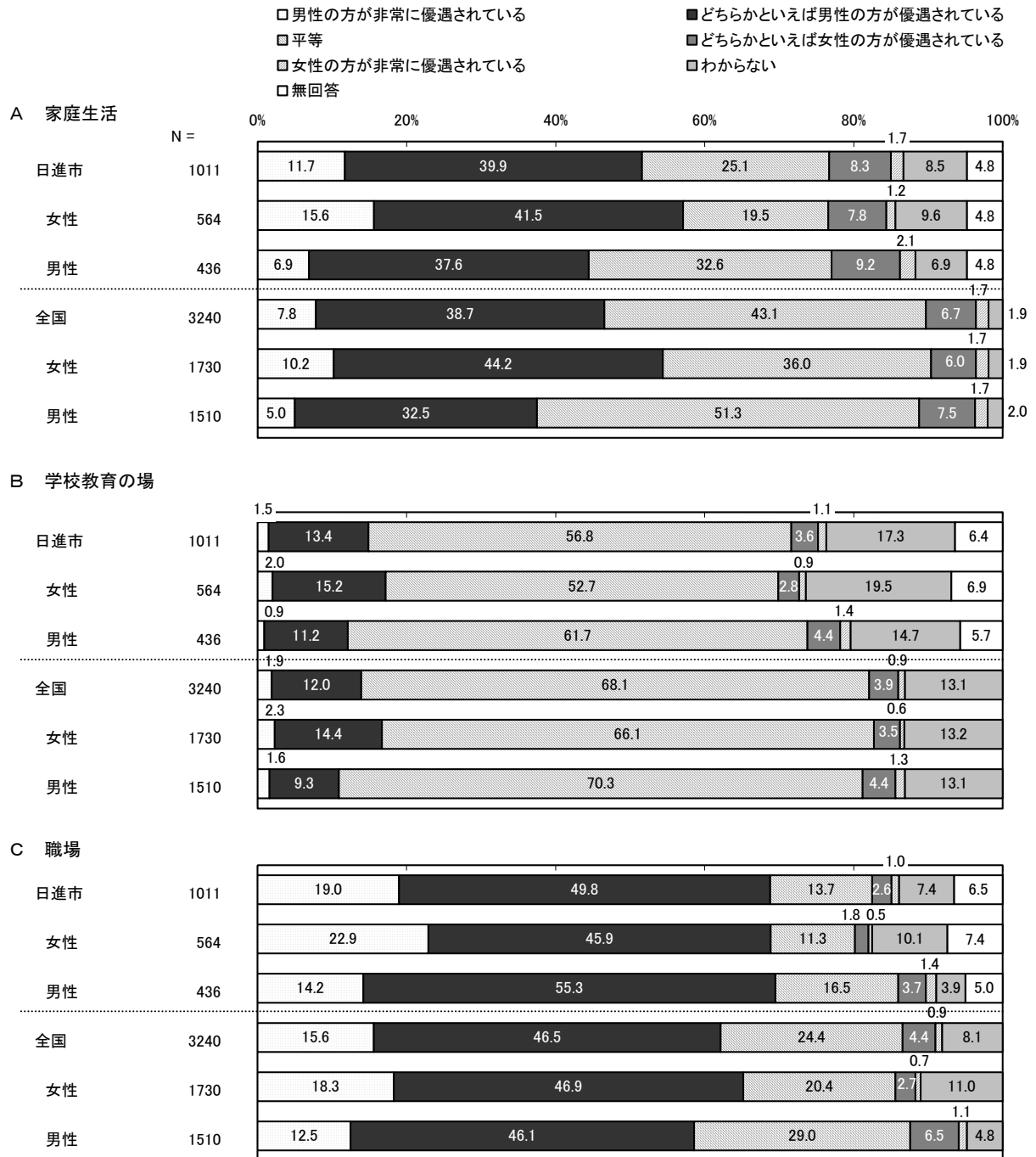
単位：%

	有効回答数 (件)	男性の方が非常に優 遇されている	どちらかといえば男 性の方が優遇されて いる	平 等	どちらかといえば女 性の方が優遇されて いる	女性の方が非常に優 遇されている	わからない	無回 答
<b>A 家庭生活</b>								
①女性	564	15.6	41.5	19.5	7.8	1.2	9.6	4.8
②男性	436	6.9	37.6	32.6 ①	9.2	2.1	6.9	4.8
<b>B 学校教育の場</b>								
①女性	564	2.0	15.2	52.7	2.8	0.9	19.5	6.9
②男性	436	0.9	11.2	61.7 ①	4.4	1.4	14.7	5.7
<b>C 職場</b>								
①女性	564	22.9	45.9	11.3	1.8	0.5	10.1	7.4
②男性	436	14.2	55.3 ①	16.5	3.7	1.4	3.9	5.0
<b>D 地域活動の場</b>								
①女性	564	6.4	28.4	26.8	9.0	0.5	22.2	6.7
②男性	436	2.8	23.9	39.9 ①	10.1	2.1	15.8	5.5
<b>E 法律や制度上</b>								
①女性	564	10.6	33.2	24.8	3.4	0.5	21.8	5.7
②男性	436	4.4	28.4	41.1 ①	8.9	2.8	9.4	5.0
<b>F 政治の場</b>								
①女性	564	35.8 ②	34.9	9.8	0.7	0.2	12.8	5.9
②男性	436	16.1	45.2 ①	22.2	2.5	0.7	8.5	4.8
<b>G 社会慣習やしきたり</b>								
①女性	564	26.2 ②	45.9	10.1	1.8	0.4	10.3	5.3
②男性	436	12.4	55.0 ①	15.6	2.1	1.1	8.7	5.0

【国との比較】

- ・ 全国と比較すると、日進市では、全ての分野で「平等」の割合が低くなっています。(図 48)

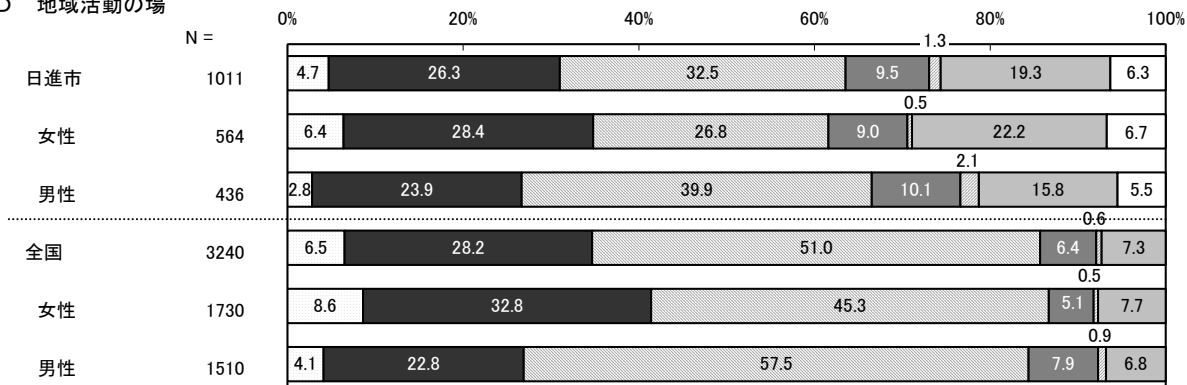
図 48 男女の地位について（全国との比較）



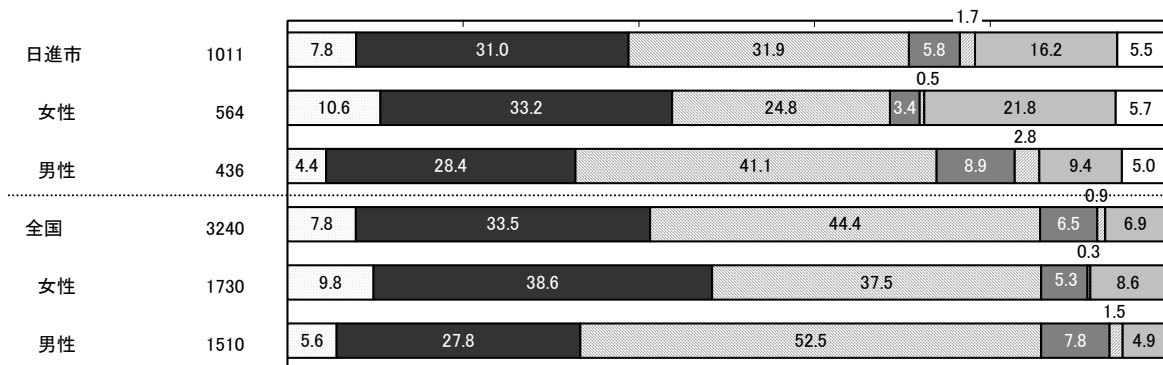
全国：男女共同参画社会に関する世論調査（平成 21 年 10 月）

男性の方が非常に優遇されている  
 平等  
 女性の方が非常に優遇されている  
 無回答
 
 どちらかといえば男性の方が優遇されている  
 どちらかといえば女性の方が優遇されている  
 わからない

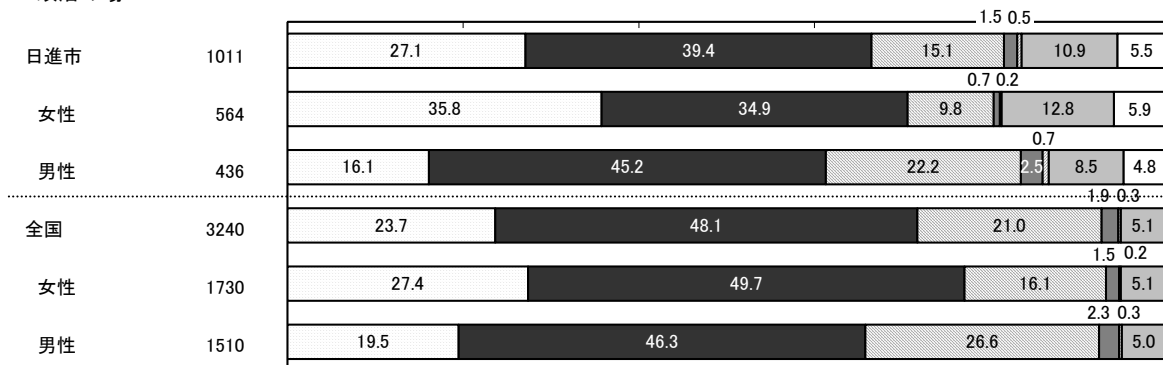
D 地域活動の場



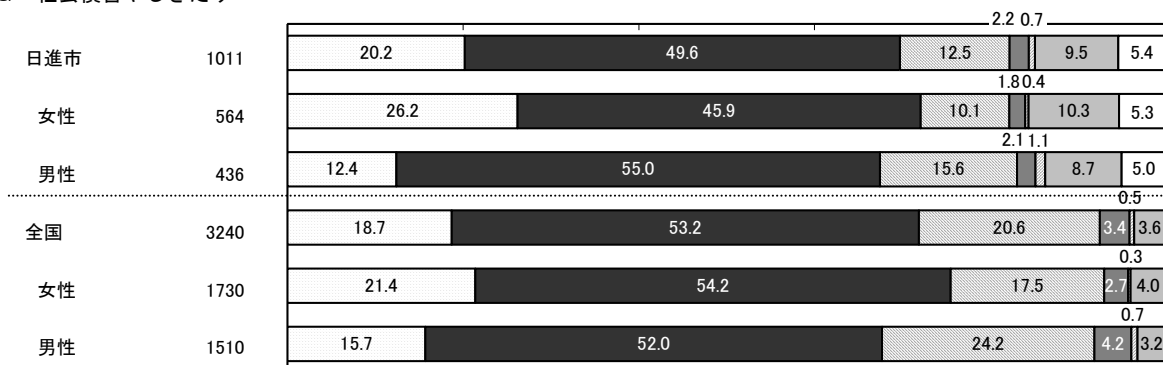
E 法律や制度上



F 政治の場



G 社会慣習やしきたり

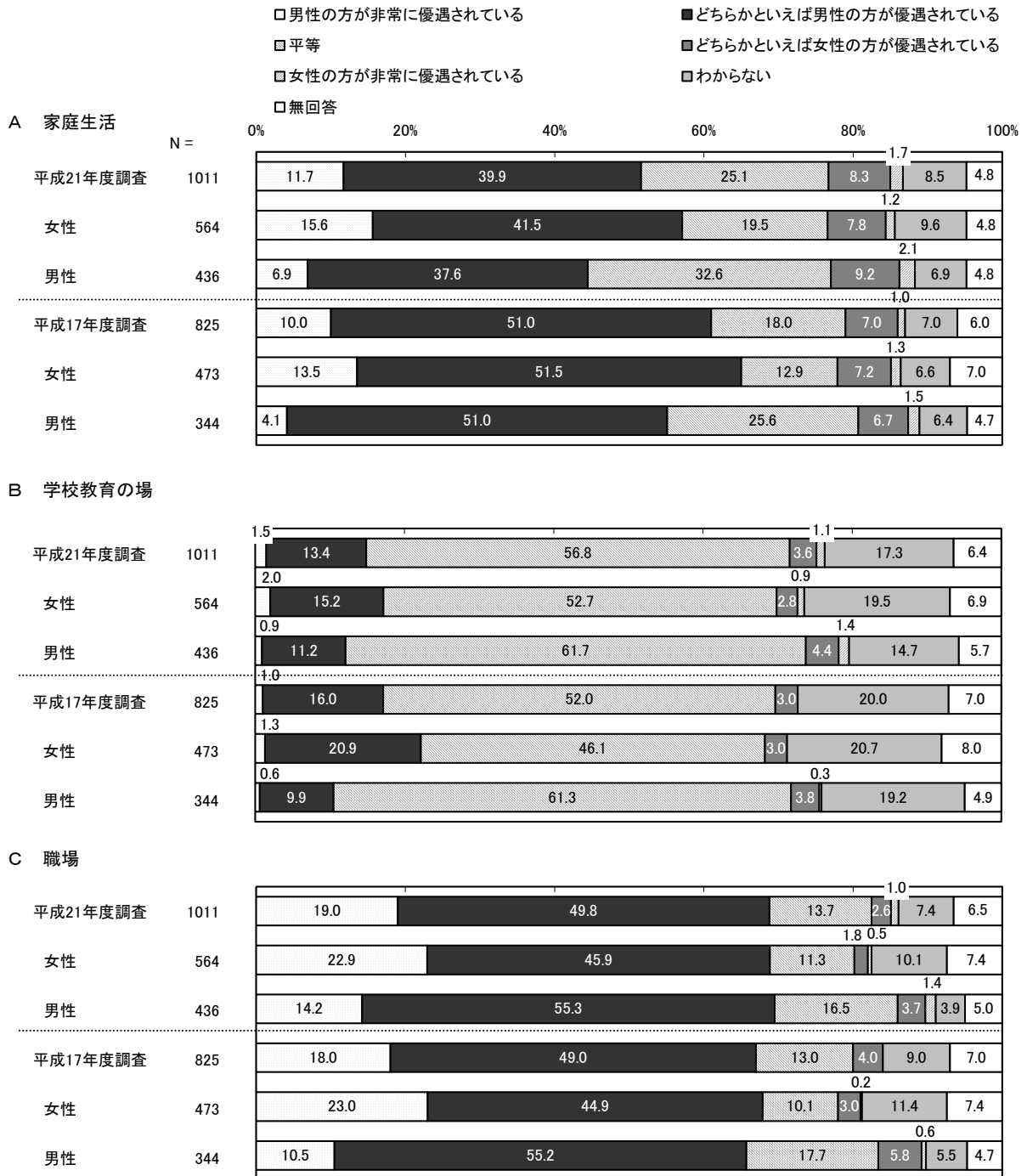


全国：男女共同参画社会に関する世論調査（平成21年10月）

【前回調査との比較】

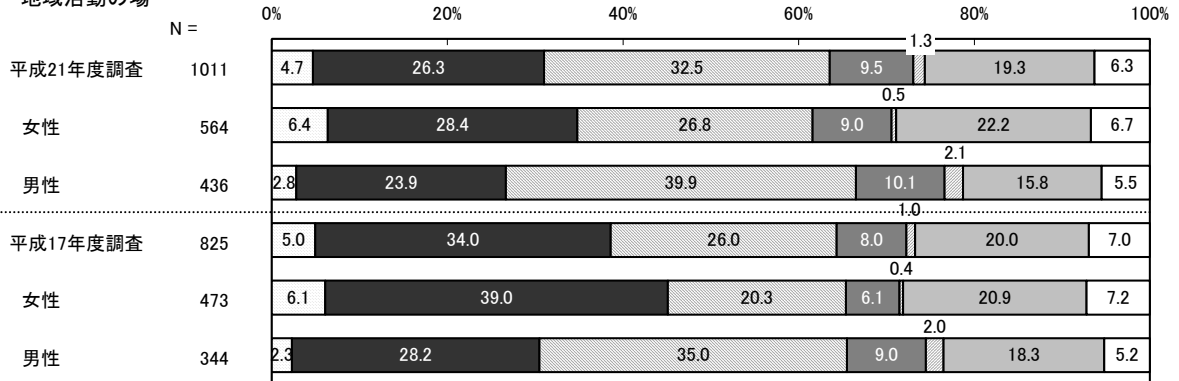
- 平成17年度調査と比較すると、今回の調査では、『政治の場』を除く分野で、「平等」の割合が少しずつ増えています。(図49)

図49 男女の地位について（平成17年度調査との比較）

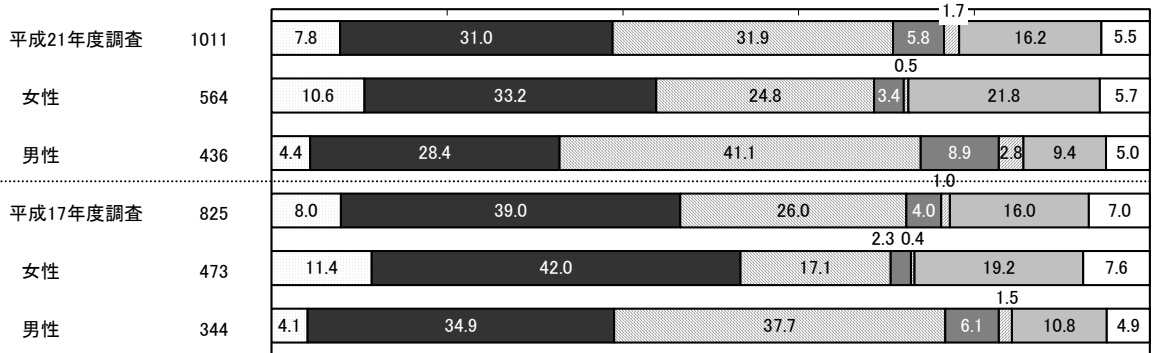


- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

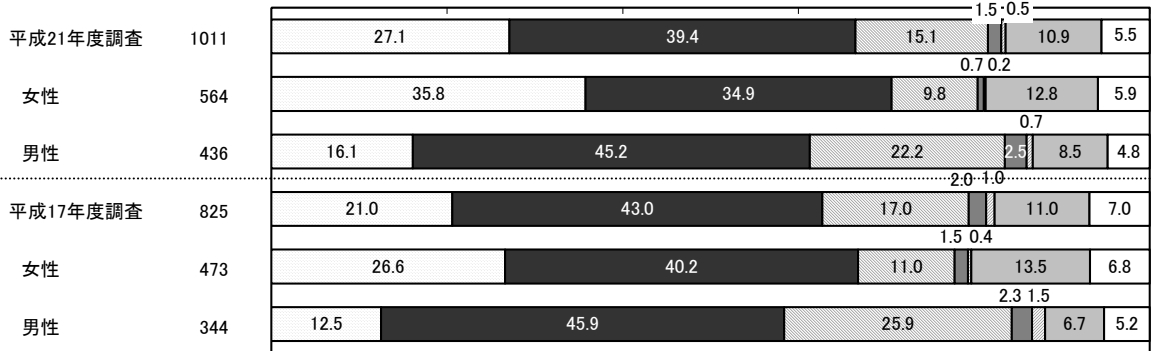
D 地域活動の場



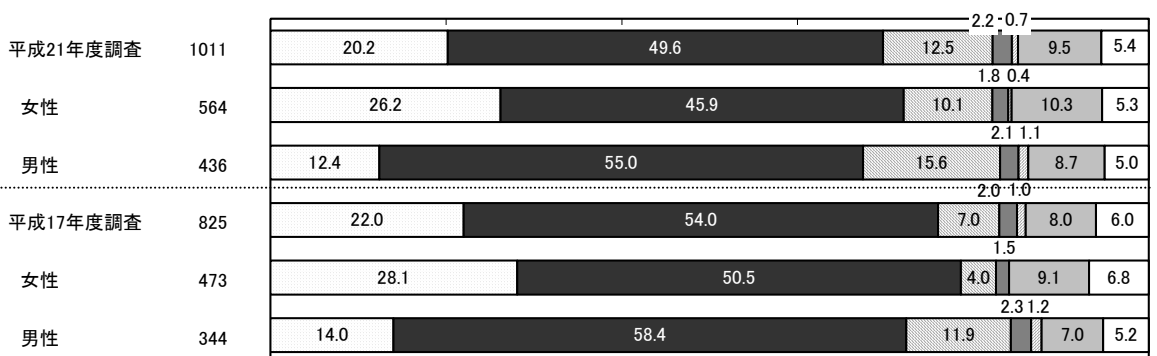
E 法律や制度上



F 政治の場



G 社会慣習やしきたり



**問 20 あなたは、配偶者や恋人から次のような行為を受けた経験はありますか。(○は各1つずつ)**

- DVを受けた経験\*については、『大声で怒鳴られる』、『命令するような口調でものを言われたりバカにされる』で約3割となっています。(図50)
- 『医師の治療が必要となるくらいの暴行を受けた』を除いた項目で見ると、女性では、『大声で怒鳴られる』、『命令するような口調でものを言われたりバカにされる』で約4割、『なぐるふりをされるなどして脅される』、『何を言っても、長期間無視し続けられる』で約2割、その他の項目についても、約1割がDVを受けた経験\*があると答えており、多くの女性が被害を受けています。(図51)
- 一方、男性では、『大声で怒鳴られる』、『命令するような口調でものを言われたりバカにされる』で約2割となっていますが、その他の項目では、1割以下となっています。(図51)
- 性別年代別でみると、女性の40～49歳では、『大声で怒鳴られる』、『命令するような口調でものを言われたりバカにされる』で約5割が経験があると答えています。(表13)

※DVを受けた経験：「何度もある」と「1、2度ある」の合計

図50 DVを受けた経験

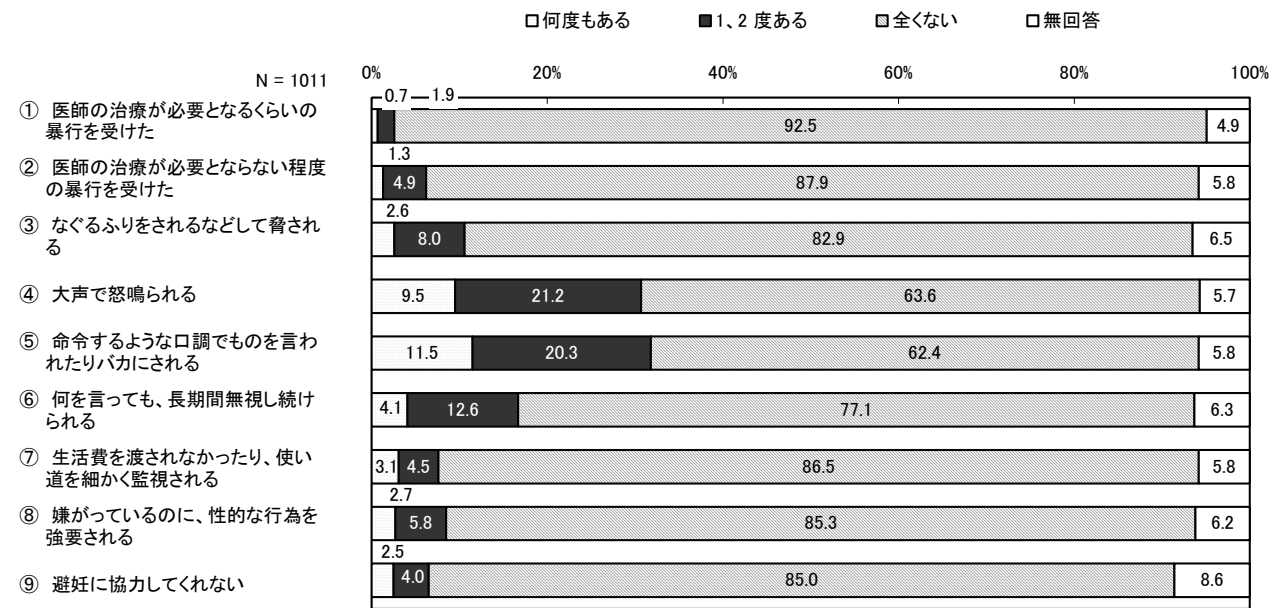


図 51 男女別にみたDVの経験

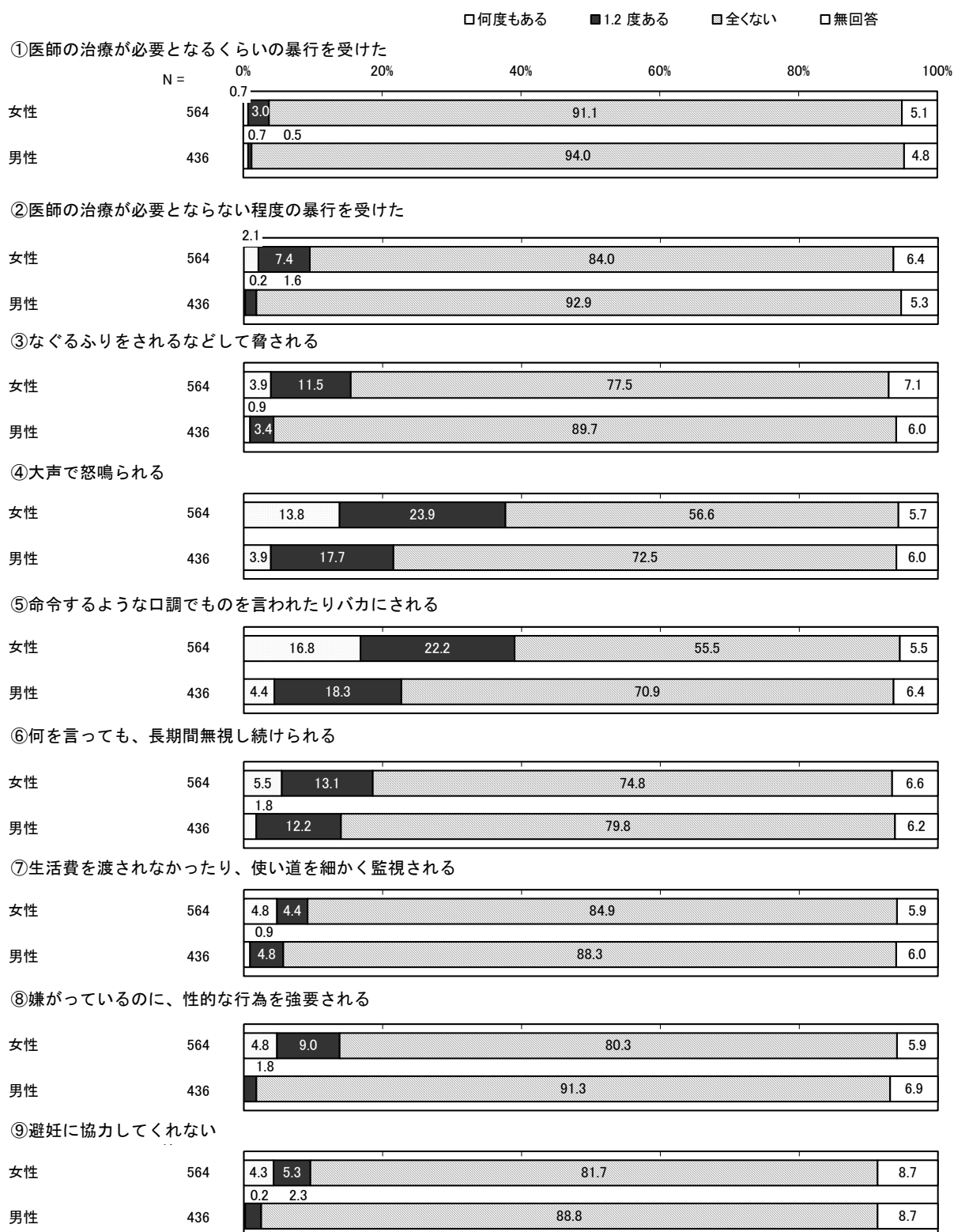




表 13 性別年代別にみたDVの経験

単位：%

	有効回答数 (件)	何度もある	1・2度ある	全くない	無回答
① 医師の治療が必要となるくらいの暴行を受けた					
女性 20～29 歳	61	-	3.3	93.4	3.3
30～39 歳	135	0.7	4.4	93.3	1.5
40～49 歳	102	-	-	100.0	-
50～59 歳	87	2.3	2.3	90.8	4.6
60～69 歳	110	-	3.6	90.0	6.4
70 歳以上	68	-	4.4	75.0	20.6
男性 20～29 歳	37	2.7	-	94.6	2.7
30～39 歳	90	1.1	1.1	95.6	2.2
40～49 歳	77	1.3	-	96.1	2.6
50～59 歳	62	-	-	93.5	6.5
60～69 歳	96	-	1.0	91.7	7.3
70 歳以上	74	-	-	93.2	6.8
② 医師の治療が必要とされない程度の暴行を受けた					
女性 20～29 歳	61	1.6	4.9	90.2	3.3
30～39 歳	135	3.7	5.2	89.6	1.5
40～49 歳	102	-	10.8	89.2	-
50～59 歳	87	3.4	10.3	82.8	3.4
60～69 歳	110	1.8	6.4	81.8	10.0
70 歳以上	68	1.5	7.4	66.2	25.0
男性 20～29 歳	37	-	2.7	94.6	2.7
30～39 歳	90	-	3.3	94.4	2.2
40～49 歳	77	-	2.6	94.8	2.6
50～59 歳	62	-	1.6	91.9	6.5
60～69 歳	96	1.0	-	91.7	7.3
70 歳以上	74	-	-	90.5	9.5
③ なぐるふりをされるなどして脅される					
女性 20～29 歳	61	1.6	13.1	82.0	3.3
30～39 歳	135	2.2	15.6	80.7	1.5
40～49 歳	102	3.9	14.7	81.4	-
50～59 歳	87	6.9	10.3	77.0	5.7
60～69 歳	110	7.3	5.5	77.3	10.0
70 歳以上	68	-	8.8	63.2	27.9
男性 20～29 歳	37	-	2.7	94.6	2.7
30～39 歳	90	2.2	3.3	91.1	3.3
40～49 歳	77	1.3	6.5	89.6	2.6
50～59 歳	62	-	4.8	88.7	6.5
60～69 歳	96	1.0	2.1	87.5	9.4
70 歳以上	74	-	1.4	89.2	9.5
④ 大声で怒鳴られる					
女性 20～29 歳	61	6.6	18.0	72.1	3.3
30～39 歳	135	16.3	17.8	64.4	1.5
40～49 歳	102	16.7	31.4	51.0	1.0
50～59 歳	87	13.8	29.9	51.7	4.6
60～69 歳	110	15.5	23.6	51.8	9.1
70 歳以上	68	7.4	23.5	50.0	19.1
男性 20～29 歳	37	-	8.1	89.2	2.7
30～39 歳	90	10.0	13.3	73.3	3.3
40～49 歳	77	2.6	22.1	72.7	2.6
50～59 歳	62	1.6	21.0	69.4	8.1
60～69 歳	96	2.1	21.9	67.7	8.3
70 歳以上	74	4.1	14.9	71.6	9.5

単位：%

	有効回答数 (件)	何度もある	1・2度ある	全くない	無回答
⑤ 命命するような口調でものを言われたりバカにされる					
女性 20～29 歳	61	13.1	24.6	59.0	3.3
30～39 歳	135	14.8	20.0	63.7	1.5
40～49 歳	102	19.6	27.5	52.9	-
50～59 歳	87	23.0	18.4	55.2	3.4
60～69 歳	110	17.3	24.5	48.2	10.0
70 歳以上	68	10.3	17.6	52.9	19.1
男性 20～29 歳	37	5.4	5.4	86.5	2.7
30～39 歳	90	10.0	14.4	72.2	3.3
40～49 歳	77	3.9	15.6	77.9	2.6
50～59 歳	62	3.2	25.8	62.9	8.1
60～69 歳	96	1.0	20.8	67.7	10.4
70 歳以上	74	2.7	23.0	64.9	9.5
⑥ 何を言っても、長期間無視し続けられる					
女性 20～29 歳	61	-	14.8	82.0	3.3
30～39 歳	135	5.9	14.1	78.5	1.5
40～49 歳	102	4.9	11.8	83.3	-
50～59 歳	87	6.9	18.4	70.1	4.6
60～69 歳	110	6.4	13.6	70.0	10.0
70 歳以上	68	5.9	4.4	63.2	26.5
男性 20～29 歳	37	-	8.1	89.2	2.7
30～39 歳	90	4.4	4.4	88.9	2.2
40～49 歳	77	1.3	16.9	79.2	2.6
50～59 歳	62	1.6	11.3	79.0	8.1
60～69 歳	96	1.0	18.8	70.8	9.4
70 歳以上	74	1.4	10.8	77.0	10.8
⑦ 生活費を渡されなかったり、使い道を細かく監視される					
女性 20～29 歳	61	-	4.9	91.8	3.3
30～39 歳	135	6.7	1.5	90.4	1.5
40～49 歳	102	3.9	4.9	91.2	-
50～59 歳	87	8.0	6.9	81.6	3.4
60～69 歳	110	3.6	6.4	80.9	9.1
70 歳以上	68	2.9	2.9	70.6	23.5
男性 20～29 歳	37	-	-	97.3	2.7
30～39 歳	90	3.3	5.6	88.9	2.2
40～49 歳	77	1.3	7.8	89.6	1.3
50～59 歳	62	-	8.1	83.9	8.1
60～69 歳	96	-	2.1	87.5	10.4
70 歳以上	74	-	4.1	86.5	9.5
⑧ 嫌がっているのに、性的な行為を強要される					
女性 20～29 歳	61	3.3	8.2	85.2	3.3
30～39 歳	135	3.7	8.9	85.9	1.5
40～49 歳	102	5.9	9.8	84.3	-
50～59 歳	87	6.9	10.3	79.3	3.4
60～69 歳	110	4.5	10.0	77.3	8.2
70 歳以上	68	2.9	5.9	66.2	25.0
男性 20～29 歳	37	-	2.7	94.6	2.7
30～39 歳	90	-	2.2	94.4	3.3
40～49 歳	77	-	1.3	96.1	2.6
50～59 歳	62	-	1.6	90.3	8.1
60～69 歳	96	-	1.0	89.6	9.4
70 歳以上	74	-	2.7	83.8	13.5

単位：%

	有効回答数 (件)	何度もある	1・2 度ある	全くない	無回答
⑨ 避妊に協力してくれない					
女性 20～29 歳	61	11.5	6.6	78.7	3.3
30～39 歳	135	5.9	5.9	86.7	1.5
40～49 歳	102	1.0	7.8	90.2	1.0
50～59 歳	87	2.3	6.9	82.8	8.0
60～69 歳	110	3.6	2.7	80.9	12.7
70 歳以上	68	2.9	1.5	63.2	32.4
男性 20～29 歳	37	-	10.8	86.5	2.7
30～39 歳	90	1.1	1.1	95.6	2.2
40～49 歳	77	-	1.3	96.1	2.6
50～59 歳	62	-	1.6	88.7	9.7
60～69 歳	96	-	1.0	85.4	13.5
70 歳以上	74	-	2.7	78.4	18.9

問 20 で一つでも「何度もある」、「1.2 度ある」と答えた方にお聞きします。

問 21 配偶者や恋人からの行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(〇はいくつでも)

- DVの経験が1度でもある場合で、そのことを誰かに相談したかについては、「誰にも相談しなかった」の割合が43.5%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が20.8%、「親や親戚などの身内」の割合が14.3%となっています。(図 52)
- 女性では、「友人・知人」の割合が2割を超えています。男性では、「誰にも相談しなかった」の割合が約5割となっています。(表 14)

図 52 配偶者や恋人からの暴力について相談した先

N = 428

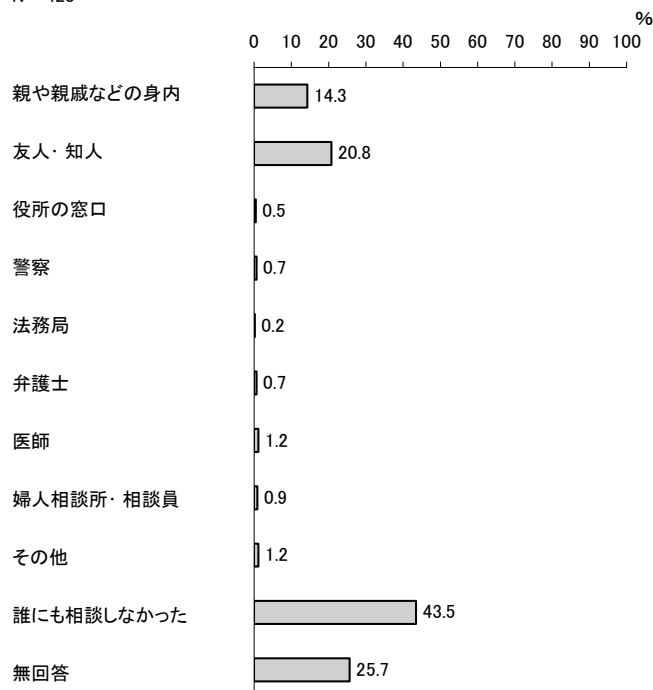


表 14 男女別にみた配偶者や恋人からの行為について相談した先

単位：%

		有効回答数 (件)	親や親戚などの身内	友人・知人	役所の窓口	警察	法務局	弁護士	医師	婦人相談所・相談員	その他	誰にも相談しなかった	無回答
性別	①女性	285	17.9	25.3	0.7	0.7	0.4	1.1	1.4	1.4	1.1	39.6	24.2
	②男性	140	6.4	12.1	—	0.7	—	—	0.7	—	0.7	51.4	29.3

問 21 で「誰にも相談しなかった」と答えた方にお聞きします。

問 22 誰にも相談しなかったのは、なぜですか。(〇はいくつでも)

- DVを受けていることを相談しなかった理由については、「相談するほどのことでもないと思った」の割合が 62.9%と最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思った」の割合が 37.1%、「自分さえ我慢すればよいと思った」の割合が 22.6%となっています。(図 53)
- 男性では、「相談するほどのことでもないと思った」の割合が約 7割となっています。また、「自分にも悪いところがあると思った」の割合が約 4割となっています。(表 15)

図 53 配偶者や恋人から暴力を受けていることを相談しなかった理由

N = 186

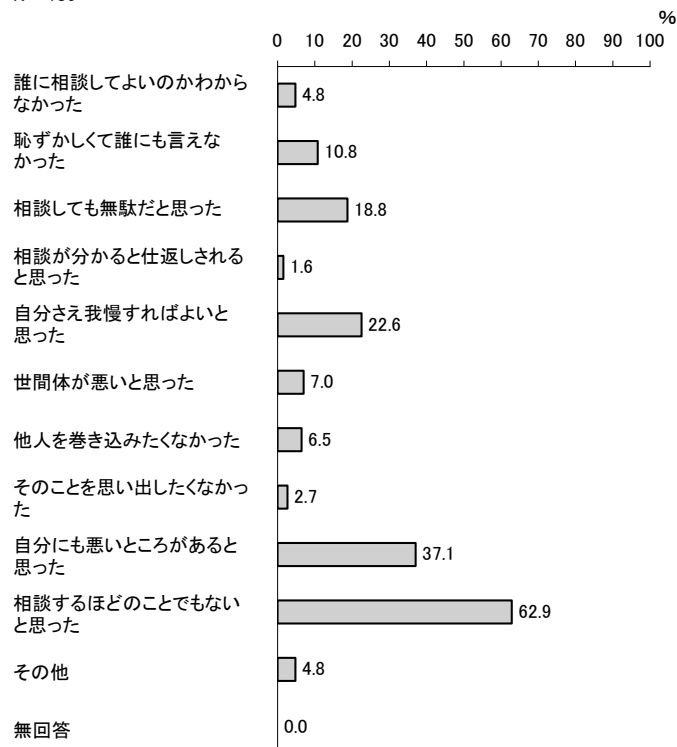


表 15 男女別にみた配偶者や恋人から暴力を受けていることを相談しなかった理由

単位：%

		有効回答数 (件)	誰に相談してよいのかわからなかった	恥ずかしくて誰にも言えなかった	相談しても無駄だと思った	相談が分かると仕返しされると思った	自分さえ我慢すればよいと思った	世間体が悪いと思った	他人を巻き込みたくなかった	そのことを思い出しなくなかった	自分にも悪いところがあると思った	相談するほどのことでもないと思った	その他
性別	①女性	113	7.1	12.4	19.5	2.7	22.1	8.0	8.0	2.7	34.5	56.6	5.3
	②男性	72	1.4	8.3	18.1	—	23.6	5.6	4.2	2.8	40.3	73.6	4.2

問 23 あなたは、セクシュアル・ハラスメントについて、次のような経験はありますか。(○はいくつでも)

- セクシュアル・ハラスメントの経験については、「自分の周りでは被害を受けた人はいない」の割合が 56.8%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 17.2%、「自分が直接被害を受けたことがある」の割合が 9.4%となっています。(図 54)
- 女性では、「自分が直接被害を受けたことがある」、「知り合いの女性が被害を受けていた」の割合が 1 割を超えています。(表 16)
- 検定結果をみると、男性では、女性に比べ「自分の周りでは被害を受けた人はいない」の割合が高くなっています。(表 16)
- 性別年代別でみると、女性の 20～29 歳、30～39 歳、40～49 歳で「自分が直接被害を受けたことがある」の割合が 2 割を超えています。(表 16)

図 54 セクシュアル・ハラスメントの経験  
N = 1011

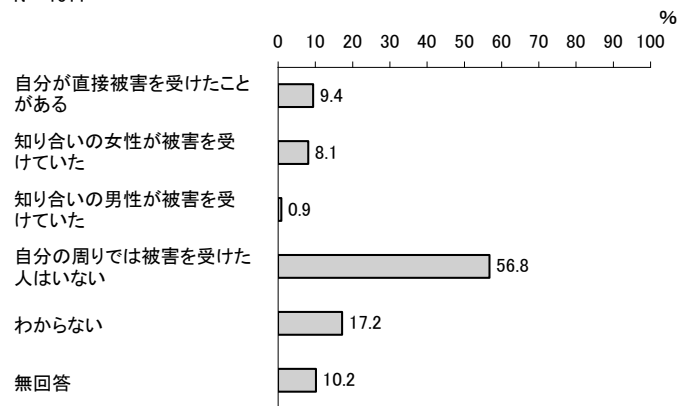


表 16 男女別・性別年代別にみたセクシュアル・ハラスメントの経験

単位：%

性別	有効回答数(件)	自分が直接被害	知り合いの女性	知り合いの男性	自分の周りでは被害を受けた人	わからない	無回答	
		あることが	を受けた女性	を受けた男性	はいない			
①女性	564	15.6	10.3	0.7	51.6	15.1	10.6	
②男性	436	1.6	5.5	1.1	63.1①	20.2	9.4	
性別年代別	女性 20～29 歳	61	29.5	14.8	—	45.9	11.5	6.6
	30～39 歳	135	21.5	15.6	1.5	51.9	14.8	1.5
	40～49 歳	102	24.5	11.8	2.0	55.9	6.9	4.9
	50～59 歳	87	8.0	12.6	—	56.3	18.4	5.7
	60～69 歳	110	5.5	3.6	—	55.5	20.0	16.4
	70 歳以上	68	2.9	1.5	—	38.2	19.1	38.2
	男性 20～29 歳	37	—	5.4	—	75.7	16.2	2.7
	30～39 歳	90	5.6	10.0	2.2	61.1	20.0	3.3
	40～49 歳	77	—	5.2	—	67.5	24.7	2.6
	50～59 歳	62	3.2	3.2	—	54.8	22.6	16.1
60～69 歳	96	—	6.3	2.1	60.4	22.9	10.4	
70 歳以上	74	—	1.4	1.4	64.9	12.2	20.3	

問 23 で「自分が直接被害を受けたことがある」、「知り合いの女性が被害をうけていた」、「知り合いの男性が被害を受けていた」と答えた方にお聞きします。

問 24 被害を受けたのは、どのような場でしたか。(あてはまるものに○)

- ・ セクシュアル・ハラスメントの被害を受けた場所については、「職場」の割合が 84.4%と最も高く、次いで「学校（小・中・高等学校、大学、各種学校含む）」の割合が 9.4%、「地域活動（自治会・町内会、PTA、趣味のサークル活動など）」の割合が 7.5%となっています。（図 55）
- ・ 男性では、「職場」の割合が 9 割を超えています。（表 17）

図 55 セクシュアル・ハラスメントの被害を受けた場所  
N = 160

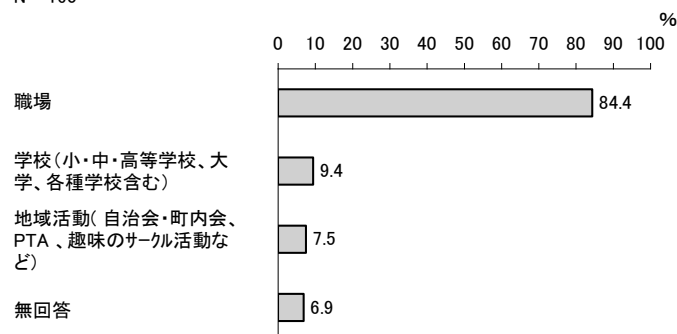


表 17 男女別にみたセクシュアル・ハラスメントの被害を受けた場所

単位：%

性別		有効回答数 (件)	職場	学校(小・中・高等学校、大学、各種学校含む)	地域活動(自治会・町内会、PTA、趣味のサークル活動など)	無回答
②男性	32	93.8	6.3	6.3	—	

問 25 あなたは、パワー・ハラスメントについて、次のような経験はありますか。(〇はいくつでも)

- ・ パワー・ハラスメントの経験については、「自分の周りでは被害を受けた人はいない」の割合が 49.0%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 19.1%、「自分が直接被害を受けたことがある」の割合が 13.1%となっています。(図 56)
- ・ 女性では、「自分が直接被害を受けたことがある」の割合が 1 割を超えています。男性では、「自分の周りでは被害を受けた人はいない」の割合が約 5 割となっています。(表 18)
- ・ 性別年代別でみると、女性の 30～39 歳、40～49 歳で「自分が直接被害を受けたことがある」の割合が 2 割を超えています。また、女性の 20～29 歳、30～39 歳、男性の 30～39 歳、40～49 歳で「知り合いの男性が被害を受けていた」の割合が 1 割を超えています。(表 18)

図 56 パワー・ハラスメントの経験

N = 1011

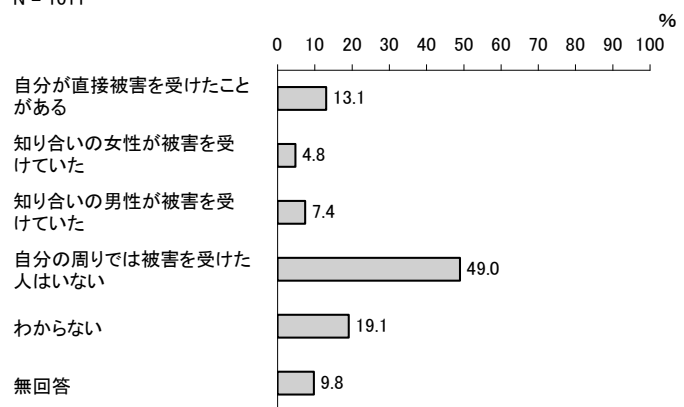


表 18 男女別・性別年代別にみたパワー・ハラスメントの経験

単位：%

		有効回答数 (件)	自分が直接被害を受けたことがある	知り合いの女性が被害を受けていた	知り合いの男性が被害を受けていた	自分の周りでは被害を受けた人はいない	わからない	無回答
性別	①女性	564	15.4	6.6	6.9	46.5	17.9	10.5
	②男性	436	9.9	2.8	8.3	52.3	20.6	8.7
性別年代別	女性 20～29 歳	61	16.4	8.2	13.1	49.2	16.4	4.9
	30～39 歳	135	25.2	8.9	11.9	47.4	11.1	1.5
	40～49 歳	102	21.6	8.8	3.9	52.0	14.7	2.9
	50～59 歳	87	12.6	9.2	9.2	43.7	18.4	9.2
	60～69 歳	110	8.2	2.7	2.7	47.3	27.3	13.6
	70 歳以上	68	1.5	—	—	36.8	22.1	39.7
	男性 20～29 歳	37	10.8	5.4	5.4	59.5	16.2	2.7
	30～39 歳	90	16.7	4.4	17.8	44.4	20.0	2.2
	40～49 歳	77	15.6	2.6	10.4	40.3	28.6	5.2
	50～59 歳	62	6.5	—	3.2	56.5	22.6	11.3
	60～69 歳	96	7.3	4.2	7.3	55.2	20.8	9.4
70 歳以上	74	1.4	—	1.4	63.5	13.5	20.3	

問 25 で「自分が直接被害を受けたことがある」、「知り合いの女性が被害をうけていた」、「知り合いの男性が被害を受けていた」と答えた方にお聞きします。

問 26 被害を受けたのは、どのような場でしたか。(あてはまるものに○)

- ・ パワー・ハラスメントの被害を受けた場所については、「職場」の割合が 94.2%と最も高く、次いで「学校（小・中・高等学校、大学、各種学校含む）」の割合が 6.7%、「地域活動（自治会、町内会、PTA、趣味のサークル活動など）」の割合が 5.4%となっています。（図 57）
- ・ 性別では、大きな差異はみられません。（表 19）

図 57 パワー・ハラスメントの被害を受けた場所

N = 224

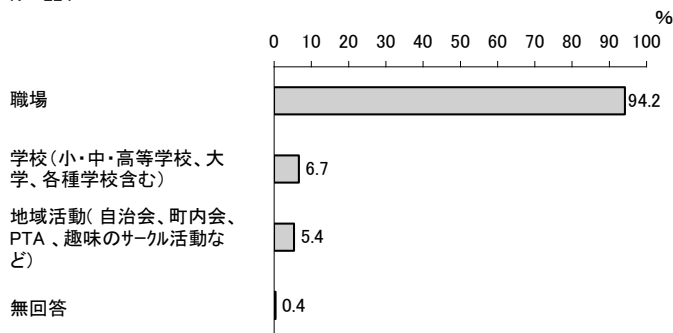


表 19 男女別にみたパワー・ハラスメントの被害を受けた場所

単位：%

性別		有効回答数 (件)	職場	学校(小・中・高等学校、大学、各種学校含む)	地域活動(自治会、町内会、PTA、趣味のサークル活動など)	無回答
②男性	80	96.3	3.8	6.3	—	



問 27 あなたが、女性の人権が尊重されていない、性差別と感ずるのはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

- 女性の人権が尊重されていないと感じるときについては、「職場における固定的な役割分担」の割合が38.3%と最も高く、次いで「家庭における固定的な役割分担」の割合が37.1%、「女性の商品化(ヌード写真、風俗営業など)」の割合が24.4%となっています。(図 58)
- 女性では、「家庭における固定的な役割分担」の割合が約4割となっています。(表 20)
- 検定結果をみると、女性では、男性に比べ「家庭における固定的な役割分担」の割合が高くなっています。(表 20)
- 性別年代別でみると、女性の20～29歳、40～49歳で「家庭における固定的な役割分担」の割合が、女性の30～39歳、男性の40～49歳で「職場における固定的な役割分担」の割合が約5割となっています。また、女性の50～59歳で「女性の商品化(ヌード写真、風俗営業など)」の割合が4割を超えています。(表 20)

図 58 女性の人権が尊重されていないと感じるとき

N = 1011

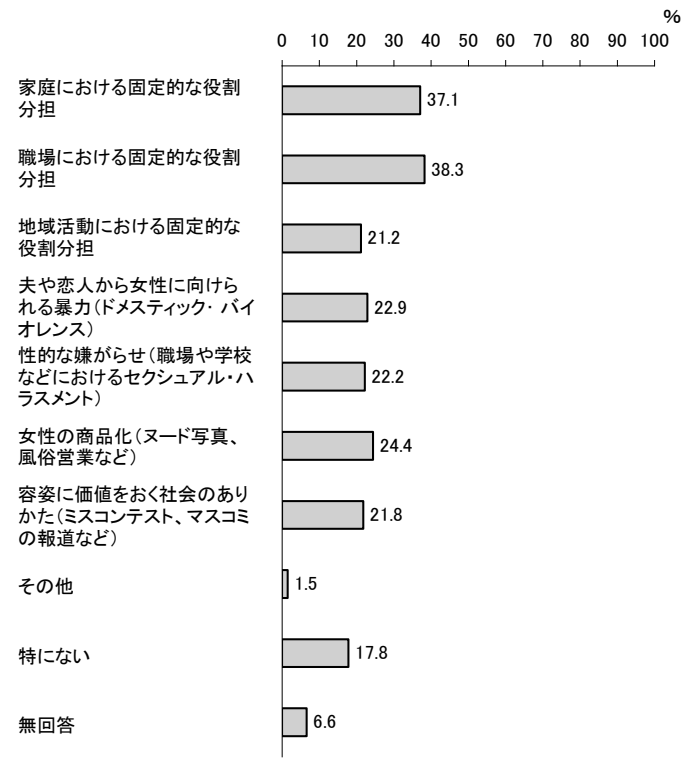


表 20 男女別・性別年代別にみた女性の人権が尊重されていないと感じるとき

単位：%

		有効回答数 (件)	家庭における 固定的な役割分担	職場における 固定的な役割分担	地域活動における 固定的な役割分担	夫や恋人から女性に 向けられる暴力 (ドメスティック・ バイオレンス)	性的な嫌がらせ (職場や学校などに おけるセクシュアル・ ハラスメント)	女性の商品化 (ヌード写真、風俗 営業など)	容姿に価値をおく 社会のありかた (ミスコンテスト、 マスコミの報道 など)	その他	特 に な い	無 回 答
性別	①女性	564	42.7 ②	38.7	23.6	25.9	25.0	28.4	23.9	1.2	13.5	7.4
	②男性	436	30.3	38.3	18.1	18.8	18.6	18.6	19.0	1.6	23.4	5.5
性別年代別	女性 20～29 歳	61	49.2	41.0	18.0	24.6	29.5	18.0	24.6	4.9	11.5	4.9
	30～39 歳	135	42.2	54.1	27.4	34.1	32.6	27.4	21.5	0.7	8.1	0.7
	40～49 歳	102	56.9	44.1	29.4	31.4	28.4	30.4	23.5	2.0	7.8	3.9
	50～59 歳	87	43.7	40.2	27.6	33.3	31.0	43.7	32.2	1.1	8.0	4.6
	60～69 歳	110	35.5	29.1	19.1	20.0	18.2	32.7	25.5	—	23.6	7.3
	70 歳以上	68	27.9	11.8	14.7	2.9	4.4	10.3	16.2	—	25.0	30.9
	男性 20～29 歳	37	40.5	18.9	13.5	29.7	37.8	13.5	16.2	2.7	29.7	2.7
	30～39 歳	90	30.0	36.7	13.3	21.1	20.0	8.9	11.1	2.2	20.0	2.2
	40～49 歳	77	28.6	54.5	15.6	18.2	13.0	9.1	14.3	—	27.3	—
	50～59 歳	62	24.2	38.7	19.4	19.4	17.7	19.4	21.0	1.6	22.6	4.8
	60～69 歳	96	30.2	31.3	26.0	17.7	19.8	32.3	28.1	3.1	22.9	7.3
	70 歳以上	74	32.4	41.9	17.6	12.2	12.2	24.3	21.6	—	21.6	14.9

**問 28 あなたは、ドメスティック・バイオレンス (DV)、セクシュアル・ハラスメント、性犯罪、買売春などを防止するために何が重要だと思いますか。(〇はいくつでも)**

- DV、セクハラ、性犯罪、買売春などを防止するために必要だと思うことについては、「法律・制度の面で見直しを行う（罰則の強化など）」の割合が51.7%と最も高く、次いで「被害者のための相談窓口や保護施設を整備する」の割合が47.7%、「犯罪の取り締まりを強化する」の割合が43.6%となっています。(図 59)
- 女性では、「被害者のための相談窓口や保護施設を整備する」の割合が5割を超えています。(表 21)
- 検定結果をみると、女性では、男性に比べ「捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害者が届出をしやすいようにする」、「被害者のための相談窓口や保護施設を整備する」の割合が高くなっています。(表 21)
- 自分がDV・セクハラ・パワハラの被害を受けたことがある人でみると、「法律・制度の面で見直しを行う（罰則の強化など）」、「犯罪の取り締まりを強化する」、「被害者のための相談窓口や保護施設を整備する」、「捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害者が届出をしやすいようにする」の割合が高くなっています。(表 21)

**図 59 DV、セクハラ、性犯罪、買売春などを防止するために必要だと思うこと**

N = 1011

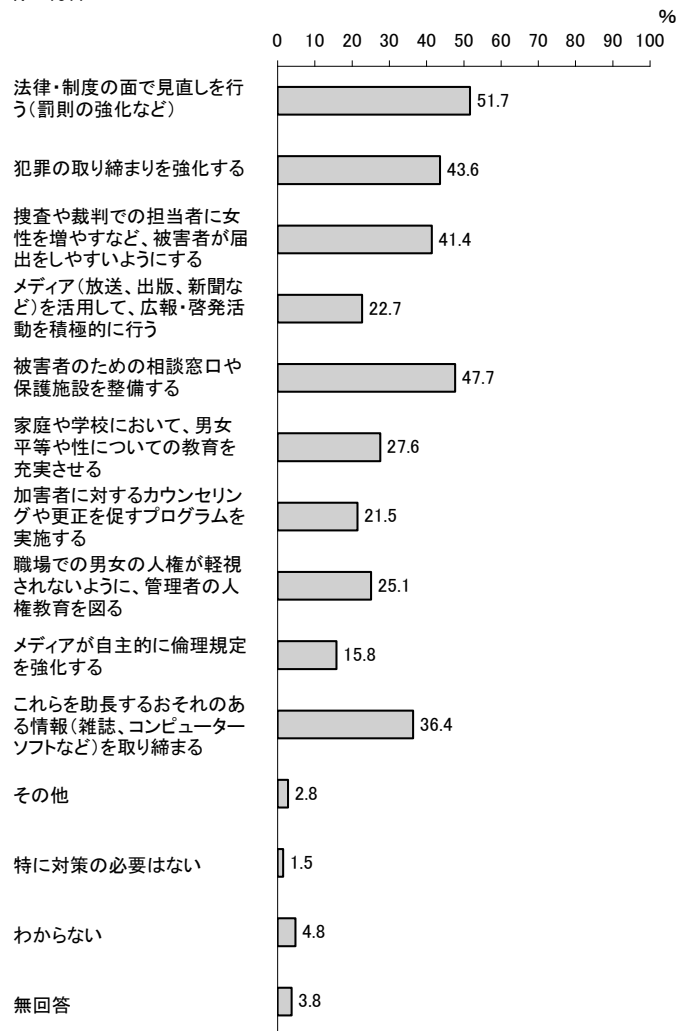


表 21 男女別・DV・セクハラ・パワハラの被害経験別にみたDV、セクハラ、性犯罪、売買春などを防止するために必要だと思うこと 単位：%

		有効回答数(件)	法律・制度の面で見直しを行う(罰則の強化など)	犯罪の取り締まりを強化する	捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害者が届出をしやすくなるようにする	メディア(放送、出版、新聞など)を活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	被害者のための相談窓口や保護施設を整備する	家庭や学校において、男女平等や性についての教育を充実させる	加害者に対するカウンセリングや更正を促すプログラムを実施する	職場での男女の人権が軽視されないように、管理者の人権教育を図る	メディアが自主的に倫理規定を強化する	これらを助長するおそれのある情報(雑誌、コンピューターソフトなど)を取り締まる	その他	特に対策の必要はない	わからない	無回答
性別	①女性	564	53.0	45.2	46.5 ②	22.3	54.3 ②	27.8	25.4	27.0	14.9	39.5	2.1	0.2	5.3	4.3
	②男性	436	50.7	42.0	35.1	23.6	39.7	27.8	16.1	22.5	17.0	32.8	3.2	3.2	4.4	3.0
DVの経験																
何度もある		158	56.3	51.3	46.2	27.8	53.2	31.0	28.5	24.1	15.8	39.2	4.4	1.9	4.4	1.9
1・2度ある		270	53.0	40.7	43.0	23.7	52.2	27.8	21.9	28.9	17.4	40.7	2.2	1.1	5.2	1.1
セクハラの経験																
自分が直接被害を受けたことがある		95	63.2	50.5	54.7	22.1	51.6	32.6	24.2	40.0	18.9	45.3	6.3	-	2.1	-
パワハラの経験																
自分が直接被害を受けたことがある		132	61.4	47.7	53.0	26.5	52.3	24.2	25.0	31.8	22.0	44.7	4.5	2.3	2.3	-

## 6 行政の取組みについて

問 29 あなたは、次にあげる言葉を知っていましたか。(○は各1つずつ)

- 言葉の認知度については、『男女共同参画社会基本法』、『ジェンダー』で「知っていた」の割合が高く、2割を超えています。一方で、『日進市男女平等推進条例』、『日進市男女平等推進プラン』、『ポジティブ・アクション(積極的改善措置)』で「知らなかった」の割合が高く、6割を超えています。(図 60)
- 男女ともに、『男女共同参画社会基本法』で、「知っていた」、「聞いたことはあった」をあわせた割合が5割を超えています。(表 22)
- 検定結果をみると、男性では、女性に比べ『日進市男女平等推進条例』、『日進市男女平等推進プラン』で「知らなかった」の割合が高くなっています。(表 22)

図 60 言葉の認知度

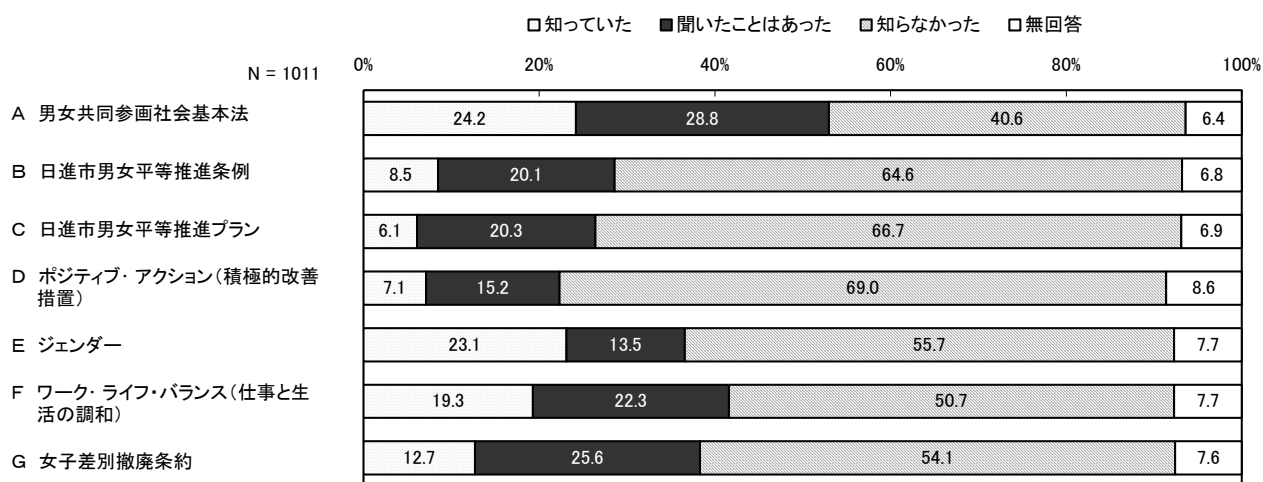


表 22 男女別にみた言葉の認知度

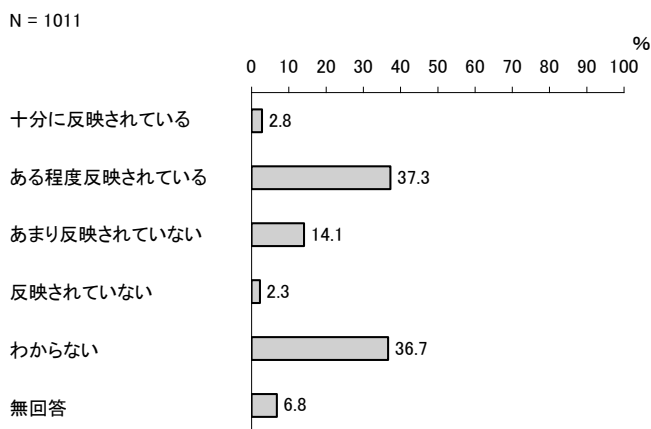
単位：%

	有効回答数 (件)	知っていた	聞いたことはあった	知らなかった	無回答
男女共同参画社会基本法					
①女性	564	22.2	29.1	41.0	7.8
②男性	564	26.6	28.7	40.1	4.6
日進市男女平等推進条例					
①女性	564	9.0	22.9	59.6	8.5
②男性	436	7.8	16.5	71.1 ①	4.6
日進市男女平等推進プラン					
①女性	564	6.9	23.0	61.5	8.5
②男性	436	5.0	16.5	73.6 ①	4.8
ポジティブ・アクション（積極的改善措置）					
①女性	564	6.0	15.4	67.7	10.8
②男性	436	8.5	14.7	71.3	5.5
ジェンダー					
①女性	564	24.8	13.7	52.5	9.0
②男性	436	20.6	13.3	60.3	5.7
ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）					
①女性	564	17.6	20.9	52.0	9.6
②男性	436	21.1	24.1	49.8	5.0
女子差別撤廃条約					
①女性	564	12.1	25.2	53.7	9.0
②男性	436	13.3	26.1	55.0	5.5

問 30 あなたは、女性の意見が、市政に反映されていると思いますか。(○は1つ)

- 市政に女性の意見が反映されていると感じるかについては、「反映されていると感じる人※」の割合が40.1%、「反映されていないと感じる人※」の割合が16.4%となっています。(図 61)
- 女性では、「反映されていないと感じる人※」の割合が約2割となっています。男性では、「反映されていると感じる人※」の割合が約5割となっています。(図 62)
- 検定結果をみると、男性では、女性に比べ、「ある程度反映されている」の割合が高くなっています。(図 62)
- 性別年代別でみると、女性の50～59歳で「反映されていないと感じる人※」の割合が3割を超えています。一方、男性の30～39歳、50～59歳、70歳以上で「反映されていると感じる人※」の割合が5割を超えています。(図 62)

図 61 市政に女性の意見が反映されていると感じるかについて

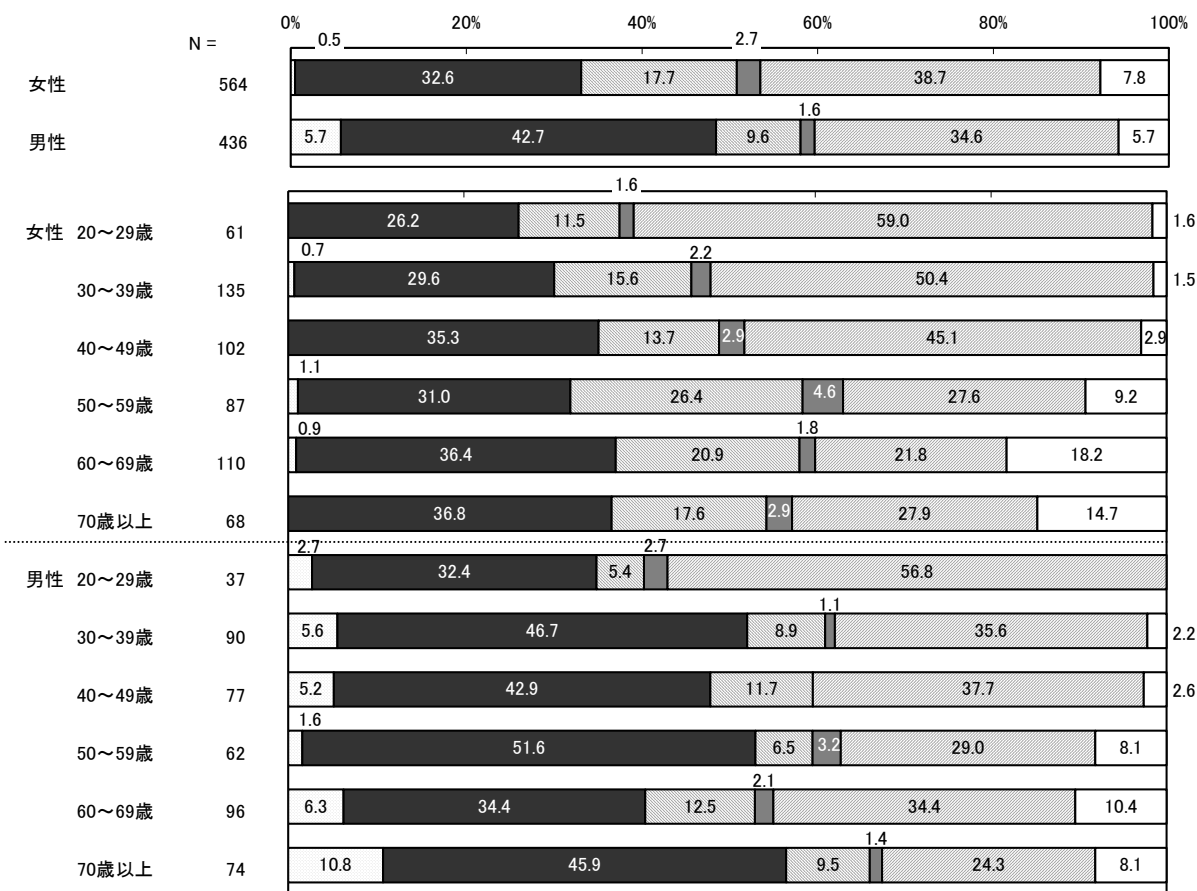


※反映されていると感じる人：「十分反映されている」と「ある程度反映されている」の合計

※反映されていないと感じる人：「あまり反映されていない」と「反映されていない」の合計

図 62 市政に女性の意見が反映されていると感じるかについて

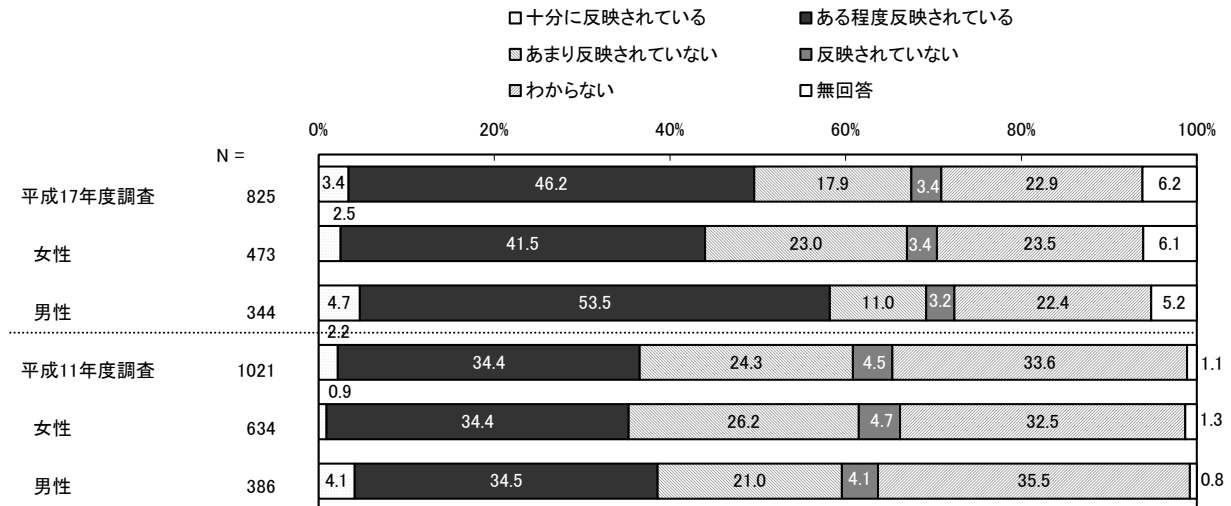
□十分に反映されている      ■ある程度反映されている  
 □あまり反映されていない      ■反映されていない  
 □わからない      □無回答



	有効回答数(件)	十分に反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	反映されていない	わからない	無回答
①女性	564	0.5	32.6	17.7	2.7	38.7	7.8
②男性	436	5.7	42.7 ①	9.6	1.6	34.6	5.7



参考) 市政に女性の意見が反映されていると感じるかについて (平成 11 年度、平成 17 年度調査)



※平成 11 年度調査、平成 17 年度調査では、「反映されていない」という選択肢ではなく、「ほとんど反映されていない」という選択肢となっている。

問 30 で「あまり反映されていない」、「反映されていない」と答えた方にお聞きします。

問 31 反映されていないと思う主な理由は何ですか。(○は 1 つ)

- 反映されていないと思う理由については、「市議会や行政などの政策・方針決定の場に女性が少ないから」の割合が 28.9%と最も高く、次いで「女性の意見や考え方に対して、行政側の関心が薄いから」の割合が 24.1%、「女性自身の関心や意識が薄いから」の割合が 15.1%となっています。(図 63)
- 女性では、「女性の意見や考え方に対して、行政側の関心が薄いから」の割合が 2 割を超えています。男性では、「市議会や行政などの政策・方針決定の場に女性が少ないから」の割合が約 4 割となっています。(図 64)

図 63 市政に女性の意見が反映されていないと思う理由

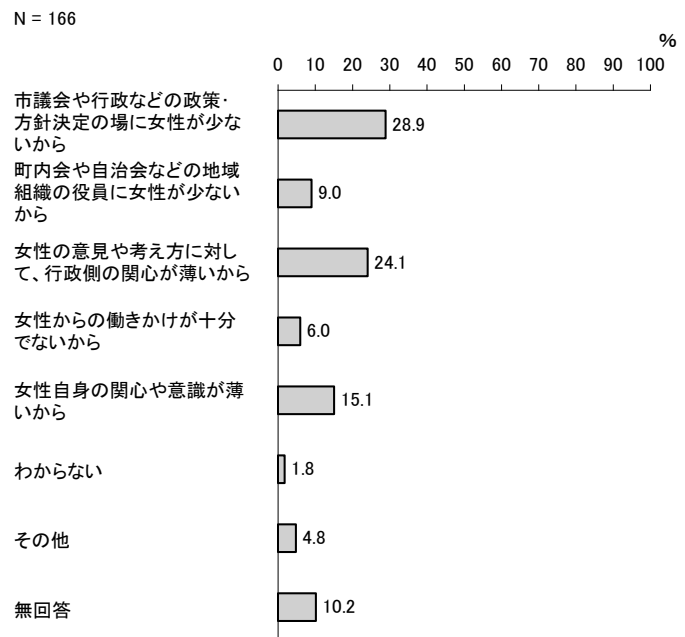
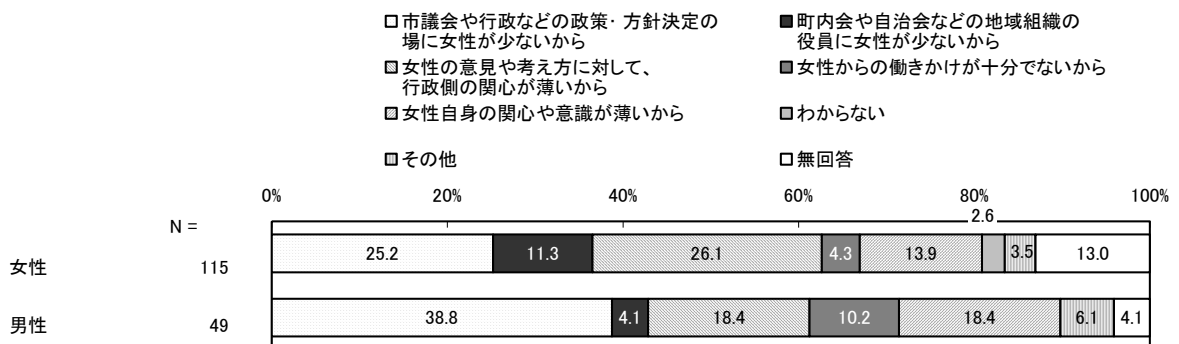


図 64 男女別にみた市政に女性の意見が反映されていないと思う理由



問 32 あなたは、男女平等な社会を推進していくために、行政は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

- 今後、行政が力を入れていくべきと思うことについては、「子育て、介護に関するサービスを充実する」の割合が 51.8%と最も高く、次いで「女性の再就職支援など、女性の就労拡大を図る」の割合が 41.3%、「労働時間の短縮など、男女がともに多様な生き方を選択できる環境を整備する」の割合が 38.3%となっています。(図 65)
- 検定結果をみると、女性では、男性に比べ「女性の再就職支援など、女性の就労拡大を図る」、「子育て、介護に関するサービスを充実する」の割合が高くなっています。(表 23)

図 65 今後、行政が力を入れていくべきと思うこと  
N = 1011

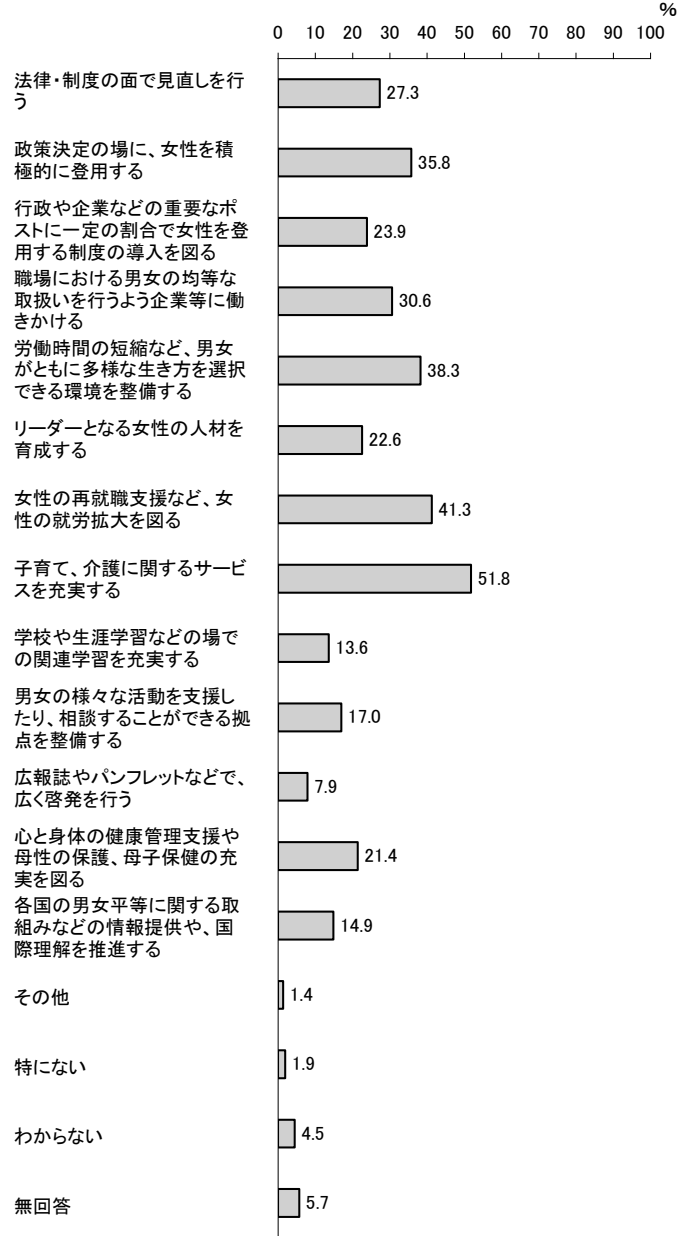


表 23 今後、行政が力を入れていくべきと思うこと

単位：%

		有効回答数(件)	法律・制度の面で見直しを行う	各国の男女平等に関する取組みなどの情報提供や、国際理解を推進する	心と身体の健康管理支援や母性の保護、母子保健の充実を図る	広報誌やパンフレットなどで、広く啓発を行う	男女の様々な活動を支援したり、相談することができる拠点を整備する	学校や生涯学習などの場での関連学習を充実する	子育て、介護に関するサービスを充実する	女性の再就職支援など、女性の就労拡大を図る	リーダーとなる女性の人材を育成する	労働時間の短縮など、男女がともに多様な生き方を選択できる環境を整備する	職場における男女の均等な取扱いを行うよう企業等に働きかける	行政や企業などの重要なポストに一定の割合で女性を登用する制度の導入を図る	政策決定の場に、女性を積極的に登用する	その他	特になし	わからない	無回答	
性別	①女性	564	25.0	35.3	22.5	31.6	41.1	19.9	49.8	57.6	29.8	29.8	29.8	29.8	29.8	29.8	29.8	29.8	29.8	29.8
	②男性	436	30.0	36.7	25.2	29.1	34.9	25.7	29.8	44.3	29.8	29.8	29.8	29.8	29.8	29.8	29.8	29.8	29.8	29.8